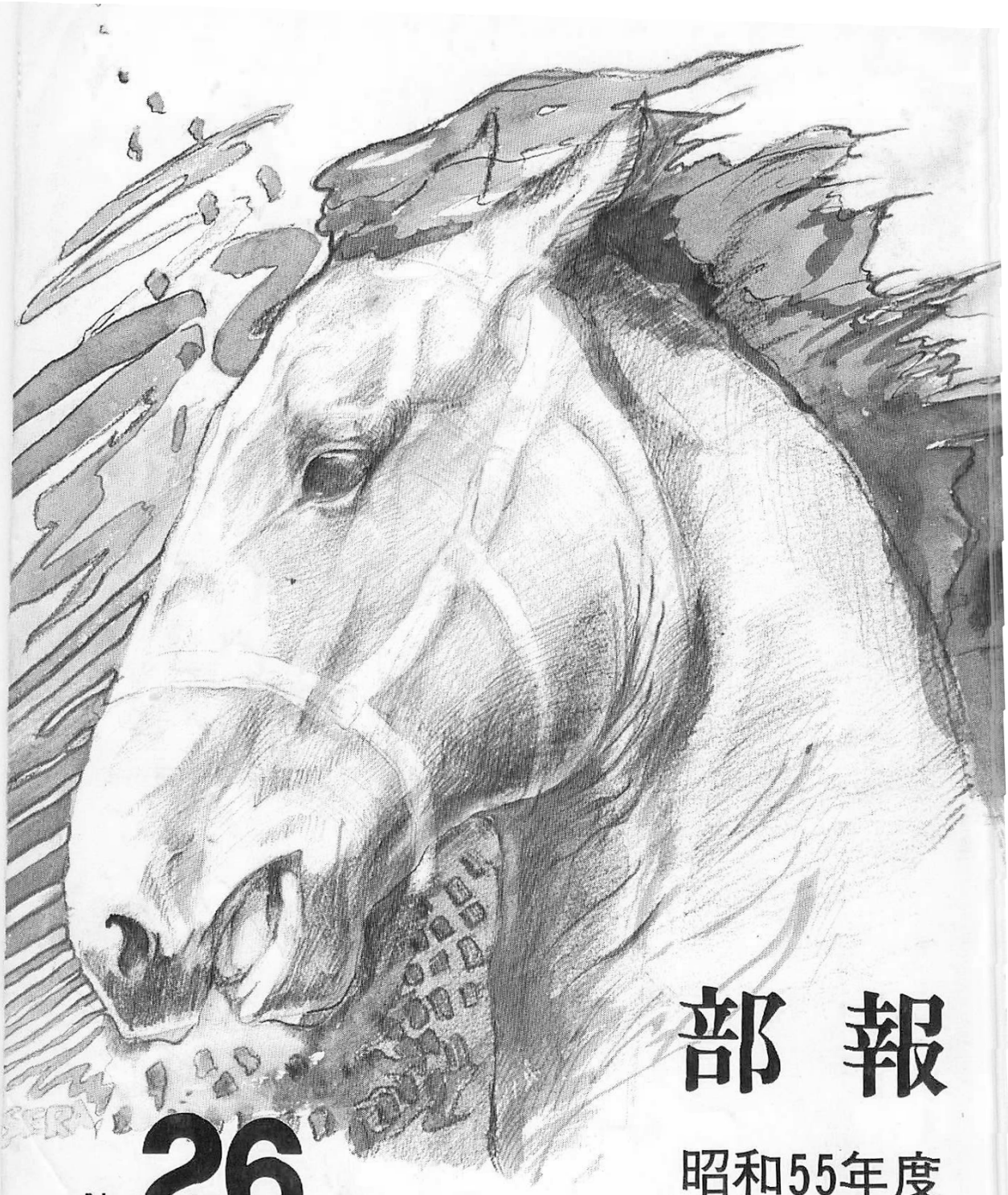


# 部報

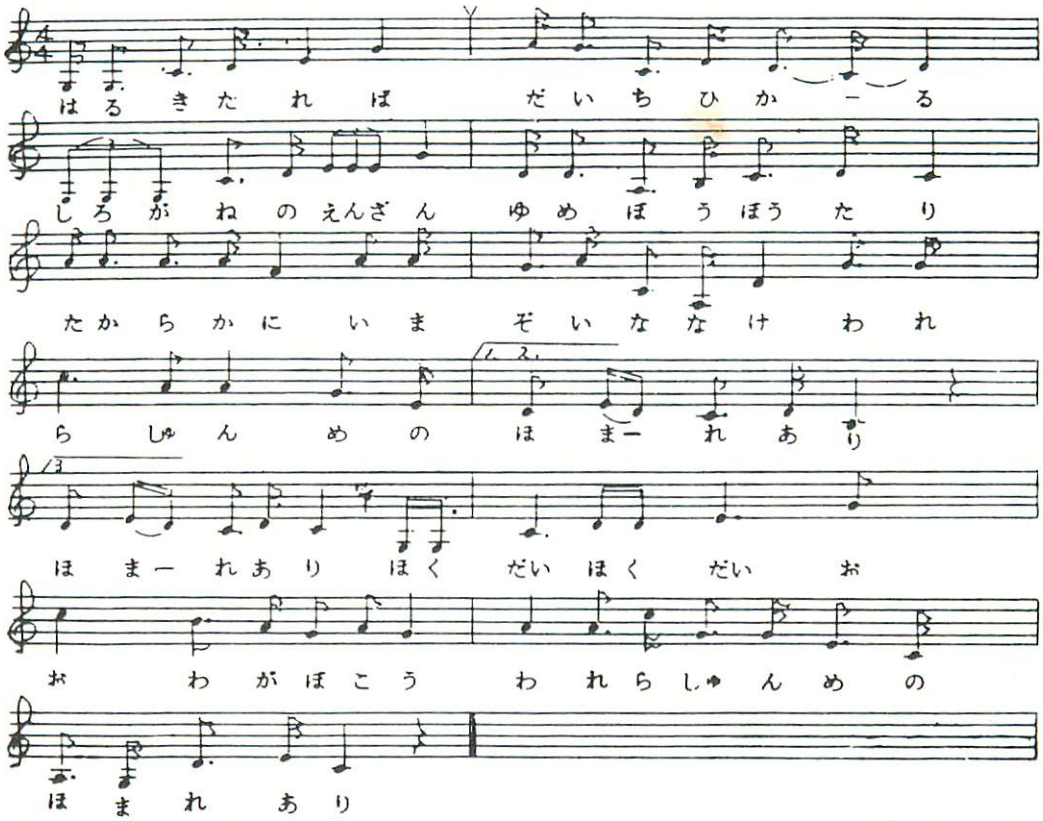
昭和55年度

No. 26

# 北大馬術部

# 北大馬術部讃歌

作詩　三浦　清一郎
作曲　滝沢　南海雄




## 北大馬術部讃歌

一、
春来たれば、大地光る
銀の遠山　夢茫々たり
高らかに　今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

二、
時来たれば　旗をかざせ
青雲の旅路に　意気軒昂たり
高らかに　今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

三、
雲流れて　旅路遙か
青春の孤杖　泥濘はばめど
凜然と　進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり

北大！　北大　おゝ我が母校
われら駿馬のほまれあり

まぶしいほどに輝く太陽
今、二つの生命がひとつになろうとしている
とびちる汗 お前の体が燃えているのが
鞍を通して 俺には はっきりと感じられる
限りなく 濃密な時間
俺の心が おまえに一瞬で伝わるようになる
入場のアナウンス
今や 俺達は ひとつだ
熱き風となり 駆けぬけろ ゴールまで

北畑兄と北騅号（自馬大）

篠田兄と北姫号（公認）

高橋兄とドン・ホッパー号（全日学）

松岡兄と北美号（全日学）

1年目　日高合宿

雪まつり

# 目　　次


巻頭言 …… 部長　小池寿男 …… 1

馳け馬にも鞭 …… 監督　岡田光夫 …… 2

手製の障碍 …… 第六代部長　半沢道郎 …… 4

卒部にあたって …… 元主将　北畑　裕 …… 6

役員報告

主将 …… 三年目　井上　京 …… 7

副将 …… 二年目　斉藤牧人 …… 9

主務 …… 二年目　増田美希夫 …… 9

副務 …… 一年目　高須哲男 …… 10

馬匹 …… 三年目　折橋由美子 …… 10

薬品 …… 二年目　平田委久子 …… 11

飼料 …… 二年目　石井洋行 …… 11

作業 …… 二年目　飯野秀之 …… 11

馬具・備品 …… 一年目　町田雅人　名越正泰 …… 12

文化 …… 一年目　世良健司　佐粧摂也 …… 12

会計 …… 三年目　今　由美子 …… 12

レシート …… 一年目　名越正泰 …… 14

記録 …… 二年目　間正理恵 …… 14

第32回　全日本馬術大会観戦記（感想記） …… 27

第23回　全日本学生馬術大会観戦記 …… 31

国体報告 …… 高橋　均 …… 33

調教報告及び馬匹紹介

スターライト号 …… 四年目　松岡　功 …… 37

疾風号 …… 四年目　北畑　裕 …… 39

ドン・ホッパー号 …… 四年目　高橋　均 …… 41

北楽院号 …… 三年目　井上　京 …… 45

北姫号 …… 四年目　篠田聖児 …… 49

北将号 …… 四年目　高橋　均 …… 50

北 雛 号 …… 四年目　北 畑　裕 …… 54
北 美 号 …… 四年目　松 岡　功 …… 57
北皇子号 …… 昭和55年卒　西 川 理 一 …… 61
北 耀 号 …… …… 64
離 厩 報 告
天龍山号 …… 65
羊 蹄 号 …… 68
スターライト号功労馬表彰 …… 72
水産学部馬術部活動報告 …… 72
先 輩 寄 稿
活動報告 …… （東京ＯＢ会）昭和48年卒　横 山 豊 昭 …… 73
落馬三題 …… 昭和40年卒　植 木 迪 子 …… 76
卒部にあたって
卒部にあたって …… 北 畑　裕 …… 78
我が馬術部生活に悔いあり …… 篠 田 聖 児 …… 78
卒部にあたって …… 松 岡　功 …… 79
現役を退く今 …… 高 橋　均 …… 81
自己紹介・他己紹介 …… 84
名　簿 …… 96

# 巻頭言

部長　小池寿男

この間部報の巻頭言を書いたと思っていたのに、もう今年も三月例年のそれを書く時期になってしまった。一年の経過の早いのに驚いている。年をとったせいかも知れない。

しかし、馬術部のある十八条通りの変化をみると日時の経過したこともなるほどとも思える。馬場・部室周辺以外の曳場運動なども年々その範囲がせばめられ、かつ不自由になっていることに気付く。それは十八条通りの交通量の飛躍的増加も一因になっている。朝夕の通勤時間帯だけでなく日中も車の列がつづき、時には横断するのにも困るほどである。今迄はさいわいにして部馬による傷害事故は生じていないが、毎日の交通量をみていると何時事故が生ずるかと心配である。さらに交通量にともなって部に対する文句も聞かれるようになってきた。例えば曳馬中の馬の排泄物の問題、馬場から帰厩する際の十八条通りを通る問題、馬術部の飼犬が人にほえたことなどとか、山羊の飼育状態に対する動物愛護問題などなどである。

スポーツとしての、また大学の課外活動としての馬術部の効用をけっして否定するものではないけれども、周囲との調和やこころづかいは必要であり、学生だからという甘えはやはりゆるされない。

わが国の学生馬術のはじまりは一八七九年（明治十二年）の学習院での馬術課の設置であるとされている。北海道の馬術については一九〇〇年（明治三十三年）五月に札幌に北海道乗馬協会が設立されたのが近代馬術のはじまりとされ、それから八十年余になる。これからみると、北大の馬術部はその歴史が半世紀におよび、相当に永く、多くの先輩が巣立っていった。しかし札幌市が膨張し、北大自体がその中心近くに包含され、前述のような環境の変化が部活動の面にも大きな影響をもたらしている。

今後の馬術部の運営には、単に馬術の技術的向上のみではなく、部馬の養育、調教は勿論であるが、そのほかに周辺の人々との調和・衛生面についての配慮なども含めて考えていかなくてはならず、なかなか大変である。これも卒業後のことを考えれば一つの課外活動ともいえようが、一層の精励を望むものである。

（昭和五十六年三月）

# 馳け馬にも鞭

監督　岡田光夫

この言葉は、「暮しの中のことわざ辞典（集英社）」の中から拾ったものである。その意味は、強い者には更に力を添へてもっと強くする事を云うと解説されている。我々馬乗りにとって馳け馬にも鞭といえば日曜日毎にテレビで放映される競馬の実況を思い出させる。ゴール近くなってそれこそ精一杯走っている馬に情容赦なく鞭が加へられ、次々にゴール板の前を通過して行く。そして一瞬観衆のどよめきがやみ、外れ馬券の花吹雪が舞う。

昔は無意味な鞭は、鞭を振うたびに騎手の姿勢がおどり、馬の重心と騎手の重心が安定を欠き、馬も又後駆に刺戟を与へられてかへって馬体を凝縮させ馬体の伸びを阻害すると云われていた。ゴールの手前八〇米位で、二、三発鞭を加えて馬に最後のはげましを与へ、そのあとは脚と拳の見事な連繋で、ぐいぐい馬を押し出し、余裕しゃくしゃく、ゴール板を通過する勇姿を見ると、本当にすがすがしい思いがすると同時にその馬に対して底知れぬ力と騎手のすぐれた技術に感嘆するのは私ばかりではないと思う。これが本当の「馳け馬にも鞭」と云う言葉そのものではないであろうか。躍り上る様にして鞭の乱打を加えながらゴール板の前を通過する事が自分の馬に全力を発揮させた証しにはならない。むしろ観客に対する「こび」であると云ったら競馬関係者から叱られるであろうが、私自身そう思っているのだから甘んじてお叱りを受ける心算りでいる。

もっとも競馬にはハンデキャップと云うものがあって、早い馬には負担重量を多くしてなるべく同じ条件で競馬をするように仕組まれているので、ゴール前の接戦は当然であり、従ってゴールの叩き合いは少しでも馬を早くという騎手の心の現われであり、決して必要以上の鞭を加えていないというのが実情かも知れないが、昔かたぎの私には、いつ見てもいたゞけない光景である。

ところで、競馬界だけでなく我々の馬術界でもこの本当の意味でない「馳け馬にも鞭」の光景がしばしば見られるのは、はなはだもって残念な事である。そもそも鞭は副扶助であって馬を動かすのは脚と拳である事は誰しも知っていることである。従って初心者には鞭を持たせないという指導者が多い。鞭を早く持たせると、この肝心の推進の脚と拳がおろそかになってしまうからである。ところがずるい馬によっては鞭を持っただけで易々として騎手の云う事を聞くものだから、どうしても初心者にあきさせない意味からも早く鞭を持たせすぎるようになるのであろう。試合に出場する直前になって鞭を持たせられたばかりに折角馬が順調に障害に向っているのに余計な鞭を使ったために拳がうごき馬の口との連繋がなくなって拒止・逃避の反抗を招くなどという光景はよく見られる所である。これなどは「馳ける馬に鞭」を加えて失敗した例で、「馳ける馬にくつわ」でかえって馬の動きを妨害した事になってしまったのであろう。

鞭には又、懲戒という使い方もある。しかしこの使い方を見てい

ると最後の二、三発は自分の感情で叩いている様に感じられる場合が多い。まして三反抗失権を宣せられてから馬に激しく鞭を加えるに至っては、騎手に一かけらの愛馬心も感じられない。自分の技量をたなに上げて馬を叩くに至っては自馬競技とは名付けられているだけに、一体この騎手は馬術というものをどの様に考へているのであろうかと疑いたくなる。

ちゅうちょする馬に軽く鞭を加えて、むづかしい野外騎乗の障害を人馬一体となって飛越して行くのを見ると、審判をしながら思わず拍手したくなるものである。

鞭は無意味に使うべきものではない。


創造の輪をひろげる

日特建設株式会社

取締役支店長　小池栄一

本社　東京都中央区銀座8丁目14番14号
☎(03)542—9111(大代)

札幌支店　札幌市中央区南13条西11丁目1251番地
☎(011)561—5326(代)

旭川営業所　旭川市2条通り9丁目 士別信金ビル
☎22—1416(代)

苫小牧営業所　苫小牧市新中野町3丁目1番12号川端ビル
☎34—4210(代)

函館営業所　函館市五稜郭町1番13号 協栄生命ビル
☎(0138)55—5654

# 手製の障碍

第六代部長　半沢道郎

私が昭和四十八年四月に北大を定年退職したとき、第四代部長の太泰先生の太泰杯に倣って半沢杯を馬術部に寄贈した。部ではその年の五月に私の退官を記念して、半沢杯記念馬術大会を開催して下さった。次来毎年五月のゴールデン・ウィークに他の大会に先駆けてこの行事を催し、札幌近郊の馬術同好者が参加して盛大な競技会になって、今年で第九回を数えることになった。太泰林の記念大会が第三回で中断されていたので、半沢杯の第四回の時から合併して太泰杯・半沢杯記念馬術大会となり、河田第七代部長が酪農学園大学に転出された年から河田杯を加えて、三部長杯の記念大会となった。

私の寄贈した半沢杯そのものは誠に貧弱の品であるが、この行事が続けられ、年毎に優勝された方の手に渡り、カップに記名された紅白のリボンが数を増すようになって、何となく威厳が備わって、重味が加わったように見え、この記念大会を開いて下さる馬術部の諸君や、わざわざ参加して下さる同好の士のご厚意が身に浸みる思いです。

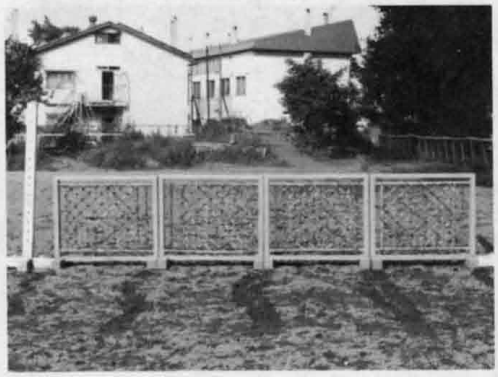
確か第二回の大会の時だったと思いますが、皆様のご厚意を感謝する微しに手製の障害を寄贈する事を思い着き、その年は時間が無かったので近所の大工さんに三組の衝立障害を作製して貰い、翌年から材木その他の材料を購入し、わが家の軒先で切削、鉋かけ、組立て一切をやり、その後ペンキ塗りが出来る程度の荒鉋かけだけを近所の建設会社の工場でやって貰って切削は自分でやっていましたが、この頃は大きく切るところを工場で揃えて切って貰って、細かい切削　組立てを自分でやる様に段々手を抜く様になってきました。

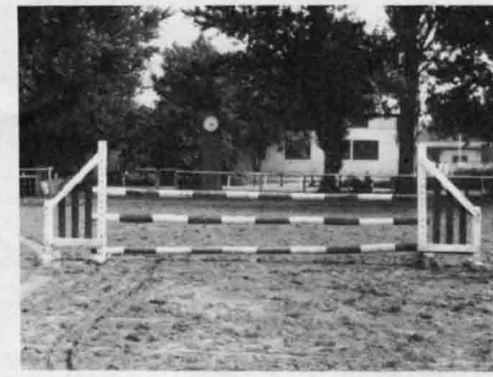
バーは丸太の専門店から定尺に切って皮を剝いだのを直接馬場に届けて貰って、ペンキ塗りは部員諸君にお願いして来ました。支柱の下のパイプの金具や特別の蝶番い等は鉄工所に註文して作製普通の留金やボールト・ナッツ・アングル螺子釘等は金物屋で求めて来ました。バーをかけるフックは蹄鉄屋の太田さんの厚意で無料で作って頂いています。

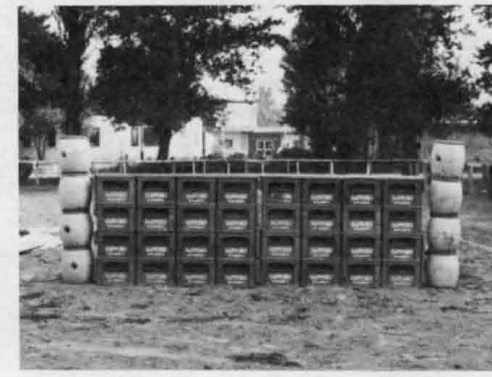
毎年、今年はどんなものを作製しようかと楽しみにしていますが頑丈で、安上りで、新奇なものをと、何かいいものが無いかと探し廻わるのも面白いものです。馬術書や馬の本の障害の辞典や記事を参考にしますが、余り変ったものが出来ません。

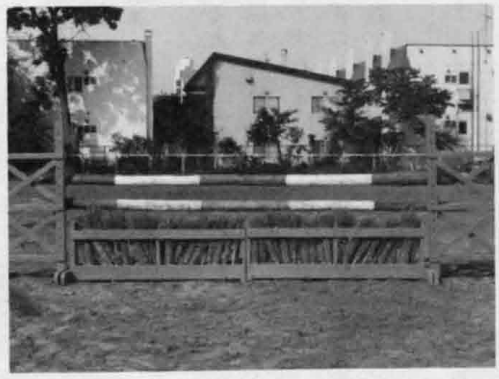
私の傑作はサッポロビールの赤いプラスチックの函を四つ並べて木の貫を入れて作ったもので、材料はビール会社から寄贈を受けたので只で、材料費は木材と釘だけでした。すぐ壊われるだろうと思ったのが案外丈夫で、使い方もいろいろ出来て、我乍らなかなか良いではないかと考えています。会社の商品の宣伝広告になるので校庭の馬場に置くのは如何かと考えたのですが、城戸俊三先生に伺ったところ一向差支えが無いとのことでもあり、F・E・Iでも許しているので、安心して居ります。昨年私の出た理学部の化学の同窓会で会誌の広告料を集めることを頼まれ、札幌ビール会社に行き、支店長にこの障害の写真を差上げ日頃の協力を理由に、冷夏で売れ行きが悪いのでと云われるところを一昨年並みに頂いて来たのも楽しい思い出です。

既に壊われかけたのもありますが、修理をして少しでも長く愛用して頂き度いものと念願して居ります。（昭和五十六年五月）









# 卒部にあたって

卒部生代表　北畑　裕

この度、四人の卒部生が誕生することになりました。在部中は、小池先生はじめ、諸先輩方、又他の馬術関係者の方々にお世話になり、又御迷惑をおかけしました。失礼ながら、この紙面をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

現在、馬術部には計十頭の馬がおり、内七頭は中竪、あるいは古馬。内三頭が新馬と言えるでしょう。新馬は、北雛・北皇子・北耀で、他七頭が前者の部類に入るでしょう。

まず、中竪、古馬のうち、スターライト、疾風はかつての力はもはやなく、北姫、北将は今一つ安定しておりません。いずれもよくなったり悪くなったりで、このままでは両馬とも陽の目を見ないで終ってしまう可能性さえあります。特に、第二のスターライトとして期待されている北姫号は、その生来のバネと卒直さを発揮できずに終ってしまいそうな気配さえあります。

一方、新馬は順調に伸びてきている北皇子号、北耀号、特に北耀号の能力には、将来北大の看板馬となるべく素質を見うけられます。そうして、北雛号は、その調教上の失敗もあり、今一つでありますが、当馬の成育過程を見るならば、そんなに焦らない方がよいかもしれません。しかし、学生に乗りやすい馬でしょう。

昨年の戦績を振り返りますと、中障碍のゴールを切ったのは、ドンホッパー、北楽院、北美、北耀の四頭と少ないが、総合では、以上の四頭のほかに、北将、北姫と合わせて六頭で、他に北皇子号もそのレベルに確実にあると言えましょう。他三頭は、昨年小障にデビューした北雛と、故障等の理由で競技に使わなかったスターライトと疾風ですから、そう悲観することもないようです。

現役部員の数は、そんなに多くはないけれども、三、四年生計八人は、単純に人数と頭数だけを考えますと、ちょうどよい人数と言えるでしょう。

現役部員は、クラブを大きくとらえ、全体をよく把握して頑張って下さい。

デザインから製品まで

株式会社 札幌メダル商会

中央区北一条西三丁目☎二二一—八一四一
ススキノ営業所
中央区南四条西三丁目☎二五一—〇八九六

# 役員報告

## 主将

井上　京

部員数二十八名、馬匹数十頭という我が北大馬術部も、もうすぐ全日学予選を迎える時期となった。夏の本番を前に、ここで新たに部の現状を見つめなおし問題点ならびにこれからの課題を、反省を込めつつ述べてみたい。

最上級生三名という異状な事態は、様々な面で部員に負担をかけている。なんといっても影響力が小さい。体を張ってもっと大きな声を張り上げねばならない。昨年九月各役職を決めるにあたって、従来三、四年目でほとんどこなしてきた役職を、今年は二年目全員にも振りあて、クラブ運営に支障を来たさないようにするのはもちろん、今年の経験が来年、再来年に生きてくることを希んでいたのだが、いきなり義務と責任だけを負わされては負担に思うのみで、あまり建設的でない。もっともっと適切なアドバイス、援助が与えられてこそ経験が生きてくると思う。義務的にこなしがちな各役職であるが、細やかな気配りと創意・工夫によりクラブ内のマンネリや井の中の蛙的な物の見方を打ち崩していかねばならない。

練習においても同様で、もっと適切な注意なり助言なりを与えられればよいものが、どうしてもチーフに任せっきりになってしまう。大事なことは部員どうし切磋琢摩してお互い啓発されねばならないということであろう。

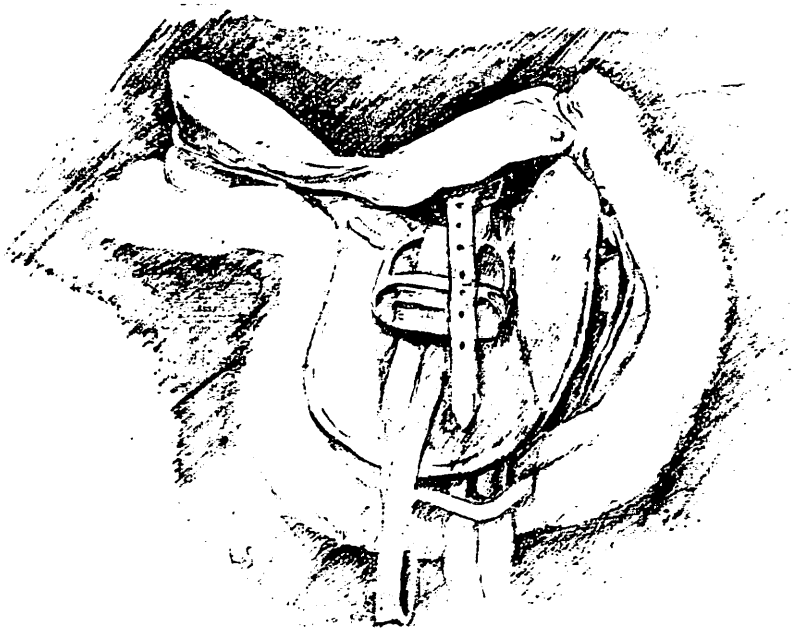
もう一点練習ならびに馬の調教に関して感じることは、今私なり部員が頭の中に描いている理想的な乗り方や馬の動き、それから調教の方針と、現在我が部で毎朝繰り返してやっていることに、どれほど開きがあるだろうか。過去「自然馬術」とか「イタリー式」という考え方に立って体系だてて行われていたはずの障害馬調教が、最近みかけだけはやろうやろうとするものの、ほとんど実を伴わないようになっているのではないか、ということである。自馬制をとって丁寧にやっているようでありながら馬はなかなか変っていかない。乗っている部員は毎日の練習でその微々たる変化に一喜一憂しているという状態である。障害馬としての理想なり調教方針なりを貫ぬく信念となるものが現役部員にはわからない、あるいは曖昧模糊としていると思えるのである。また、たとえそういうものをもっていたとしても具体的に成し遂げる精神力や技術ということになると、もう大変おそまつだと言わざるを得ない。馬術部四年間で一応馬に乗れるようになるためには今のままでは物足りなく、在り来たりなことだが、部員の一層の探求心と努力によらねばならない。

その他馬体管理や部の運営面で改善すべき点、また少しの努力で改善される点は多々あろう。特に放牧中の馬の怪我が多く、そのために遠征に行けなくなった馬、長期間馬休となった馬が最近多いことなど、自らの手で養っている我らの馬達を、生かすも殺すもすべて我々部員一人一人の気構えにあるということを新たに自覚したい。

たえず見守って下さる半沢先生・小池部長・岡田監督をはじめ、OBの方々、またいろいろな面で御援助下さる様々な方々に厚く御礼を申し上げるとともに、これからも北大馬術部をどんどん御批判御指導下さるよう切にお願い申し上げます。

# 昭和56年度　競技予定

| | |
|---|---|
| 5月4日 | 第九回半沢杯・太秦杯・河田杯記念馬術大会（於北大） |
| 5月23・24日 | 第一〇回北海道自馬馬術大会（於酪農学園大学） |
| 5月31日 | 対酪農学園大学定期戦（於酪農学園大学） |
| 6月27・28日 | 東日本馬術大会（於馬事公苑） |
| 7月31日～8月4日 | 北日本学生馬術大会（於北里学園大学・十和田市） |
| 8月7～9日 | インターハイ（於酪農学園大学） |
| 8月22・23日 | 北海道体育大会（於帯広畜産大学） |
| 10月3・4日 | 公認馬術大会（於日高ケンタッキーファーム） |
| 10月13～18日 | 滋賀国体（於中央競馬会栗東トレーニングセンター） |
| 11月7～16日 | 全日学（於馬事公苑） |
| 8日 | 馬場馬術競技 |
| 11・12日 | 障害飛越競技 |
| 14・15・16日 | 総合馬術競技 |
| 11月18～20日 | 全日学選手権 |
| 11月21～23日 | 全日本馬術大会 |



# 副　将

斉藤　牧人

昨年九月の役員交代で僕が副将に決まってから、もう四箇月もたってしまいました。これまでやってきた「飼料」等、他の役職と異り表面上のやっつけ仕事は無いけれどその分だけ、「自分から仕事を見つけてクラブを良くしていきたい」と、交代当時言っておきながら……。本来の副将の責任から逃げ、主将や他の部員に頼った「頼りない副将」の態度を反省しています。

部員の減少化ということもあり、最近馬術部は小粒になってしまった、とOBの方に言われる事があります。部馬の半数以上の調教担当者が僕を含めて技術的に未熟な二年目ということもあり、これまでに倍する熱意が必要です。

毎日の活動には確かに辛く苦しい事が多いけれど、部員一人一人が皆それぞれ好きで選んだもの。それら一つ一つの活動がシーズン中に於て結実する事を信じて。

あのナポレオンも勝てなかった冬も、もうすぐ終り、新しいシーズンは真近です。

# 主　務

増田　美希夫

役員交代から約半年の日時が過ぎてしまったのに自分がした仕事はというと事務的なものばかりである。学馬連からの手紙や書類、学生部とのいろいろなやりとり、電話、葉書きによる連絡等。しかし、このような仕事は本当の主務の仕事ではない。本当の主務の仕事というのは金銭的にクラブを潤す事である。でも、現在のクラブではアルバイトによって会計的に黒字にする事は不可能に近いのではないであろうか。というのも昨年の九月に乾草を運搬していて馬運車を壊してしまい、大変な支出をする事になってしまったからである。赤字をゼロにするだけで精一杯である。その赤字をなくす為に個人バイトというのを始めた。もちろんクラブのアルバイトというのは全員で汗水流してやるのが良いに決まっている。しかし、学校や個人の都合によって十月〜一月の間は皆で一緒にやる仕事を見つける事はできなかったのであります。それとこの個人バイトをやるという意見に反対の部員もほとんどありませんでした。とにかくお金をあらゆる手段を用いても作らなければならないのです。ここで簡単に個人バイトというものを説明させて頂きますが、個人バイトというのは、その名の通り個人個人でアルバイトを探して働くというもので一月いくらという形でクラブに納めるものです。そして十月〜三月頃までは一月当り一人四千円ということになっています。それによって得る金額が四十万位になりました。しかしこのような形で四月以降続けていくことは非常に困難であると思います。新入生にとっては部費が一月五千円と考えられるからであります。（現在、部費は一月千円であり、個人バイト四千円を加えて五千円になる。）よって、四月〜九月までの間には何か別の、なるべく皆でできるアルバイトを探さなければなりません。この他にこの期間に中央競馬会のバイトと乾草のバイトもしなければなりません。本当に困ってしまいました。OBの方で何か良いバイトがあったら是非、御一報下さい。さっそく部員が飛んで行きます。

今冬、一番苦しんだのは除雪の件である。毎日毎日降りしきる雪の為に馬場内で運動するのは本当に十分の一程度の所だけであった。学生部にはいろいろ事情を話したのではあったが、大学内の除雪も大変らしく馬術部の方にはなかなかまわってはこなかった。（お金さえあれば除雪機の一台位欲しいのですが……。）

今までお金がない、お金がないと書いてきましたが、それでもOBの皆様方からはいろいろな援助をして頂いて大変ありがたく思っています。同好会の方々からは毎年何か馬具を頂いて重宝しています。他にも東京へ遠征しに行ったときに東京OB会の皆様方から御声援頂き、感謝しています。これからもいろいろとよろしくお願い致します。その返礼とでも言いますか、札幌在住のOBはもちろん、出張等で札幌に来た時などは是非とも厩舎に寄って馬に乗っていって下さい。ここで一つOBの皆様にお願いがあるのですが住所変更の場合は御連絡下さるようお願いします。郵便物を出して戻って来るのが割とありますので……。

最後に、もっともっとクラブの事を考えながら行動していかなければなりません。現状ではかなりの部分、主将である井上兄に御迷惑をかけてしまっているのであります。これからは自分の体を精一杯に動かし、一つずつ仕事を片づけていこうと思います。

## 副　務

高　須　哲　男

副務という役職は、文字通り主務の補佐が主です。アルバイトの人割り、郵便物の受け取りと内容のチェック、年賀状を始めとするOBの皆様や他大学への葉書の印刷と発送、そして初乗り会などの行事への御招待の連絡…など「雑用係」という言い方も出来ます。しかし、OBの皆様や他大学と現役部員を結ぶ、真に「北大馬術部の窓口」…その責任は重大だと、自分に言い聞かせております。

ところで、役員交代の御報告や年賀状などを発送する度に、何通かは必ず「転居先不明」の判と共に返送されて来ます。現役部員との、より密接なつながりを保つ為にも、住所等の御変更の際には、御連絡頂きますよう、お願い致します。

この役職に就いて、早くも四ケ月が過ぎました。重要な仕事は主務に頼ってしまい、反省すべき事は沢山あります。しかし、この部報が御手許に届く頃には二年目になっている訳ですし、今後とも責任をもってやっていきますので、宜しく御願い致します。

## 馬　匹

折　橋　由　美　子

昨年九月より馬匹となりました。馬匹となり思うことは、自分が馬体管理のことをあまり知らないのに、他の部員がそれ以上に何も知らないことである。馬のせわをするものとして、たとえ専門家でなくても当然知らなくてはならないものが多いと思います。不注意による事故、過激の運動のための故障、人間が馬のことをもっと考えてあげれば、健康状態はもっとよくなるのではないかと思われる。現在でも、常に一頭がかわるがわる馬休となる状態です。

十月、北楽院号が後肢の創傷よりフレグモーネとなり、その後X性腸炎になりました。かなりの高熱、激しい下痢のため脱水状態となり、ついにはたおれてしまいました。一時は脈拍も下がり、呼吸もわずかとなり、死んだと同然になりましたが、大量の保液、強心剤、栄養剤等々の投与、全部員の手厚い看病と、祭日にも来て下さ

り手当てをしていただきました小池先生、野田先生のおかげで、どうにか回復しました。OBの方々もたくさん来て助けていただき、感謝してます。全日学前の病気のため、北楽院号の変わりに予備馬の北美号が馬事公宛に行きました。北楽院号はその後も虚弱体質になり、蓄膿症、異常発汗等で全快はしてませんが、かなり重い病気だったので、軽い運動を続けています。

北雛号が十一月に右後飛節内腫のため、一月まで常歩運動しかできませんでしたが、現在は少しずつ運動量を増やしてますが、この先のことはまだわかりません。

北耀号、右前肢踏創良好、左前肢管骨骨瘤に熱感あり。

疾風号は骨軟症予防のため、ビタミン剤・カルシウム剤を注射しています。

スターライト、ドンホッパー、北姫、北将、北美、北皇子異常なし。

今年は記録的な積雪のせいか、パドック内や運動中の交突傷や追突傷が非常に多い状態です。フレグモーネになる恐れもあるので、充分注意する必要があります。

仕事として、毎月の体重測定、春のインフルエンザ、破傷風の予防接種、伝貧検査。年何回かの血液検査、糞便検査、駆虫薬の投与は例年通り行います。

最後に、小池先生、野田先生をはじめとする獣医の先生方、太田さん、いつもいつも本当に親切にしていただき、ありがとうございます。今年もどうぞよろしくお願いします。

## 薬　品

平　田　委久子

薬品の仕事を引き継いで四ケ月、日常使う薬品の管理を主にやって来ました。一番感じるのは、薬品その他の備品を大切に使おうとする気持ち如何で、ずい分物の消耗度がちがう事です。勿論、馬の健康に注意してやるのが第一ですが、部員一人一人が薬品に関する知識を持ち、正しい扱いをしてほしいのです。そのために、私自身もっと正確な知識を得て、工夫をしていこうと思います。薬品類も少しずつ値上がりしている折、無知と無駄の積み重ねで大きな出費とならないように、と思っています。

## 飼　料

石　井　洋　行

飼料の任について数ケ月たちました。予算をたてるにあたって改めて飼料代の高さに驚いています。実際、部の年間予算の半分以上が飼料となります。ですから本年度は馬の栄養を考えると共に安く良質の飼料を買うよう努力しなければならないと思ってはいるのですが、根が怠慢なため、どうも行動がともなっていない今日この頃です。

## 作　業

飯　野　秀　之

くぎ一本まっすぐに打てない作業隊長など今迄にいただろうか。ともかく、馬術部員だったら作業は避けて通れません。その作業が苦しければ苦しい程、汗を流せば流すほど愛馬はかわいいものです。鬼の作業にはまだ程遠いけど、作業後に、程良い疲労感と満足感が残る、そんな作業にしたいと思います。

## 馬具・備品

町田雅人・名越正泰

馬具および備品は、部員の不注意によってはすぐに紛失したりこわれたりするものです。充分に管理していれば、そのようなことはなくなるはずですが、管理の不充分さから、何度か部員の皆さんに迷惑をかけたこともありました。これからは、そのような事のないように努力していくつもりです。

## 文化

佐粧摂也・世良健司

文化の役職を引き受けて以来、写真の面で色々と御迷惑をおかけいたしました。二重どり、カラどり、似たような光景の連写、構図上の欠点。心からお詫び申し上げます。しかし、これら以外のピンボケなどに関しては暫しの時間を頂きたい。一皷目から馬にまともに乗れる方はいないでしょう。今後の上達を大いに期待して頂きたいのです。

§ § § §

今度、文化になった佐粧です。先代の「鬼の文化」を踏襲して、いや、さらに厳しく「地獄の文化」になるべく、日夜努力したいと思っています。昨年は、遠征などで遠乗会が中止になったので、今年はぜひ実行せねば、と考えています。その他諸行事の際には、OBの方々にもいろいろとお世話になるかと思いますが、その時はどうぞよろしくお願いします。

## 会計

今由美子

### S55.10～56.9月 収支予想

収入

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| くりこし金（9月末） | 1,150,000 |
| 入部金 | 20,000 |
| 部費 | 240,000 |
| 学馬連補助 | 1,400,000 |
| 学校補助 | 750,000 |
| OBより | 150,000 |
| バイト | 1,000,000 |
| 計 | 4,710,000 |

支出

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| 飼料 | 2,078,600 |
| 馬具用品 | 223,160 |
| 文化 | 48,000 |
| 薬品 | 265,000 |
| 鉄 | 1,080,000 |
| 遠征 | 1,000,000 |
| 他 | 300,000 |
| 計 | 4,994,760 |

# 昭和55年1～12月 決算報告

## 収入

会計 今

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 部費 | 9,640 | 0 | 5,450 | 2,426 | 4,610 | 16,525 | 27,583 | 1,700 | 0 | 8,430 | 21,800 | 13,000 | 111,164 |
| バイト | 0 | 0 | 0 | 315,510 | 14,000 | 168,550 | 728,120 | 6,000 | 26,000 | 28,420 | 55,000 | 13,480 | 1,355,080 |
| 補助 | 0 | 0 | 17,400 | 50,000 | 0 | 60,000 | 0 | 20,500 | 0 | 31,000 | 1,304,000 | 18,500 | 1,501,400 |
| その他 | 0 | 31,650 | 49,668 | 25,000 | 50,895 | 142,070 | 0 | 9,560 | 209,250 | 58,730 | 230,890 | 206,630 | 1,014,343 |
| 計 | 9,640 | 31,650 | 72,518 | 392,936 | 69,505 | 387,145 | 755,703 | 37,760 | 235,250 | 126,580 | 1,611,690 | 251,610 | 3,981,987 |

## 支出

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 馬具・備品 | 1,600 | 57,230 | 5,214 | 10,155 | 13,100 | 161,300 | 27,813 | 15,000 | 0 | 52,956 | 5,790 | 4,240 | 354,398 |
| 文化 | 6,800 | 0 | 6,279 | 0 | 1,800 | 32,424 | 13,080 | 5,000 | 12,000 | 6,668 | 0 | 9,139 | 93,190 |
| 作業 | 22,290 | 0 | 19,940 | 55,404 | 6,430 | 20,830 | 7,040 | 0 | 2,525 | 560 | 0 | 0 | 135,019 |
| 飼料 | 0 | 5,800 | 15,300 | 216,200 | 124,100 | 4,830 | 123,900 | 237,000 | 654,250 | 12,000 | 0 | 181,350 | 1,574,730 |
| 鉄 | 0 | 121,000 | 0 | 225,000 | 0 | 0 | 246,000 | 0 | 235,000 | 0 | 0 | 329,000 | 1,156,000 |
| 馬匹 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 会計 | 0 | 50 | 600 | 300 | 800 | 0 | 1,670 | 200 | 0 | 0 | 1,800 | 0 | 5,420 |
| 記録 | 2,715 | 0 | 2,600 | 6,214 | 0 | 300 | 1,300 | 1,597 | 0 | 0 | 1,435 | 0 | 16,161 |
| 主務 | 0 | 0 | 20,000 | 51,000 | 2,550 | 690 | 0 | 0 | 0 | 14,672 | 15,800 | 2,160 | 106,872 |
| 立替 | 0 | 8,795 | 71,660 | 8,960 | 141,480 | 49,480 | 180,020 | 44,000 | 39,540 | 19,200 | 18,500 | 0 | 581,635 |
| 遠征 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15,537 | 75,525 | 0 | 179,600 | 0 | 200,609 | 73,050 | 30,000 | 574,321 |
| 雑費 | 98,230 | 4,200 | 107,995 | 0 | 0 | 200 | 36,215 | 8,867 | 28,276 | 20,540 | 3,544 | 30,540 | 338,607 |
| 薬品 | 0 | 2,480 | 0 | 0 | 50,000 | 1,500 | 71,013 | 1,690 | 730 | 0 | 80,000 | 1,845 | 164,258 |
| 計 | 131,635 | 199,555 | 249,588 | 573,233 | 310,797 | 347,079 | 708,051 | 492,954 | 972,321 | 327,205 | 199,919 | 588,274 | 5,100,611 |

会計を引き継いで数週間後、現金がほとんどなくなるという危機に見舞われました。ここ数年黒字だった財政も、繰越しを食いつぶしても赤字になりかねない状態です。さらに悪いことはかさなるもので、昨年、合宿中の疲れからか乾草運搬中の馬運車を壊してしまい、その修理費百数万円を今年中に支払わなくてはなりません。部費も千円に値上げし、バイトも増やさなくてはならない状況であり部員数が減っている現在、個人にかかる負担が非常に大きくなっています。数年来、OB会からの援助が途絶えているのですが、部員の悪戦苦闘を御考慮の上、何卒御援助のほど、宜しくお願い致します。

## レシート

名越正泰

馬術部部報第二十六号にして初めて登場する役職です。今まで、部報に載っていなかったとはいえ、歴史は意外に古く、また他のクラブに類を見ない、独特な伝統ある役職となっているようです。

さて、それではレシートの内容を説明しましょう。

私達の生活に欠くことの出来ない北大生協では、すべての購買部門、食堂部門において、レシートによる割り戻しを行っています。その比率は、わずかに一%前後ではありますが、「チリも積もれば山となる。レシートも積もれば金になる。」というわけで、全部員のレシートを集め、一度に割り戻しをして、部費の足しにしようというわけです。

こんな単純な仕事でありながらも、なかなか奥義深いものがあります。部員のレシートだけでもかなりの金額になりますが、例えば友人から協力を得るとか、中央食堂のゴミ袋の中にはレシートが沢山入ってるとか、果ては落ちているレシートを拾うなどなど・・・・、ここまでやれば十万円も夢ではないでしょう。しかし、一クラブの一役職として、ここまでやる必要があるのか?、これは今後の課題でもあると思います。

今回も部員の皆さんの精神的労働、在学OBの方々の惜しみない御協力を得て、無事生協へ提出でき、二万円強のお金が入る予定です。協力して下さった皆さん、どうもありがとうございました。

最後に、少しでも部費の足しになり、会計を助けるためにも、元手なしというこのすばらしい?役職に、何とぞ御協力御願い致します。

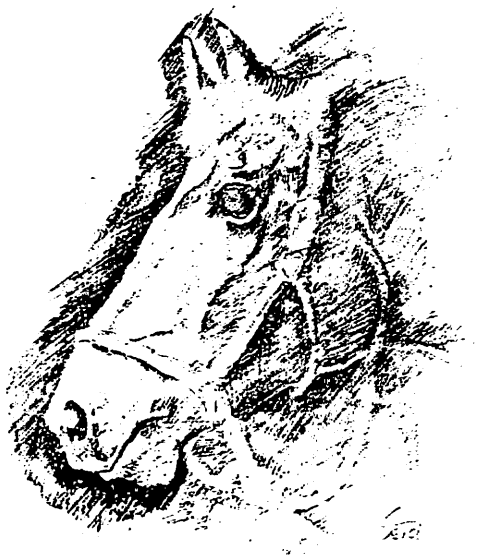
## 記録

間正理恵

情報時代の今日にふさわしく、記録類をもっとうまく活用できないものかと考えています。ほこりだらけで棚に納まっているのではあってもなくても同じことでしょう。多くの図書も、部員に読んでもらうためにあるのだから、利用しやすさを考えて、この馬術部小文庫を維持していきます。

# 昭和55年度行事報告

4月1〜7日　雪割り合宿
15〜20日　馬術講習会
5月4日　第八回太秦杯・半沢杯・河田杯記念馬術大会（於北大）
5月31日　山下杯（於酪農学園大学）
新歓コンパ
6月7・8日　北海道白馬馬術大会（於日高ケンタッキー・ファーム）
7月18〜24日　青草合宿
8月5〜11日　北日本学生馬術大会（於帯広畜産大学）
16・17日　北海道体育大会（〃）
24〜30日　日高合宿
9月6・7日　公認大会（於岩見沢競馬場）
10月13〜16日　国体（栃木）
19〜27日　第二三回全日本学生馬術大会（於馬事公苑）
11月15・16日　第三二回全日本馬術競技会（〃）
1月2日　初乗り
6〜11日　冬合宿
3月1日　三大戦（於帯広畜産大学）
15日　対東北戦（於東北大学）



# 昭和55年度　戦績報告

## 東　北　戦（3月9日　於北大）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 使用馬匹 | 天龍山 | 北美 | 羊蹄 | |
| 選　手 | 3年 | 松岡 | 北畑 | 負 |
| | 2年 | 今 | 折橋 | 勝 |
| | 1年 | 平田 | 間正 | 勝 |

## 三　大　戦（4月20日　於酪農学園大学）

シニア戦

| | | | |
|---|---|---|---|
| 使用馬匹 | 騄　鷲 | 騄臣 | |
| 選　手 | 3年 | 篠田 | |
| | 2年 | 井上 | 3位 |

ジュニア戦

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 使用馬匹 | 騄　鷲 | 北美 | 天龍山 | | |
| 選　手 | 1年 | 築地 | 飯野 | 斉藤 | 3位 |

## 半　沢　杯（5月4日　於北大）

《中障碍》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 土　井 | 酪　農 | 騄　鷲 | 0 |
| 2. | 橋　本 | 〃 | 騄　臣 | −0.25 |
| 3. | 北　畑 | 北　大 (4) | 北　美 | −8 |

《小障碍》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 近　江 | 岩見沢 | 隆　孝 | 0 |
| 2. | 伊　藤 | 北　星 | サミット | 0 |
| 3. | 吉　沢 | 〃 | ジェイ.ジェイ | 0 |
| 4. | 松　岡 | 北　大 (4) | スターライト | 0 |
| 8. | 井　上 | 〃 (3) | 北　楽　院 | 0 |
| 13. | 折　橋 | 〃 (3) | 天　龍　山 | 0 |
| 16. | 石　井 | 〃 (2) | 北　美 | 0 |
| 17. | 北　畑 | 〃 (4) | 北　雛 | 0 |
| 21. | 今 | 〃 (3) | 羊　蹄 | −13 |
| 14. | 西　川 | | 北　皇　子 | 0 |

## 山　下　杯（5月31日　於酪農学園大学）

《複　合》

| | | | | 得点 |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 橋　本 | 酪　　農 | 騄　　臣 | 196 |
| 2. | 橋　本 | 〃 | ゼ　ッ　ト | 192 |
| 3. | 土　井 | 〃 | 騄　　鵞 | 190 |
| 4. | 高　橋 | 北　大　(4) | ドンホッパー | 181 |
| | 折　橋 | 〃　(3) | 天　龍　山 | 失権 |
| | 篠　田 | 〃　(4) | 北　　姫 | 失権 |

《小障碍》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 井　上 | 北　大　(3) | 北　楽　院 | 0 |
| 2. | 北　畑 | 〃　(4) | 北　　雛 | −3.25 |
| 3. | 後　条 | 酪　　農 | 騄　　鵞 | −4 |
| | 折　橋 | 北　大　(3) | 天　龍　山 | −7（オープン） |
| | 今 | 北　大　(3) | 羊　　蹄 | 失権 |

## 北海道自馬馬術大会（6月7〜8日　於日高ケンタッキーファーム）

《複　合》

| | | | | 調教 | 野外 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. | 武　笠 | 帯　　畜 | 柏　　栄 | $132\frac{1}{3}$ | 0 |
| 2. | 橋　本 | 酪　　農 | ゼ　ッ　ト | $124\frac{1}{3}$ | −11.75 |
| 3. | 鈴　木 | 旭川乗ク | スカイナーホース | 130 | −10 |
| | 今 | 北　大　(3) | 羊　　蹄 | $182\frac{1}{3}$ | — |
| | 北　畑 | 〃　(4) | 北　　美 | $179\frac{2}{3}$ | 失権 |
| | 高　橋 | 〃　(4) | ドンホッパー | $148\frac{1}{3}$ | −4 |
| | 井　上 | 〃　(3) | 北　楽　院 | 180 | −20 |
| | 高　橋 | 〃　(4) | 北　　将 | $171\frac{1}{3}$ | — |
| | 松　岡 | 〃　(4) | 天　龍　山 | $169\frac{2}{3}$ | 失権 |

《新馬障》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3. | 北　畑 | 北　大　(4) | 北　　雛 | −4 |
| 4. | 西　川 | | 北　皇　子 | −4 |
| 4 | 高　橋 | 北　大　(4) | 北　　将 | −12 |

《婦人障》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 彦　坂 | 北星乗ク | サ　ミ　ッ　ト | 0 |
| 2. | 小　池 | 酪　　農 | 　　鵞 | −3 |
| 3. | 布　施 | 北星乗ク | ア　ド　ノ　ー | −4 |
| | 今 | 北　大　(3) | 羊　　蹄 | 失権 |
| | 折　橋 | 〃　(3) | 天　龍　山 | 〃 |

《中障害》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 武　笠 | 帯　　畜 | 柏　　栄 | 0 |
| 2. | 高　橋 | 北　大　(4) | ドンホッパー | −4 |
| 3. | 土　井 | 酪　　農 | 騄　　鷲 | −4 |
| | 北　畑 | 北　大　(4) | 北　　美 | スタート前1分失権 |

《初心者障害》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 石　井 | 日高育生 | カイドウ | 0 |
| 2. | 島　田 | 北星乗ク | チャキリス | 0 |
| 3. | 増　田 | 北　大　(2) | ドンホッパー | 0 |
| 7. | 小　泉 | 〃　(2) | ドンホッパー | 0 |
| | 篠　田 | 〃　(4) | 羊　　蹄 | 失権（オープン） |
| | 松　岡 | 〃　(4) | 天　龍　山 | 失権（オープン） |

《パルクール》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 篠　田 | 北　大　(4) | 北　　姫 | 失権 |
| | 井　上 | 〃　(3) | 北　楽　院 | −20 |
| 1. | 高　橋 | 〃　(4) | ドンホッパー | 0 |

## 北日本学生馬術大会（8月5〜11日　於帯広畜産大学）

《二回走行》

| | | | | 一回 | 二回 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. | 高　橋 | 北　大　(4) | ドンホッパー | −8 | −8 | −16 |
| 2. | 土　井 | 酪　　農 | 騄　　鷲 | −11.75 | −11 | −22.75 |
| 3. | 武　笠 | 帯　　畜 | 柏　　栄 | −20.25 | −4 | −24.25 |
| | 篠　田 | 北　大　(4) | 北　　姫 | 失権 | 失権 | |
| 9. | 井　上 | 〃　(3) | 北　楽　院 | −24 | −23 | −57 |
| | 松　岡 | 〃　(4) | 北　　美 | 失権 | 失権 | |

《総　合》

| | | | | 調教 | 耐久 | 余力 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. | 三　浦 | 帯　　畜 | 月　　光 | | 0 | −5 | −135 |
| 2. | 高　橋 | 北　大　(4) | ドンホッパー | | | −5 | −143 |
| 3. | 武　笠 | 帯　　畜 | 柏　　栄 | | 0 | −5 | |
| 11. | 高　橋 | 北　大　(4) | 北　　将 | | −40 | −23 | −231 |
| 15. | 篠　田 | 〃　(4) | 北　　姫 | | −174.4 | −10 | $-375\frac{2}{5}$ |
| 18. | 井　上 | 〃　(3) | 北　楽　院 | | −204.8 | −25 | $-425\frac{4}{5}$ |
| | 北　畑 | 〃　(4) | 北　　雛 | | 失権 | | |
| | 松　岡 | 〃　(4) | 北　　美 | | 失権 | | |

《B障害》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 岡田 | 北里 | ブラックポパイ | 0 |
| 2. | 斉藤 | 北大 (2) | ドンホッパー | −4 |
| 3. | 吉村 | 帯畜 | 柏栄 | −4 |
| | 北畑 | 北大 (4) | 北雛 | 失権 |

《新人新馬》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 伊藤 | 岩大 | チャンセラー | 0 |
| 2. | 山本 | 東北 | 青駿 | −1.75 |
| 3. | 小池 | 酪農 | 緑翔 | −4 |
| | 今 | 北大 (3) | 羊蹄 | 失権 |
| 5. | 石井 | 〃 (2) | 北楽院 | −4.75 |
| | 増田 | 〃 (2) | 北美 | 失権 |
| 4. | 折橋 | 〃 (3) | 北皇子 | −4 |
| | 飯野 | 〃 (2) | 羊蹄 | 失権 |

## 北海道体育大会（8月16,17日　於帯広畜産大学）

《成年総合》

| | | | | 調教 | 耐久 | 余力 | 総減点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. | 三浦 | 帯畜 | 月光 | $104\frac{2}{3}$ | 24.4 | 5 | $134\frac{1}{15}$ |
| 2. | 武笠 | 〃 | 柏栄 | $127\frac{1}{3}$ | 6.4 | 5 | $138\frac{11}{15}$ |
| 3. | 高橋 | 北大 (4) | ドンホッパー | $122\frac{2}{3}$ | 14.4 | 5 | $142\frac{1}{15}$ |
| 6. | 松岡 | 〃 (4) | 北美 | $159\frac{1}{2}$ | 67.6 | 25 | $251\frac{14}{15}$ |
| | 篠田 | 〃 (4) | 北姫 | $179\frac{1}{3}$ | タイム失権 | | |
| | 高橋 | 〃 (4) | 北将 | $152\frac{1}{3}$ | ―――― | | |

《小障害》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 小原 | 日高育生 | カイドウ | 0 |
| 2. | 三浦 | 帯畜 | 柏星 | 0 |
| 3. | 大谷 | 旭川乗ク | サベルニック | 0 |
| 9. | 北畑 | 北大 (4) | 羊蹄 | −4 |
| 6. | 折橋 | 〃 (3) | 北皇子 | −4 |
| 16. | 小泉 | 〃 (2) | 羊蹄 | −14 |

《成年六段》

| | | | | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. | 河岸 | 畜大 | 柏 | 0 | 0 | 0 |
| 2. | 荻野 | 札競 | ウルジャン | 0 | 0 | −4 |
| 3. | 布施 | 北星乗ク | チャキリス | 0 | 0 | |
| | 小栗 | 北大同好会 | 北耀 | 0 | −4 | |

《成年障害》

バラージュ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 武　笠 | 畜　　大 | 柏　　栄 | −4 |
| 2. 高　橋 | 北　大　(4) | ドンホッパー | −8 |

《婦人障害》

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 間　正 | 北　大　(2) | ドンホッパー | 0 |
| 2. 平　田 | 〃　(2) | 北　　美 | 0 |

## 北海道公認馬術大会（9月6，7日　於岩見沢競馬場）

《ハンティング》

| | | | タイム |
|---|---|---|---|
| 1. 高　橋 | 北　大　(4) | ドンホッパー | 77 |
| 2. 土　井 | 酪　　農 | 騄　　鷲 | 92 |
| 3. 谷 | 北星乗ク | テ　レ　サ | 93 |
| 10. 松　岡 | 北　大　(4) | 北　　美 | 127 |

《小障害》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A | 1. 原 | 帯　　畜 | 大　　雪 | 0 |
| | 2. 伊　藤 | 北星乗ク | サ　ミ　ッ　ト | −4 |
| | 3. 松　橋 | 帯　　畜 | 柏　　栄 | −6 |
| | 4. 飯　野 | 北　大　(2) | 北　　美 | −7 |
| | 9. 北　畑 | 〃　(4) | 北　　雛 | −15.5 |
| B | 4. 高　橋 | 北　大　(4) | 北　　将 | −6 |
| | 築　地 | 〃　(2) | 北　楽　院 | 失権 |

《婦人障害》

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 水　上 | 旭　　川 | スカイナーホース | 0 |
| 2. 折　橋 | 北　大　(3) | 北　皇　子 | 0 |
| 3. 久　保 | 北星乗ク | サ　ミ　ッ　ト | 0 |

《標準中障害》

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 高　橋 | 北　大　(4) | ドンホッパー | −4 |
| 2. 土　井 | 酪　　農 | 騄　　鷲 | −4 |
| 3. 武　笠 | 帯　　畜 | 柏　　栄 | −8 |
| 19. 井　上 | 北　大　(3) | 北　楽　院 | −32.5 |
| 8. 松　岡 | 〃　(4) | 北　　美 | −12 |

《大障害》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 土井 | 酪農 | 緑鶯 | 0 |
| 2. | 高橋 | 北大 (4) | ドンホッパー | −12 |
| 3. | 尾崎 | 岩見沢乗ク | 隆孝 | −12 |
| 9. | 松岡 | 北大 (4) | 北美 | −27.75 |

《コンソレーション》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 岩城 | 日高K.F. | レコード | 0 |
| 2. | 小原 | 〃 | チャーリー | 0 |
| 3. | 築地 | 北大 (2) | 北楽院 | 0 |

## 第35回　国民体育大会（10月13〜16日　於栃木県馬術競技場）

《成年障害》

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. | 地子 | 富山 | バチェラー | 0 | ジャンプオフ |
| 2. | 今井 | 静岡 | スモールタイム | 0 | |
| 3. | 宮崎 | 滋賀 | トムジョーンズ | 0 | |
| | 高橋 | 北大 (4) | ドンホッパー | −18.24 | |

団体　5位

## 第23回　全日本学生馬術大会（10月19〜27日　於馬事公苑）

《二回走行》

| | | | | 一回 | 二回 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. | 北野 | 東京農工 | 朋早 | −4 | 0 |
| 2. | 柿内 | 麻布 | 麻智 | −4.75 | 0 |
| 3. | 中崎 | 日大 | ロックロ—モンド | 0 | −8 |
| 10. | 高橋 | 北大 (4) | ドンホッパー | 0 | −12 |
| | 松岡 | 〃 (4) | 北美 | −24 | −35 |

《総合》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 尾辻 | 専修 | 武専 | -127 1/3 |
| 2. | 本田 | 〃 | 専照 | -130 2/3 |
| 3. | 内山 | 〃 | 専剛 | -138 |
| 17. | 高橋 | 北大 (4) | ドンホッパー | |
| 27. | 松岡 | 〃 (4) | 北美 | |

## 第32回　全日本馬術大会（11月15,16日　於馬事公苑）

《内国産馬障害》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 石　黒 | キープ乗馬会 | イワクモ | 0 |
| 2. | 細　田 | 慶　　応 | ウィンチェスター | 0 |
| 3. | 原 | 日　　大 | スズドクター | 0 |
| 6. | 高　橋 | 北　大　(4) | ドンホッパー | 0 |

《二段階障害B班》

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 陶　器 | 杉　　谷 | アミーゴ | 0 |
| 2. | 石　黒 | キープ乗馬会 | イワクモ | 0 |
| 3. | 渡　辺 | 馬事公苑 | グライダー | 0 |
| 5. | 高　橋 | 北　大　(4) | ドンホッパー | 0 |

宿泊予約中

# 日高 ケンタッキーファーム

乗る　日高ケンタッキーファームは、大自然の中で本格的な乗馬が楽しめる日本唯一の牧場です。安全には万全を期していますし、初めての方でもすぐ乗れるように指導もいたします。乗馬場は角馬場と3つのクロスカントリー・コースがあり、技巧によって楽しめます。

会員特典
①メンバーズルームの使用権
②メンバーズロッジの使用権(有料)
③乗馬、テニス・コートの使用は、会員を常に優先し、これを会員特別料金とする。
(会員以外の場合、乗馬、テニスはできないことがあります。)
④年2・4回の特別催事情報提供
⑤北海道の農産物・酪農製品・海産物の直送サービス
⑥代表者を定め他の2名を連記とするファミリー会員制
⑦その他、提携先施設、又はスキーバス等の利用において、数々の特点があります。

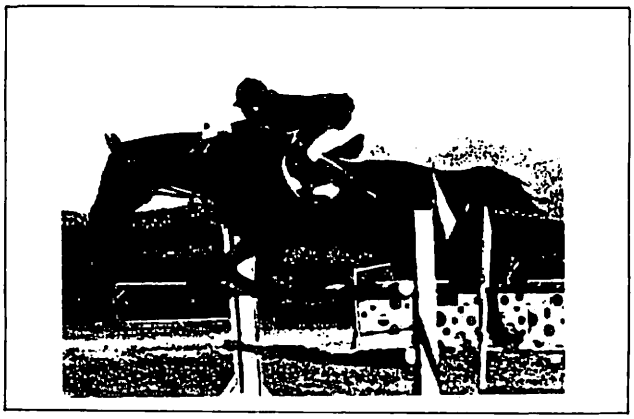
入会保証金　(10年間据置、7割返還)道内会員40万円　道外会員30万円

お申込み　㈲日高ケンタッキーファーム 北海道沙流郡門別町字福満128番地 01456②0811・②2192

◉日高ケンタッキーファーム料金表

| 施設 | | 会員 | 一般入場者 |
|---|---|---|---|
| 入場料 | 大人 | 無料 | 200円 |
| (管理費として) | 小人 | 無料 | 100円 |
| ペンション(1名、食事なし) | | 2,500円 | 4,000円 |
| ファミリー・ロッジ(7名まで) | | 10,000円 | 25,000円 |
| マッシュルームロッジ(7名まで) | | 13,000円 | 28,000円 |
| スイートピラ(4名まで) | | 16,000円 | 28,000円 |
| バンガロー(4名まで) | | 6,000円 | 12,000円 |
| コテージテント(6~8名まで) | | 5,000円 | 10,000円 |
| 貸テント(4・5名用) | | 3,000円より | 5,000円より |
| 乗場 外乗 | Aコース | 150円 | 300円 |
| | Bコース(添じょう付) | 1,000円 | 2,000円 |
| 角馬場 | 15分 | 1,000円 | 2,000円 |
| (指導付) | 30分 | 2,000円 | 4,000円 |
| テニス(1時間) | | | |
| 7・8月の平日と土曜日 | | 1,000円 | 2,000円 |
| 釣り堀(場内) | | 500円 | 800円(半日) |

# 習得しませんか
# 本格的乗馬技術



素晴しい馬達と共に…

## 北星乗馬クラブ

●銀鞍会 ●少年騎馬隊　会長 松岡靖雄

東月寒185番地 TEL853-4978

# 銀座屋

■工　　場　札幌市西区発寒８３４
電　話　(661)－１０９２

■本社・売店　札幌市中央区南１条西17丁目
電　話　(621)－０７０１

# 太田装蹄所

札幌市東区伏古10条１丁目15番５号
TEL 782-6084

# 蔵　書　一　覧

| | |
|---|---|
| 乗馬教本 | ミューゼラー |
| 障碍馬術 | 遊佐幸平 |
| 障碍飛越馬の調教 | M.. V . Barnekow |
| カプリリー論文集 | カプリリー |
| 馬のりのために | ドン・ペドロ |
| イタリー方式による障害飛越の要領とその調教 | 今村　安 |
| 馬事雑話 | 畜大馬術部 |
| 馬づくりの話 | 小津茂郎 |
| 騎馬の歴史 | 横山貞裕 |
| 産馬大鑑 | |
| 日本馬術史 | 日本馬術協会 |
| 馬事論業 | 遊佐幸平 |
| 遊佐馬術 | 〃 |
| 日本古代文化の探求 | 森　浩一 |
| 競馬大鑑 | 競馬雑誌社 |
| 獣医宝典 | 黒沢亮助 |
| 馬学精説 | |
| 馬学教程 | |
| 競走馬の破行 | 木全春生 |
| 障害飛越馬の調教 | |
| ドイツ式馬場 | |
| エキスタシオン アカデミック | |

| | |
|---|---|
| Schooling your horse | Littouer |
| Mecanica dela eqwitacion | |
| Dealing with horses | |
| The problem horse | |
| Constructing Cross Obstacles | |
| Know your horse | |
| Great riding school of the world | |
| The complete Horse encyclopedia | |
| Show Jumping | |
| The international horseman's dictionary | |

# 全日本馬術大会観戦記（感想記）

昭和五十五年十一月十五・十六日
日本中央競馬会馬事公苑
ドン・ホッパー　高橋　均　(4)

増田　美希夫

昨年の十一月十五・十六日、東京の馬事公苑に於いて第三十二回全日本馬術大会が行われた。

我らが北大の誇るドン・ホッパーは十五日に第一競技である二段階障害飛越B班とハンティングBに出場し、十六日に内国産馬障害飛越競技と選抜中障害飛越競技に出場した。二段階障害飛越競技はA班、B班、C班と別れており、A班・B班は中障害、C班は大障害である。しかし、障害の高さからいったら他の競技に比べて予選といわれているだけに小さく感じられた。ドンと高橋兄は満点でゴールしたが一位となった陶器修一君（杉谷乗馬クラブ所属）より七秒程遅く、結局五位であった。しかし、参加馬匹はB班で二十七頭いる中で五位（一位から六位までが入賞で五位は桃色のリボン）であるから、なかなかのものであると思う。高橋兄も試合には場慣れしている様で落ち着いていたようである。第三競技のハンティングB（一昨年までパルクール・ド・シャスと呼ばれていたが去年あたりからハンティングという名に変更された。他にもサンジョルジュ→セントジョージ）は、結果としては八位であった。目についたのは六番のビラビラ障害と直角に交わるように置いてある七番のスパーであるが六番を飛んで二七〇度の回転をして七番に向かったが少し回転が小さすぎて歩度が速歩に落ちてしまい、止まられたものであった。しかし、杉谷のものすごい牛のような六〇〇㎏もありそうな馬はそのような回転でも何なく飛び越えたのには驚いた。他にも外国産馬の威力を見せつけられた場面も多数あったが馬格から言ったら豊田さんの騎乗していたアメリコというのが最大ではなかったかのように思う。とにかく大きいのったらドンの一・五倍はありそうである。ドンがその位大きかったらオリンピックだって行けるだろうに。でも、ドンはドンの長所を生かして飛越していたし、馬格は小さいなりに良くやっていたと思う。（北大の中では一番大きいのだが）　次は、六位入賞を果した内国産馬飛越競技であるが、かなりドンも疲れていたのかもしれないが足に何度もバーをあてたが全て落下せず満点でゴールした。この競技においては二位慶応大学の慶雅、三位日本大学のスズドクター、五位慶応大学の慶将、六位北大のドンホッパーと、六位までの中に四つも学生が入賞した事は、注目に値するのではなかろうか。僕の考えでは、馬格の大きい外国産馬が出場しなければ、すなわち日本産馬だけでの試合であったらまだまだ学生が勝てるという事である。その外国産馬を混じえての去年の選抜中障害優勝や今年の二段階障害飛越五位入賞はやはり並大抵ではできるものではないと感じた。選抜中障害では二連勝をと願っていたのであるが残念ながら七位に終ってしまった。全体の試合を考えたら五位・八位・六位・七位と安定した飛越をできたのではないかと思う。今年の全日本馬術大会では、三位入賞を果す事はできなかったが二段階走行では桃色のリボン、内国産馬では緑色のリボンと二種類もらえたし、割と満足のいくものであったと思う。

## 大会裏話・反省など

東京の馬事公苑へは、特別後援会員である小野さんの馬運車をお借りして行ったのですが、行きも帰りも高橋兄一人で札幌～東京まで運転されてさぞかし疲れたでしょう。札幌を出発する前、高橋兄に、

「僕も途中で交替して運転しましょうか。」

と聞いたら、即座に

「お前なんかに運転をまかせられるか。」

と言われたのはショックが大きかった。

また、二段階障害飛越で五位になって桃色のリボンをもらってから、内国産馬の場内アナウンスで「高橋選手とドン・ホッパー号五位です。」と放送があり、

「なんだ、また同じ色のリボンか。」（五位は桃色のリボン）

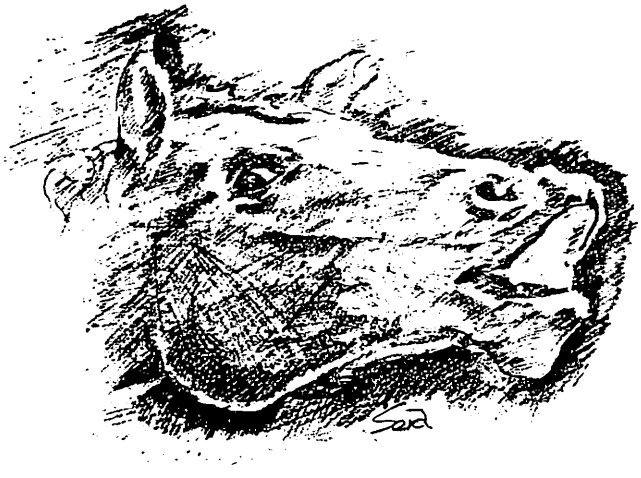
と叫んだら、

「失礼しました。高橋選手とドン・ホッパー号は六位です。」と再び放送された。（喜んでいいやら、悲しんでいいやら）

他にもいろいろと話題はあるのであるが、中でも中俣選手とアサマリュウのグランプリ馬場馬術競技はすごかった。中俣氏は外国でも入賞を果しており、氏が外国に行っていた時はアバロン乗馬学校の法華律氏の騎乗するバルサザールや東京乗馬クラブの広松氏の騎乗するバンリール等がいつも入賞していたのであるが、さすがに中俣氏は外国でも勝っているだけに強く他選手を圧倒していた。

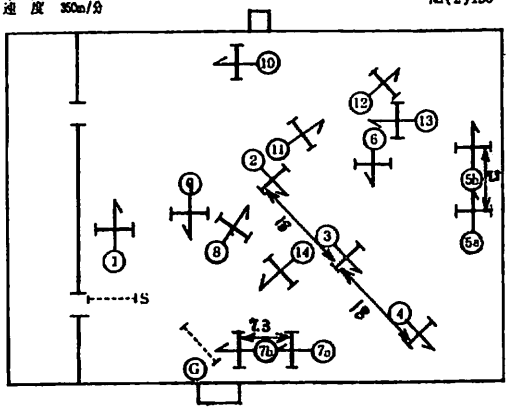
また、杉谷乗馬クラブの陶器修一君は、高校二年生なのにもかかわらず、二段階障害飛越B班一位、C班一位、ハンティングB一位ハンティングA四位・五位、特別大障害六位と驚くべき戦績を残している。

最後になりましたが、高橋兄はこの全日本馬術大会が最後の試合となったわけでありますが四年間本当に御苦労さまでした。あと一年間学校生活が残されていますが、この一年間は学業に専念して頑張って下さい。



中障害飛越競技(予選)障害経路
全長 640m
第一段 260m
第二段 380m
速 度 350m/分

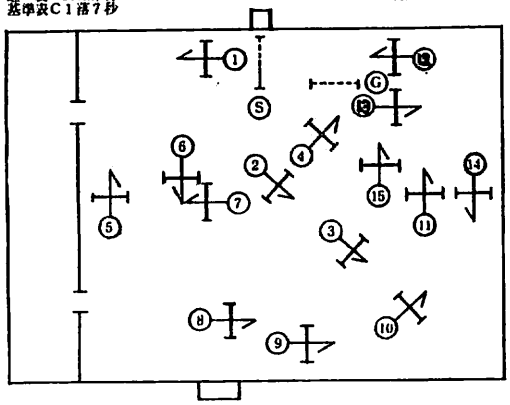
規定時間 No(1)45秒 No(2)65秒
制限時間 No(1)90 No(2)130秒



① 二 段 H.100 H.110 W.120
② レ ン ガ H.120
③ オクサー H.110 H.110 W.120
④ 垂 直 H.120
⑤a 二 段 H.110 H.120 W.120
⑤b 垂 直 H.120
⑥ ウッドパイル H.120
⑦a オクサー H.110 H.110 W.120
⑦b オクサー H.120 H.120 W.130
⑧ ス パ ー H.100 H.110 H.120 W140
⑨ ピラピラ H.120
⑩ 垂 直 H.120
⑪ オクサー H.110 H.110 W.120
⑫ オクサー H.120 H.120 W.130
⑬ 垂直(ツイタテ) H.120
⑭ オクサー H.120 H.120 W.130

ハンティング競技B
ハンティング競技A 障害経路図
全 長 640m
速 度 350m/分
基準表C1落7秒

規定時間 110秒
制限時間 220秒

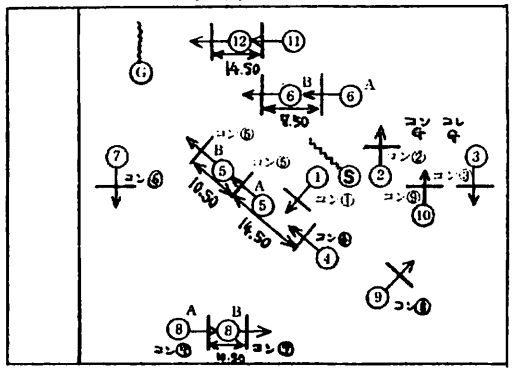


① 垂 直 H.120
② レ ン ガ H.130
③ オクサー H.130 H.130 W.140
④ オクサー H.120 H.120 W.130
⑤ 垂 直 H.140
⑥ ピラピラ H.130
⑦ ス パ ー H.100 H.120 H.130 W.140
⑧ オクサー H.120 H.130 W.140
⑨ 垂 直 H.140
⑩ オクサー H.120 H.130 W.140
⑪ 垂 直 H.130
⑫ オクサー H.120 H.120 W.130
⑬ 垂直(ツイタテ) H.130
⑭ オクサー H.120 H.120 W.140
⑮ ウッドパイル H.140

① オクサー H.110 H.120 W.130
② ツイタテ二段 H.110 H.120 W.130
③ オクサー(芝カマ) H.120 H.120 W.140
④ 二段オクサー ウッドパイル H.120 H.130 W.130
⑤a 垂直 ピラピラ H.120
⑤b 竹棚二段 H.120 H.130 W.140
⑥a 二段 H.110 H120 W.130
⑥b 垂 直 H.120
⑦ 垂 直 H.130
⑧a オクサー H.120 H.120 W.130
⑧b オクサー H.120 H.120 W.130
⑨ レ ン ガ H.130
⑩ 二段(ドラム) H.110 H.120 W.130
⑪ 三 段 H.100 H.110 H.130 W.150
⑫ 垂直(ツイタテ) H.130

コンソレーション 障害飛越競技経路図
内国産馬
全 長 600m
速 度 350m/分
基準表A
決勝(内国産馬のみ) 1. 4. 5A. 7. 8A. 8B. 2. 12.
(320m, 55秒, 110秒)

規定時間 103秒
制限時間 206秒



# 大地から、食卓へ。

あなたの食生活を、より豊かに、楽しいものに…ホクレンは食糧問題をはじめ、生産・加工・流通など、農協と手をたずさえて真剣に取りくんでいきます。

大きな自然と——明日へ。
ホクレン

# 全日本学生馬術大会観戦記

昭和五十五年十月十八～二十七日
日本中央競馬会馬事公苑
ドン・ホッパー　高橋　均　(4)
北　　美　松岡　功　(4)

飯野秀之
斉藤牧人

## 二回走行

試合直前で北楽院号がX性腸炎にかかり、代わりに北美号が出場する事になって、我が北大ではドンとメールの二頭。昨年よりもさらに寂しい全日学となってしまった。

十月十七日、国体から直接来ていたドンとメール合流。ドンはかなり落ち着いていたが、メールにとっては初めての馬事公苑。とても難しいと思う。試合前数日間の練習、曳馬で二頭とも場所にも慣れ始め、コンディションも登り調子。これならという期待を胸にこめながら、試合を待つのみとなった。

十月二十二日、試合第一日目。

北大からはまずドンの出場。スタート前、かなり馬を出してつめていよいよ第一障害へ。ドンは経路走行の前半、けっこうつまりながらも飛んでいくという傾向があるが、今日はそれがない。スムーズだ。第二・第三…と流れるような走行が続く。一番心配していた水濠も何なく通過。最後の斜め三段も飛越。やった、満点だ。さすが高橋さんだ、北大の、いや北海道のドン・ホッパーだ。いや、うれしかったですよ。

次はメール。実は準備馬場でオクサー障害を止まり、今迄の調子良さが一ぺんにふっとぶくらい不安な気持ちがおそいかかってくる。試合場に入り、いざスタート。第一障害直前で馬が膠着しそうになる。松岡兄はここで鞭を一発。ビクンとしたのが遠くにいた私にもわかる程であったが、そのまま通過。経路走行、早い々々。飛越する体力があまりないと思われ、後半になって落下がふえていく。それでも止まらない。苦しそうな顔をしても足があがらなくても、障害に向かっていく。いいぞメール。初めての馬事公苑だもの。ゴールを切ってさえくれれば。結果は六落。しかたないか。ゴールを切った後の松岡さんのうれしそうな顔が今でも印象的である。

第一走行を終え、満点馬がドン・月光を始め五頭。明日こそは、という気持ちで第二走行めを向かえることになった。

十月二十三日　試合第二日目。

二日目になると、騎手と馬の調子は上がる。今日こそは！

六〇番目にメール登場。いけメールと思っているうちに第一障害落下。馬は良く出ているが馬の足が上がらない。走行が雑というよりも、馬が精一杯やっても落下してしまうのである。疲れているんだね、メール。第8障害も足に大幅にひっかけ、次の障害へ行くのにいやがり反抗をとられる。もし松岡さんがうまくなかったら、押せなかったら、ゴールを切れなかったかもしれない。しかし、又一気に馬場をかけ障害へ向かっていく。そこには、松岡兄の馬の甘さを許さない態度とメールの素直さしかなかったのかもしれない。それでも最終一四〇の斜め三段はみごとクリア。八落。私はメールに

よくやったとほめてやりたい気がした。

いよいよ期待のドン・ホッパー。飛べ　飛べという気持ちが先早る。手に汗をにぎりながらスタート。おかしい、早すぎる。流れるような走行にはかわりないのだが、川にたとえるなら、下流の自然で雄大な流れというより、むしろ上流の激しい動きのようだ。案の定第3障害落下。会場からため息がもれる。もう落とさないでくれ！　しかし、皮肉にも第8障害落下。結果は三落。思わず体から力が抜けていくのを覚えた。他の前日満点馬も落下を重ねていく。人馬一体の難しさを知ったのは、まさにこの時であった。

結局、前日一落で二日目満点の農工大の朋早が優勝した。しかも前日落下した馬の方が良い成績である。人の方にあせりがなかったのがよかったのであろう。試合なんてこんなものなのか！　残念で残念で仕方がない……。二日間、緊張を続けるというのは大変な事ですね。高橋さんでさえ、名馬ドン・ホッパーでさえ。

以上、とりとめもないことを書いてしまったが、やはり二頭しか書けない寂しさが胸にこみあげてくる。やはり団体を組まなければ。一九八一年、今年は絶対に団体を組みたい。この次、全日学の観戦記を書く人に、くやしさと寂しさをいだかせないことを祈ってペンをおくしだいである。

◆　◆　◆

**総　合**

さて次は「総合競技」。体調は、と言えば中一日の休養をとってベテランのドン君も初体験のメール嬢もなかなか良好のよう。高橋、松岡両選手も大丈夫、そして僕ら馬匹係も緊張。

**調　教　審　査**

馬匹係は観客にあらず、といった訳で勿論一部しか「観戦」できなかった。その中でも昨年一位の専修大等、数頭眼に残った。確か専剛号だったと思うが、歩様がいい。弾発感がある。馬場馬だあ?!

さてドン・ホッパー、北日学の調教審査では運動に乱れもなく、三位という成績。期待は大きかったのだが、残念ながら今回は所々乱れてしまった。観ていてドンが少々アセリ気味の印象で、伸長速歩では筆者思わず声を出してしまった。後日、高橋兄の話では準備運動が上手くいかなかった、との事、耐久と余力の満点に希望をつないだ。

北美、高い得点を取れた訳ではないけれども、大きな乱れも無かった。今シーズンの調子の向上は徐々に上向きの点数にも表われていた。メール嬢とここまでやって来た松岡兄、ごくろうさま。そしてゆったりとした歩様を生かせれば北美、これからももっと良くなる馬である。

得点上位陣は大方の予想通り、日大・専修・中央等江戸っ子勢が占める事となった。

**耐　久　審　査**

馬事公苑のスティープルは走路を利用しているので、一見平坦で変化に乏しく感じるが、固定障害一つ一つはなかなかボリュームたっぷりである。特に今回の第十六番大乾壕を全日学で使用するのはここ数年ぶり。実はここでの選手の死亡事故が起きて以来、何てうわさも耳にして。「ほんまかいな、まいったねえ」とは松岡兄の弁。

さてスタート。ゼッケン十九番ドン・ホッパー、D区間スタートすれば次々に通過を知らせる進行会役員のトランシーバ。で、あっけなくゴール。ドンと高橋兄ならこんなもんだろうと、跳ねまわるドンを曳きながら喜んでいた。

失権馬はかなり多い。半分帰って来てるだろうか。手綱に引かれ

続けて手の感覚が無くなった、と大雪号でゴールの帯畜の佐藤さんに聞いた。耐久とはやはり恐いもんである。

コース内でトラブルがあり、三十八番北美はスタートを待たされた。見ている僕らが緊張。スタート。大丈夫でありました。木かげから、松岡兄の独特の深く前傾した随伴が見える。馬場に帰って来てからの十九番ジグザグの自然木で拒止があったが、向け直して通過。結局なんとかゴール。これで北大は笑顔。

あと一頭で団体が組めるのに、などとここで残念がるのは野暮というもんである。

### 余力審査

残念。中障害に比べれば、二回りくらいも小さく見える障害でもそれは「余力」で飛ぶのだ。やはり難しいのである。

各地で予選を経ているだけに反抗こそ少ないが、落下はかなり目につく。引っかけてコースを回って場外へとびだした、なんて例もあったが。北大はドン・ホッパー、北美ともゴールした。上位陣では安定した走行の満点は多い。やはり残念。

● ● ●

ドン・ホッパー十七位、北美二十七位の成績だった。優勝は専修大学の武専。耐久、余力共満点馬が上位入賞を得ており、調教審査の点数が最後まで持ち越される形になった。

馬術競技の中でも、観客受けといって悪ければ、一種の華やかさでは総合競技に分があるようだ。あの雰囲気は僕も大好きである。

## 国体報告

高橋　均

前日の雨もあがり、晴れ渡る青空の下、国体開催地、栃木県上三川町へ向けて十月七日の午前九時、北海道チームの四頭の馬を乗せた馬運車は北大をあとにした。私は昨今、馬運車といえばほとんど運転をしていたので、馬とともにうしろに乗り込むのは、ちょうど二年前の長野国体へ馬匹として乗った時以来であった。前にはオオカリヒメ（札幌競馬場）と月光（畜大）の牝馬二頭が乗り、後ろに柏栄（畜大）と我がドンホッパーが乗った。前二頭女のけんかには我々人間も閉口したが、名馬二頭ボケ丸（柏栄）とドンもあきれかえって物もいえないようだった。いやいや、ボケ丸だけは何も起こってないかのように、四六時中乾草をほおばっていた。

そうして人間にとっても馬にとっても窮屈な二十数時間が過ぎて翌日の昼頃、会場に到着した。その日は特別暑い日だったらしいがちょっと動いても汗が出てたまらなかった。馬にとっては、もっと苦痛だったかもしれないが、四頭の馬はやっと身動きがで る馬房に入り、ほっとしているようだった。荷物を整理し、飼いをつけて一段落したところで、馬場や野外の障害を見に行った。この会場は二年前の長野国体と同様、河川敷に作られたもので、土手から障害馬場や野外障害の一部が見下ろせるのである。我々北海道勢が一番乗りだったが、障害馬場にはおそらく成年障害の経路と思われるものが作られてあって、畜大の三浦や武笠とどういった経路になるか

予想した。その予想（その時点でもおそらく当っているだろうと思ったが、実際その通りだった）では、二番目に水濠があり、七番目前後にバンケット、そのバンケットの上にはさらに箱障害があって閉鎖のトリプル、そして最終から二つ目がトラケーネン（乾壕バー）という結論に達した。この経路は蛇乗りとみた。今あげたこの三つの障害以外はたいしたことはないと感じた。結果的にはそれ程甘くはなかったのだが・・・・。

その日は他に、静岡県が入厩しただけであった。我々選手の宿舎に割りあてられたのは、日産自動車の家族寮である五階建てのアパートであった。この上三川町は日産自動車の工場があり、まさにそれで成り立っていると言っても過言ではないのだが、その社員の団地がずらりとあり、家族用の団地で空いているところ（かなりあるのだが）を借用させてもらって、そこを宿舎としていた。いろいろと至れり尽くせりで、町あげての歓迎をうけた。試合二日目の晩に宿舎となっている団地の住民が、歓迎会を開いてくれて、季節はずれの盆踊りなどをやった。集まっていた子供たちは、選手にサインを求め、私も気軽に応じ、恥ずかしながら下手な字で書いたのだが子供たちはサインだからこんな字なのだろうと思っているのではないだろうか。一日一日と入厩するチームが多くなり、大会前日にやっと近県のチームが入厩し、沖縄を除く各都道府県のチームが勢ぞろいした。

ドンホッパーは入厩した日と翌日はひき運動にとどめ、三日目から騎乗して軽く運動をした。少年自馬で高校生を乗せなければならないこともあって、運動量を考え無理させないようにした。大会前日はまた軽い運動でいい状態にしてやめようと思ったのだが、騎手の不注意により障害前で止まらせてしまった。キャバレッティーのあとバーをかけて一三〇センチメートルのときなのだが、前日一四〇センチメートルを同じようにして飛んでいるという安心感からの気のゆるみか、馬の緊張と推進不足の結果だと思う。こういった不注意は前年の全日学、全日本における練習中にも経験しており、全く恥ずかしい話である。そんなものだから、当日はゴールをとにかく目指すという消極姿勢となってしまった。

さていよいよ、大会初日の成年障害が行われることになった。前日に渡された経路図ではほとんどの障害が幅がなく、高さも一四〇センチメートルが二・三個あるだけで楽なものに思われた。しかしどの競技でもそうであるように、当日下見を行った時には、その考えを若干変えさせられた。意外にごついのである。特に、箱障害と最終から三番目の扇形三段、トラケーネンはごつく感じた。二番目にある水濠も水の飛越幅があまりない為、踏み切りを手前に持ってきて、三メートル三〇センチメートルの幅をつけていて飛びにくそうだった。そしてバンケットも手前と向こう側に壕があり、バンケットの上にある箱障害が下から見ると高く感じられた。しかし、弱気になってはいけないと思い、気合を入れていけばいけると自分に言いきかせ、順番を待った。畜大の武笠が二番目だった。お互いに水濠がいやだなと言っていたのだが、水濠は難なく通過。最終一つ前のトラケーネンで一拒否して、結局一拒否、一落下でゴール。惜しかった。いい感じで飛んでいたのだが・・・。私は終わりの方だったので、最初の十番位まで観戦した。

畜大の一年生に手伝ってもらいながら、念入りに馬装をして、準備馬場へ入るまでの時間がまだあるので、人馬ともリラックスする為、しばらく常歩でゆったりと歩かせた。それから徐々に緊張を求め、速歩、駈歩運動をした。準備馬場の障害は他の人馬が一三〇セ

ンチメートル、一四〇センチメートルを作って飛んでいるので、その合間をみて一一〇センチメートル程度に下げてもらい、二・三回飛ぶ。荻野さんに、まだ早い、やり過ぎるなと言われた。自分ではいつもよりかなり控え目にやったのだが、それでもまだやり過ぎと指摘された。そうして待機馬場で直前に二度飛んで、入場口で待機した。心を落ち着け、ただゴールを目指すのみであった。名前が呼び出され入場、敬礼の後スタートを切る。二番目の水濠はほとんどためらわずに通過。続いて三番目のつい立てに向かって、意外にもふらつく。簡単に思えたのだが障害が斜めにふってあって、馬にとって飛びにくかったようだ。五番目の大谷石と名づけられている箱障害で落下。乗っていてはっきりとはわからなかったが、観客の反応から落ちたのだと判断する。七番の乾壕バンケットは難なく通過。自分ではそれ程感じなかったが、あとで、下で見ていた人から実にスムーズにこの障害を通過していたと言われた。（この障害でつまづいた人馬が多かったからだろうが）　十一番のスパーと呼ばれる扇形の障害ではいったんつまったが、どうにかクリアー。ここで気をひきしめればよかったのだが、そのままただ向けた為、次のトラケーネンで止まられてしまった。スピードがゆるんだところから拍車を入れていたので、ドンも飛ぶに飛べないし、上からは飛べといわれて困ったのか、そのまま壕に落ちてしまった。どうしようもなくドンからおりて、ドンをひっぱりあげた。一瞬、いったい壕から上がることができるのだろうかと心配だったが、割と簡単に上がれた。このトラケーネンにかかっているバーは下の三本は固定されているためもあって、全くバーを落とすことなく上がることができた。深さが一メートル近くもあったのだが・・・。壕からはい上がるとドンは何故かいなないた。何を意味していたのかわからないが、勝手な解釈をさせてもらえば、壕の中でどうなることかと思ったが、どうにか地上に上がれて嬉しさのあまりいなないたのではないだろうか。ドンにはすまないと思いながらすぐに騎乗して、と、まだまたがらないうちに動き出してしまったので、鞍に腹ばいになりながら出口付近まで行ってしまった。そこで前を持ってもらい、すぐにまたがり、息つく暇なく走らせた。頭の中で下手すると障害間一分をとられるかもしれないと考えたからである。だから、体勢をたてなおすこともせずに再び向けたのである。直前、しまったと思いつつも声をかけた。つまりながらも飛越してくれた。この飛越で人間のバランスを崩したにもかかわらず、最終障害へは自分から向かっていってくれた。一度壕に落ちたにもかかわらず、勇気をもって飛んでくれたドンには全く頭の下がる思いであった。このトラケーネンでは何頭か怪我した馬もいた。幸いドンにはたいした怪我もなく、翌々日の少年障害には出場できた。少年障害では期待に応えて柏栄二位、続いてドン三位という素晴しい成績を出してくれた。結局、少年貸与馬でも北海道は二位になり、少年組の活躍で、総合で栃木に続き二位となった。成年障害でもっといい結果であれば、一位の可能性も無きにしも有らずだった。

　この大会に、東京からわざわざ永松、武田、本田の大先輩が応援にかけつけて下さり、また、景山先輩、笠間先輩も地元ということで応援してくださった事、心から感謝致します。それにお応えできるような成績をあげられなかったのは残念ですが・・・・・。

# 中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西５丁目
ＴＥＬ 721－１５２６

Riding & Tennis

# フロンティア乗馬クラブ

**馬場** 厚田村しっぷ 165-3
ＴＥＬ 01336－６－３８５８

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

# 馬匹紹介　調教報告

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## スターライト号

牝　ア・ア　栗毛
昭和41年4月4日生
沙流郡門別町産
父　トモスベビー
母　銘　乾
体重　五〇四Kg

「私はライト。この頃、皆におばあちゃん扱いにされちゃって、カンカンなのよ。おまけに「功労賞」なんか貰っちゃって、ますます年寄りみたいに思われちゃったじゃない。まだまだ十六よ！皆は初老と思っているみたいだけど、私の心は花のＯＬ。まだまだ私の人生、真中当り。それからね、よく中年太りなんて言われるけど、それはただの運動不足よ。昼間だってめったに馬場に放してもらえないし、馬繋台につながれっ放し。これじゃ太るのも当り前でしょう。おまけに、ストレスもたまるし。朝、時々、人を乗せて突走りたい気持ちも分かるでしょう。除雪車が何よ！人間が何よ！同じ様な顔ばかり並べやがって、もう！キ〜〜」

以上、少々ヒス気味のライトさんでした。この日は、大好きな僕でも恐ろしくて近寄れませんでした。でも普段は、気のいい、人間というものを知りつくした馬です。やはり年の甲か？。

## 「スターライトとの一年間をふり返って」

松岡　功

ライトとは丁度一年間だけの付き合いになってしまいました。この間、自分が彼女に教えたことは結局ほとんどなかったのですが、彼女は自分に身をもって数多くのことを教えてくれました。

一昨年の暮、馬の状態は少しだけど昇り調子で冬をむかえました。この冬が正念場だと自分に言いきかし、気を引きしめて臨んだつもりでしたが、冬場の運動、これが自分とライトにとって致命的になったのではないかと思います。雪が深くなるにつれ、だんだんと運動がしずらくなり、日々に変化してゆく周囲の環境もあいまって、彼女も多少神経質になり、物音を聞いたり、目新しい風景にとまどったりするそぶりをみせました。人間に対する信頼感の欠如の現れです。そこで、毎日の練習でも外乗を多くしできる限り周りの変化

に慣れさせるように努め、また、学校の空き時間をみつけては、ササなどを食べさせながらいろんな所を歩くようにしました。そして馬場内での運動は走れる所が限られ、どうしても単調になりがちなため、除雪された駐車場などを利用して、輪乗りを中心に口を持った運動を繰り返しました。初めは多少とまどいを感じましたが、慣れるにつれて速歩も安定し、回転や歩度の変化をつけられるようになりました。しかし、ライトは体を竪くし、これが騎手にも伝わり全体的になめらかな運動ができなくて、課目はこなすが柔軟性に欠ける点に悩まされました。それでも、春になり下が良くなれば大丈夫だという楽観点な気持ちと、自分はやれるという過信が頭にあって、現実を直視し、打開してゆこうとする気持ちに欠けていました。

こうして何となくすっきりしない状態で雪どけを迎えた訳ですが黒々とした大地が現われるにつれライトも落ちつきを取りもどしておもしろいように運動が進みました。懸念した馬体の固さも、回転や歩度の伸縮を組み入れて運動に変化をつけることによって少しずつ改善でき、ハミをかんだ状態での停止、後退、速歩も可能になりました。しかし、駈歩では馬の固さがとれず、特に左手前では内にもたれ、不正駈歩になることが多々ありました。柔和な発進と大きな輪乗をくり返し輪乗では多少ゆったりと出来るようになったのですが、蹄跡に出ると体を竪くし、内にささりながら突走ろうとする傾向がありました。一方、障碍のほうは冬場ほとんどやっていなかったため、キャバレッティからはじめました。キャバレッティーの最後に単一を置き、少しずつ高さをつけていき、続いてキャバレッティーから二つか三つの連続障碍の飛越を行い、馬の踏み切りと、障碍間の人の姿勢に注意してやりました。低い障碍で安定してから徐々に高さを求めていったのですが、一〇〇cm程度まで上げた時に急に障碍に突進することがありました。運動中、ある要求がその時の馬の状態に適しているか否かは歩調によって現われるものです。歩調が乱れるようなことがあれば、それはその要求が誤っていたか又は、要求に無理があった証拠です。ましてや、それ以前の運動における騎手の扶助に対する馬の状態が適切であったかどうかが疑われます。そういう馬の状態を適確に把握できなかった自分の未熟さと、甘さがその後もずっと尾をひくことになったのだと思います。

こうしてシーズン最初の試合である半沢杯をむかえました。馬の状態も考慮して、小障害に出場したのですが、準備馬場で手の内へ入れることができず、試合場でも同様で、無過失でゴールしたものの問題ばかり残った試合でした。特に問題となったのは馬の障碍に対する恐怖心と自分の騎座の甘さ、それとこれに起因する馬の騎手に対する不信感です。ここで考えたことは自分の騎座の再点検と、確実な扶助をもって、馬の心理状態を見極めながら幅をもたせた低障碍と不斎地を反復し、馬の騎手に対する注意力を養うことでした。騎手の状態、これは調教を手がけるときは細心の注意を注ぐものですが、調教が進み運動の程度が上がるにつれ、馬に対する悪い意味での慣れが生じ、省みることと怠りがちになります。こうなってくるとあるレベル以上の進歩は望めないし、馬と人の間に歪みが生じると、それまで苦労して培ってきた成果の、なしくずし的な崩壊につながりかねません。馬の状態に神経を集中するばかりに、その馬の状態をつくろうとする自分の状態が疎かになってしまうということです。このことは今後馬の責任者になる現役部員に特に注意してもらいたいと思います。話が横道にそれましたが、このようなことを頭に入れ、半沢杯の後練習を進めました。この間、馬と衝突することもありましたが、少しずつだけどライトが自分の要求に注意するように

なってくるのがわかりました。そして、障碍飛越もだんだん落ちついてやれるようになり、それに伴って程度も上げていきました。

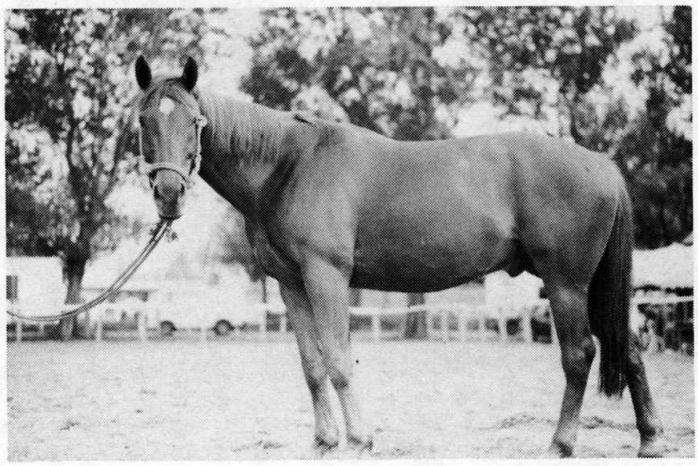
こうして酪農戦の複合の障碍に臨みました。準備運動は半沢杯の失敗を考慮し、だらだらとならないように馬の集中心を養うように心がけ、ある程度落ちついて、緊張感を作ることができたと思いました。しかし、試合のほうは三番のダブルのBで失権。頭に杙を打ち込まれたような気がしました。結局、半沢杯後の問題が何一つ解決されていなかったのです。試合と試合の間の二週間、自分の意識の低さ、また、悪い状態を試合に合わせて直そうとしたことへの見返りです。やってはならないことですが、馬をあずかる最上級生として、できなければいけなかったのです。

この試合がライトに与えた影響は、自分へのそれと同様、強烈なものでした。騎手に対する不信感と恐怖心が顕著になり、何とかしなければという自分の気持の空回りが作用して、満足な状態が得られないまま、無理な運動を課している最悪の状態に陥ってしまいました。そして、この頃からライトの動きのアンバランスに気がついて、小池先生に見ていただいたところ、両肩、特に右肩の関節を痛がっているとのことで、年齢的なもので仕方がないということでした。それまでの無理な状態での運動とそれに伴うストレスが原因したものと思います。

この後、休馬させたのですが、この間、他の四年生とも話し合い部の状態も考え、自分はライトを降りることになりました。一年間とうとう何もすることができませんでした。ただただライトにすまないと思うだけです。しかし、スターライトという馬にめぐり合い、そして、彼女と伴に一年間歩んだことは、自分の四年間の馬術部生活の中で一番印象深く、かつ貴重なものでした。ライトよ、どうもありがとう。

最後に、昨年の十一月、長年北大馬術部の中心となって活躍し、部の発展に貢献したスターライトに対して、日本馬術連盟より功労馬の賞が与えられたことをお知らせし、彼女の今後の幸福を祈ってこの報告を終ります。

## 疾風号



騙　ア・ア　栗毛
昭和45年5月31日生
沙流郡門別町美原産
父　ア・ア
　　オーバーマイン
母　ア・ア
　　ミストビハマ
体重　五四七Kg

咬むことを知らず、ひたすらペロペロとなめまくる栗毛のかわいい馬です。顔が大きく、首がやや短く、休みが長かったせいか腹が少しでていますが、足がすっかりよくなった今年は、もっとスマートな体になることでしょう。

最近は、ひき馬のときでも、おとなしく、トキの期待さえ裏切らなければ「キュィーン」と鳴いて走り出すこともなくなりました。

過去にすばらしい成績を残している馬だけに、体調がよくなった今年は、活躍が期待できる一頭です。

# 調教報告　疾風号

北畑　裕

実は、疾風号調教報告を書けるほど、小生は疾風に乗っていない。当初、疾風に乗りはじめた頃、くだり坂にあった当馬をもう一度なんとかしたいという気持で、小生の技術は未熟であるのを覚悟の上乗り始めた。島村さんより受け継ぎ秋から乗り、十二月上旬に原因不明の左後肢のハレ、当初は骨瘤と判断されたが、どうもおかしいのでレントゲン撮影の結果、左後肢第四中肢骨ヒビとの診断、六ヶ月の治療が必要とのことで、六月中旬まで馬休。以上が大まかな馬体経過である。

秋より乗り始め、色々な物に慣れさせる為馴致（疾風は、古馬であるのに物をよくみる所がある。）と、疾風本来のよい動きを求める運動、それに障害練習も、一m以下の低障害で練習した。そうして、約一ヶ月ぐらいの期間ではあるが、馴致については、ほとんど問題を感じなかった訳ですが、二番目と三番目の方は、特に二番目の、よい動きの方は、他馬と比べても、非常に悪く感じられはしたが、たまに、びっくりするようなよい動きをしたので、一応それを目標にすることにして練習した。障害飛越は、低障害しかやらなかったので、そんなに問題は感じられなかったが、やはり、障害に対する前進気勢が感じられず、それは平場の運動でも同様であったので、とにかく前進気勢を求めて運動をしました。そして時々は外でも走ったりしました。確かに外に行くと前進気勢が感じられましたが、それは、興奮につながるそれであるように感じたので、回数は、なるべく少なくし、正確な扶助に対する馬との理解を求めることにして、扶助に対するあいまいな反応を改善することを考えて乗りました。

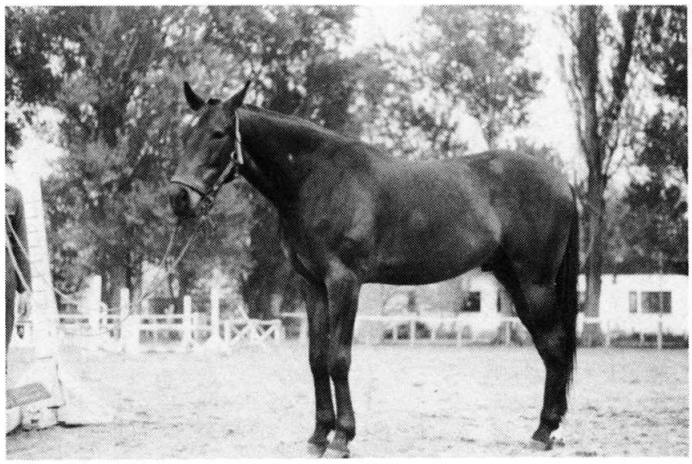
そうして、その後は、故障の為、常歩中心の運動となり、レントゲンの結果以後は、完全に馬休になり、再び乗れるようになるのは、六月以降ということで、今シーズンの試合に臨むかどうかで、非常に悩みました。小生としては、どうしても試合に持って行きたい気持がありました。がしかし、ある程度乗りこめるようになる期間は、試合までの半月ぐらい、よくみても一ヶ月、そしてそれまで数ヶ月にわたり馬休にしているという事を考えると、無茶でした。結局、今シーズンはあきらめました。そこで当然、年令と、故障の多いこと等を考えると、離厩という問題もおこってきました。後にひかえる新馬も多くいました。又部員も多くはありませんでした。でも結局は、そういう回りの状況ではなく、疾風という馬を考えた時、この馬の能力と、それまでの調教経過を考えた時、まだやれる可能性があると考えた結果、来期にかければよいということで、残すことにしました。離厩というのは全くイヤなものです。乗り手に恵まれなかった馬や、能力があるのに、引き出されずに、発揮できずに離

廃される馬等は、もっとかわいそうです。だから、部としては、人間のミスや失敗によって離廃にするということがないよう、馬を育ててゆかねばなりません。

現在北大の採用している自馬制は、秋に馬配を決定し、次のシーズンが終るまで、ほとんど、その馬配に当たった人が、一人で調教していくようになっています。ほかの人が乗るにしても、その馬の調子を見る程度のことです。そしてある馬と人とのコンビが練習過程において、ゆきづまってしまっても（試合の結果からの判断ではない）、そのまま、おしきっているような気がします。一人で二頭以上乗ってゆくのは、たやすいことではありませんが、悪くなってゆく馬を黙ってそのまま見過していくよりも、できるなら、その馬にも乗ってゆく余裕が、少しでもある人間がいて、その人が、調教して行くことができるなら、ずっと乗りつづけてゆくべきです。

しかし、部の外から、うまい人をひっぱってきて、調教してもらって部員が試合に臨むというのは、行きすぎです。誤解してもらっては困ります。外から、よい技術を持った人に来てもらって、教えてもらったりしてはいけないというのではありません。クラブ員が、主体となって調教していかねばならないと言うことです。チーフになるのは、簡単です。しかし、誰かに教えてもらっている時、本当に自分が、主体となってその馬を調教してゆくのは、難しいことです。以上最後は、疾風の調教とは、ズレてしまいましたが、これでおわりにします。

## ドン・ホッパー号



騙　中半血　黒鹿毛
昭和46年6月30日生
勇払郡早来町産
父　サラ　オーシャ
母　トロ　ハゴロモ
体重　五三三Kg

北大の中で唯一の父親である僕は、また唯一の知性派でもある。その豊富な知識のかたまりは、僕の日頃の態度ににじみ出ているであろう。他のやつらはどうして馬繋台で小便をするのであろうか。ひき綱のほどき方を知っていてわざとほどかないという事は、僕の人間に対する思いやりを示しているといえよう。

最近は、人間を馴致することに興味をおぼえ始めている。僕がお

じぎをすると、人間達はえん麦をくれるのだ。ハハハ……
バカ息子のガキがこれをまねようと試みだしたが、のろいので、父親である僕にはかなわないであろう。
また僕は、ススキノ界隈をぶらつくのが好きである。パートナーである増田兄の影響で、最近は、妙な裏通りばかりを歩いている。ススキノは僕の庭のようなものだ。北海道も僕の天下である。残るは全国！今年は一発、日本を統一しようと秘かにたくらんでいる。腹の円型脱毛症が気がかりであるが……。

## 調教報告「ドンホッパー」

高橋　均

引き続きドンポッパーに乗る事になり、今までの失敗をくり返す事なく、また人馬の折り合いが、まだついていない事を念頭に一からやり直すつもりで、練習を続けていたが、二月一日に放牧しておいた三角地から、雪が積もって埒が低くなっていたためドンが前肢は外に後肢はまだ三角地にそして埒が左腹部を圧迫して、しばらくの間そのままの体勢でいたために、腹筋断裂でヘルニアの疑いがあるとの事で、一時は今年の試合はもちろんこれからの乗馬生命も危ぶまれたが、幸いにして、三週間張り綱の状態を続けたが、二月末から、乗馬して徐々に運動を始める事ができた。これも小池先生を始め、部員の看護のおかげである。この間、怪我をした数日間、徹夜で看護にあたってくれた部員皆に、ただ頭を下げるのみである。横になって寝る事が大好きなドンにも三週間も、そうさせてやる事ができず、つらい思いをさせて、申し訳なかったと、ともにじっと耐え続けたドンがいじらしかった。
騎乗できるようになって二週間たった頃、また私の不注意から休ませる羽目になってしまった。その朝、吹雪だった為、馬休にし、一日、馬房に入れておいたのだが、その日の夕方、熱が三十九度以上もあり、左後肢を痛がってあまり負重せず、つなぎに熱を感じ、翌朝も体温はほとんど下がらず、肢の熱も管全体にまであり、丸太のように腫れ上がっていた。蹄冠部の裂蹄からのフレグモーネと判明し、マイシリンを打ってもらい、リバノール湿布を行なって、夕方には、熱も下がり肢の腫れと熱も幾分ひいてまずはほっとした。蹄冠部の傷にもっと注意してさえいれば、こんな事にはならなかったであろうに、チーフとして全く腑甲斐ない。一週間後に曳き運動を行なえるようになり、さらに一週間たって、やっと騎乗して運動できるようになったのは、ようやく、雪が解け始めたころだった。燕麦をほとんど与えていなかったので、やせて小さくなったように感じられた。しばらくは、外乗だけにとどめ、徐々に常歩だけではあるが、馬場で少し高さをつけたキャバレッティ通過や、二蹄跡運動を行ない、運動時間を増やした。
腹部の怪我で休ませた後も、そうだったが、今回も外乗に行くとちょっとしたものにも驚いて、落ち着きがなかった。しかし、それも何日かたつと、普通に外乗できるようになった。少しずつ速歩運動もとり入れて、四月半ばには、二ヵ月半ぶりに、駈歩運動を行なってみた。もうフレグモーネの件は何ら問題なく、腹部の方も、特に異常はあらわれなかったが、小池先生の指示もあり、障害はしばらく控えた。
このころ馬の首が右に傾き、まっすぐの姿勢をとらない為、輪線運動を行なって内方姿勢をとるようにさせたり、直線では、少し左

手綱を引いて、矯正し運動するようにした。しばらく注意して乗っていると、左手綱を引かなくてもだんだんとまっすぐを向いて歩くようになった。

五月初めの半沢杯の頃は、すでに障害も速歩で飛び始めていたが、無理をせず、ゆったりしたペースで調整を続けた。中旬の対酪農戦で複合に出場できるまでに復調し、だが、内容は、去年までと同じであった。六月初めの道自馬大会でも、パルクールこそ準備運動の状態と試合内容が一致して、いい結果が出たが、複合中障では、まだ、手の内に入れる事が、できなかった。馬体の方はほぼ治っているようだったが、まだ無理してもしもの事があってはという事で、選抜中障にはあえて出場しなかった。

幅のある障害を中心にまた、調教審査の課目の反対駈歩やアピュイエは、毎日やるようにした。調教審査で、去年は馬場埒を見て、埒に近づかない事が多かったが、今年は、もう慣れてそういう事はなかった。ただ隅角を内方姿勢をとらせることができず最後まで、これには悩まされた。アピュイエも反対姿勢になる事がほとんどだったが、これも騎手の未熟の為で、決して正しい姿勢をとらない訳ではなかった。

いよいよ北日学が行なわれ二回走行では、つまって二日とも二落下の合計四落下だったが、他馬はそれより多くの減点をくらった為優勝がころがりこんだ。しかし、内容からして優勝に値するものではなかった。総合では、調教審査で意外にも三位につけ、最終的に二位になる事ができた。それ程いいできとは思われなかったが、調教審査で三位につけられた事はうれしかった。

その後行なわれた道体兼国体予選ではスティープルの怪我で、翌日の余力及び成年障害に出場か否か、迷ったが国体の権利がかかっていたので、ドンにはかわいそうだったが、出場に踏み切り、ドンもそれに応えて成年障害でバラージェの二位になる事ができ、国体出場の権利を得た。この道体では、ドンとの折り合いがつくようになった感じがした。

九月の公認大会では、さらにドンとの折り合いのつく感じを強めた。しかし、ここで以後無駄な神経を使う失敗をしてしまった。水濠をまるっきり、クリアーせず、水の中に入ってしまうのである。試合前日、濠を馴致して、水の中に曳いて入れたのである。自分では、馴致の意味でやったのだが、それが裏目に出たのだ。この岩見沢競馬場の馬場の水濠は水たまりのように見えることもあって、試合当日、まったく気にせず、中に肢を入れてしまったのである。それからは北大でもクリアーしなくなってしまった。いろいろと手前にバーをかけたり、まん中にかけたりして、工夫したが、一度クリヤーしても、続けてまたやると、だめだった。水濠とは別に、シートをおいて、徐々に幅を広げていってみたり、低いバーの幅障害を飛んだりと、実に水濠に関して神経を使った。もう、国体、全日本学生の遠征の日が近づいていて、気をもんでいたが、遠征の数日前になって、やっと三メートルだが、水の中に入ることなしに、続けてクリヤーするようになった。そして、それ以上もう水濠には向けなかった。本当に、この水濠には神経を費やされてしまい、せっかく、上り調子になってきたドンとの折合いも、崩されてしまったような気さえした。

しかし、自信をもって遠征に臨むしかなかった。もし不安があれば、馬にもそれが伝わってしまい、良い結果は得られないと思った。国体では別記の通りだったが、全日学では少しかかり気味で、一日目こそ満点だったが、二日目はさらにそれが増して、前肢でひっか

け三落もさせてしまった。その状態が調教審査にも続き、徐々に点数を絶対的にも相対的にも取れるようになっていたのが、ここでは全く駄目であった。いったん札幌へ帰ってから再び上京しての全日本でも満足のいく内容ではなかった。最後の試合となった選抜中障で満点の馬が何頭か出た後に一落下してゴールを切ったとき、くやしさよりこれでドンとの付き合いも終わりだという感慨がわき、とともにドンに感謝の気持ちを抱かずにはいられなかった。

二年間ドンと付き合っていろいろなことが思い起こされる。暇な時はよくかまってやった。お手は左右の区別がわかるし（少しインチキくさいが）、こんにちはもやるし、キスもする（下手すると、歯をぶっけてくるが）。帽子とりはもう少しだった。馬場の隅にいても、私がドーンと呼べば鼻をならして近づいてくる。馬房に入っている時は見えない所で、私がのどをならせばドンはそれに応えて鼻をならした。時々私の足音で鼻をならすこともあった。この鼻をならさせるのは他の人間がやっても駄目だったので快感だった。こんな仕草も私に会えたうれしさよりも、えさをもらえるということでやる仕草なのだろうが実際はどうあれ、呼べば応えるという私とドンとのつながりは否定しえない。それでも馬場に放している時、夕方にならないと、私でもつかまえるのに苦労した。自由が好きなのである。ドンにとって馬場に放された時の楽しみは昼寝である。完全に横になってグースカ眠る。とにかく寝ることが好きなのか、馬房でもよく寝て、朝練習の時間になっても知らん顔して寝ている。かわいそうだが無口をつけて引っ張って起こす。そうでもしないといつまでも寝ている。ドンは咬むことは滅多にないがよくどつく。その力はすごい。前に立つと鼻先でどつかれ、飛ばされてしまう。また、みっともない事が一つ。鼻先を前につき出し、口をあけて、歯をがちゃがちゃ噛みあわせるのである。年寄りが入れ歯をがちゃがちゃやっているようで品がない。何故か水飲み台につながれている時および馬運車の中でのドンは非常におとなしい。いつもひき馬に行く時、まず最初に廐舎を出てすぐの所にあるポプラの葉を食べるのが日課だった。馬繋台では決して小便はしなかった。したくても夕方、ひき馬に行くまでがまんしているようだった。だからなるべく、一日中、馬繋台につなぐことはしないようにした。ドンの馬房はきれいで、ボロをする場所はだいたい決まっていて、それを自分で踏みつぶすことはしなかったので、朝、体にボロがついていることは滅多になかった、たまに顔についていることはあったが。

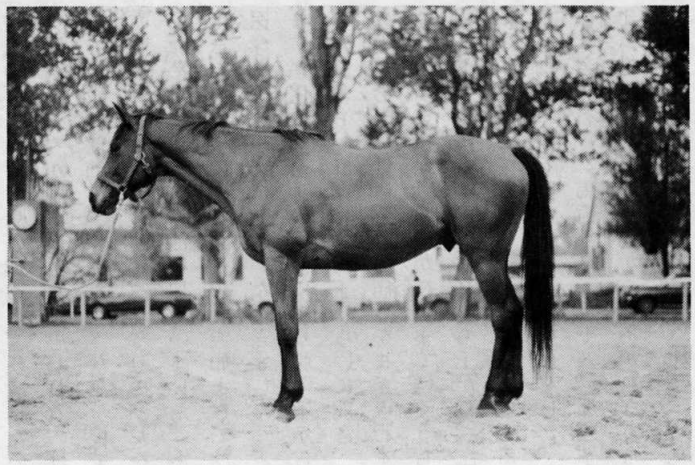
乗り始めの一年目は怪我などによる馬休が全くなかったのが自慢だったが二年目は最初から怪我をさせて休ませてしまい恥ずかしい。無事、普通に乗れるようになってよかった。何といっても運動できる状態にあることが最低の条件だと思う。ドンは疲れやすい面もあるが、意外と回復力は強い。

私が二年目の時の半沢杯、北日学での中障Bとずっとドンに乗させてもらったが、三年目の北日学二回走行一日目の失権など、内容の悪い試合の方が多かった。道内レベルだとそれでも入賞したが、全日本になるとそうもいかない。しかし、ドンには全日学、全日本で常に入賞する力はある。それを人間が如何にじゃませず引き出せるかである。全日本クラスの障害が高くてごついということはほとんどない。道内でも確実に満点を取れるようになれば全日本でも簡単なはずだ。私は満点の試合は数える程しかなかった。人間の未熟さ故にだ。名馬に乗っている以上、人一倍の努力が必要だった。そうでないと馬の力を引き出せようがない。

本当に素晴しい馬ドンに巡りあえた事は、この上ない幸せだった。

ドンにとっては不幸だったのかもしれないが……。まだ十一才のドンはこれからも華々しい活躍をしてくれることと思うし、またそう祈ってやまない。全日学での優勝を祈って！

北楽院



騙　サラ　鹿毛
昭和47年4月6日生
静内郡静内町産
父　ミンシオ
母　ジュラルディンツ
体重　五五九Kg

こんにちは。僕、北楽院です。競走馬時代の「マイ・キューピッド」という名前から、今は「キュー」と呼ばれてます。僕を呼ぶ時は、みんな、どういう訳か、めいっぱいの高い声で「キウッ」と呼びます。最近は、馬休の日の日誌に必ず「Q（休）」と大きく書かれているので、なんか変な感じです。

去年の秋には、腸炎になってしまい、皆さんにも御迷惑をおかけしました。自分でも、あの時は本当に「もう駄目だ」と思いましたよ。でも、僕は不死身です。今は、もう、すっかり良くなっていますので、御心配無く。

## 北楽院号調教報告

井上　京

一昨年の十二月より北楽院、部員にはQと呼ばれるこの馬のチーフとなったわけですが、さて、いったい何をしてきたのかというと、全くおぼつきません。が、とにかくいままでの試合や出来事、調教の経過（調教などといえるものかどうかわかりませんが）などを書いて行きたいと思います。

◇怪我と病気のこと

調教報告の一番最初から怪我や病気のことを書かなければならないというのは本当に心苦しいのですが、やはり去年十月のX性大腸炎で死にかけたことから書かねばならないと思います。治療に御尽力下さった小池先生、野田先生をはじめとする多くの方々、なにか

と援助していただき勇気づけて下さったＯＢの方々、そして一心に介抱してくれた部員達への感謝と、また二度とあのような恐ろしく苦しい思いを馬達にさせないことを心に誓うためにも、やはりあの病気のことを再び思い起こし、反省したいと思います。

発病のきっかけになったと思われるのは発病の五日程前に放牧中に右後肢の球節につくった小さな切り傷で、傷そのものは極く小さなものであったのですが、かなりのハレを伴い、フレグモーネを抑えるために抗生物質を注射していました。ところがハレもかなりひいてきた五日後の十月九日の朝突如としてひどい下痢を呈し、すぐ獣医学部の先生方に見ていただきました。ところが午後になるとますます悪化し、全身の発汗により腹の下からは汗がポタリポタリとしたたり落ち、肛門は一円玉ぐらいに開き、首を大きく左右に振っていかにも苦しげに、腹の痛みをまぎらわすかのようにふんばっていました。そういう状態が夜中まで続くうちにかなり疲労し、やがてときおり横になってはすぐ立ち上がり、二十分程すればまた横になるということを続け、そのうち立っている時間が徐々に短かくなり横になっている時の方が長くなりました。十月十日は毎年恒例の駅伝大会があり、馬術部も二チーム参加の予定だったのですが、一チームを棄権、そしてＱが立ちあがれなくなってしまった午後には、もう一チームも途中で棄権してしまいました。この頃がＱにとっての正念場であったと思います。鼻ずまりした鼻を苦しそうにズーズーいわせ、口は力なく開き、ピクリとも動こうとせず、体じゅうが冷たくなってしまい、もうこれまでか、もうだめなのかということだけが頭の中をぐるぐるまわっていました。暗く〆切った息苦しい馬房の中で何人もの手がＱの体をマッサージしている、あの時のみんなの真剣な目は忘れません。そして夕方、ふいに足を振り上げ、ふらつきながらも立ち上がったＱを見たときは、何という生命力か、何という精神力かと、もう死の瀬戸際から奇跡としか思えない力で帰ってきたＱがいとおしくてなりませんでした。以後徐々に快方にむかい、翌日には矢田さんが刈ってくれた青草を与えると食べはじめ、ずっと開いていた肛門も何日目かにやっと閉まりました。結局騎乗できるまで半月、体温が平熱になるまでひと月程かかり、また不整脈が現われたりして、虚弱体質だと言われましたが、若干体力に不安は残るものの、ほぼ元どおりになりました。単なるカゼか、それとも破傷風かとも思われたのですが、結局原因のわからないＸ性大腸炎ということで、死亡率の高い病気にもかかわらず生きてこれたというたとひとえに看病して下さった方々の力あってのことと深く感謝すると共に、全日学という檜舞台をふいにしてしまい、部に対し、またＱに対しひどく申し訳けなく思っています。肉離れやら骨折やら怪我、病気の多い馬なので、もう二度とこんな苦しみを馬に与えないよう新たに心に刻みたいと思います。

◇試合のこと

経路走行でいつも感じたことは回転の悪さ、手の内に丸くおさまらないで馬体が伸びっぱなしであること、そして騎手の固さなどです。障害に対しあまりこだわりがなく、（逆に潔ぺきさという点に欠けますが）かなり旺盛な前進気勢を見せるので、先にあげた欠点が改善されればもっと乗りやすい馬になるはずです。たとえば回転の悪さ、特に右回転では肩を出して回転するために大きくふくれてしまい、必然的に人は内側につぶれてしまう。明らかにこの欠陥が試合に現われたのは北日学二回走行の二日目で、六番と最終の前ど

ちらもほぼ同じ場所の同じような右回転で真直ぐ向けきれず左へ逃避されてしまい二反抗五落下、二回走行のゴールを切った馬の中では最下位でした。たまたま他の障害を素直に飛んでくれたからよかったものの、もう一つ反抗があれば失権というきわどい成績で、一日目六落下したものの無反抗で帰ってきたことを考えれば明らかに人の油断です。また右回転のむずかしさは下級生を乗せて試合に出たときも如実に現われ、秋の岩見沢での公認試合では築地が右回転からの閉鎖バンケットに向けきれず、標旗以外のところから飛び上がって経路違反失権、このときはチーフである僕までもが同じ所で同じようなミスを犯しかけました。また今年の酪農戦でも二年目の名越が、これは左回転でしたが三番障害に向けきれず、人の体だけ内側に残ってあえなく落馬というありさまでした。とにかく回転の改善のためには、馬体を丸くして確実に銜をかませつつやわらかくして行くつもりです。また回転とも関連することで、馬体の前後のやわらかさもどんどん求めていかねばなりません。たとえば試合での落下が多いのは馬体が伸びきっていることに原因があるのは前々から指摘されていましたし、下級生が北楽院で試合に出た場合、回転させれないというのはほとんどが馬が馬体を棒のようにしてつっ走るせいだと思います。とにかく回転にしろ馬体の前後のやわらかさにしろまず馬に銜をちゃんとかまさなければなりません。そしてそのために必要なのが三つめの人の柔軟な姿勢であり、騎座であり、挙であるのです。どうしても試合場で馬が突っ走った際には、人は挙にたよってしまい騎座が浮いてしまいました。半沢杯ではあまり感じなかった事でしたが、その後の自馬大以後すべての競技において、騎座のうわつきと、前傾の遅れを感じました。日高ケンタッキーファームでの自馬大の中障、それと公認の中障の最終障害では馬がつまって一歩はいっただけにもかかわらずあっさり落馬してしまいました。こうして考えて見ると推進・銜受け・随伴どれもがばらばらであり、結果的に今までの試合で失権もせずゴールしてこれたのはひとえにQの素直さのためであり、Qの前進気勢のためだとも思われてくるのです。今シーズンにはなんとか「人馬一体」の境地に達したいと思います。

◇練習のこと

試合のところで少し述べたように、今の最大の課題は銜受けです。乗りはじめたころから常歩では若干巻き込みがち、速歩ではつんとつっぱって走っていました。また、下くちびるをイーとひらいて、さも銜がいやそうな顔をして（実際騎手の挙がいいわけでは決してないのですが）走っています。今年の冬に思い切って銜を幅のひとまわり大きいのに換えてみたところ、かなり強くまたやわらかく銜を引くようにはなったのですが、根本的に先にあげたような問題が解決されたわけではありません。現在やっていることは確実に頭を下げさせ、また顎のやわらかさを求めながら前肢旋回、旋回、速歩の発進停止旋回、駈歩発進停止等です。そしてこれらの運動をやりながら決して銜をつっぱったり頭を上げたりさせないようにし、馬体を柔軟に使うことを要求しています。去年一年の経験から、運動の内容と目的を明確にして馬にまたがらないと、どうしても要求に甘えやすきがあって、自分ではやっているつもりでも、馬には変化が表われない、表われたところで極く軽微な変化で、根本的に変って行かないという事を感じましたし、今の三年生の乗り方を見てもそのような感じを受けます。そこで運動の内容は簡単でもよいから、

とにかく馬にこういうことをやらせたい、こういう変化をさせたい、そしてそのときの人の姿勢はこうでありたい、そのために必要な扶助なり操作を休みなく気を抜かずにやって行こうとしています。また要求をきびしくする（むずかしくするのではなく）ためにはそれなりの前進気勢も必要で、中途半端な馬の動きはさせないようにし、必要ならば輪拍などもよく使っています。そして最後には、これが一番大切なことだけど、馬が答えてくれた時点で手綱をゆるして受撫してやりえさを与え、呼吸をととのえさせ、もう一度反復するということです。うまくいかないことをだらだら続けないで、良いことを短かく、何回にも分けて、繰り返し繰り返しやらせるよう努めています。

◇最後に

去年一年を振り返ってみると、何もわからぬまま、試合ではただがむしゃらに馬についていこうとし、練習ではなんとかまとまりよくできるようにしていたようです。どの試合も不安のみが渦まいてQに過度の疲労を強い、結果的には馬は興奮と生まれながらもっている素直さのみで飛んでいたようです。わずかに昨年の最後の競技となった岩見沢の公認での準備運動で人の意図することと馬の動きに通じるような感触がありましたが、今年はなんとかはっきりとした人と馬の結びつきを持ちたいと思います。そのための練習です。日々の練習を大切に、西川さんがよく言われるように、「馬と話し合いながら」、積極的に乗っていきたいと思います。

北姫号

牝　サラ　鹿毛
昭和49年3月27日生
静内郡静内町産
父　アステック
母　ヤマニンザザ
体重　四九二Kg

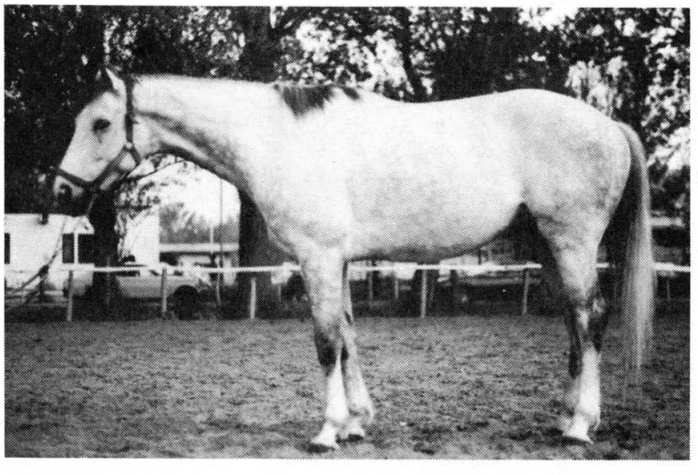
みよこの顔は、あの一億八千万円の馬カムイオーとそっくりなのです。ただ目のつく角度が少しちがっていますが。

線の細い馬ですが、なかなか気が強く、馬場に放されているときなどは、Q、ガキ、メールを子分に従える女番長といった感じです。一度メールとみよこが、いっしょに馬場に放されているとき、メールを最初に馬場から出そうとしたときのみよこのおこった顔は今でも忘れられません。なかなか魅力的な顔をしているのだから、もう少し、女っぽさがほしいという気がします。

## 北姫号調教報告

私が、ミョコに本格的に乗り始めたのは三年の十二月に入ってからであった。最初に感じたことは、その年のミョコの成長と活躍を見ていだいていたイメージとかなり違って、まだまだ何にも知らないし、不安定な状態だな、ということだった。やはり、もっと早くスムースにひきつぎをしておくべきだったと思う。二ヶ月位下級生ばかりにまかせておいたブランクは大きいようだった。まず障害に対する恐怖心が非常に強いのが感じられた。障害の前でひっかかりやすかったり、障害の大きさよりかなり高く飛びあがる等も、その恐怖心からくるものと思われる。しかし、非常に素直な性格で、あの細い肢からは想像もできないほどの飛越能力を有しており、その点はいつも感心させられた。そのほかに、馬体がかたい、踏み込みが悪く歩様が小さい、正しく脚を理解していない、等の問題点が感じられた。まず、障害に関しては最初にもどって、バーをまたがせることから始めた。そして、きちんと内方姿勢をとらせた輪乗りを繰り返し、体の柔難性をやしない、後肢の踏み込みをよくし、銜に出すように努めた。雪のため、馬場で満足に乗れない時は、駐車場で常歩の歩度の伸縮・停止・回転を多く繰り返した。これは、非常に効果的であったと思う。また、自分の姿が校舎の窓にうつり、自分のためにもなった。脚の理解に関しては、最初は特に速歩で強い脚を使うと、歩度が伸びずに耳を伏せておこる、というような状態だった。そこで、速度で蹄跡を大きく何度も回りながら、常に同じ

蹄跡で歩度を伸ばすようにした。これは非常にうまくいって、これをやり始めてから一週間もすると、大きな歩様でよく伸びるようになった。すると銜にもよく出るようになった。しかしながら、障害に関しては、少しのんびりしすぎて、試合シーズン直前になってあせりの中で急に程度をあげることになってしまった。試合のレベルにもっていこうとすると、障害前で走られてしまい、それをただ押さえようとするあまり、手綱を引っ張りっぱなしになってしまった。それがますます興奮させることになり、障害に突進してしまった。そして、絶対に止まられてはいけないという思いがあまりにも強く、走られたらそれ以上の脚で押そうとして、上体がゆれ、さらには飛越時に口を引っ張ってしまい、ミョコはますます障害をこわがる、という悪循環になってしまった。そして一時、銜にまったくでなくなってしまい、もう一度最初に帰ってやり直すことにした。そうしてようやく自信を取りもどしてきた矢先、スティープルの練習でかなりひどいけがをさせてしまい、馬休のまま夏の遠征になってしまった。これはまったく私の不注意としかいいようがない。そして北日学のスティープルでは、障害の端を飛ばせてしまったために、人馬転をし、手綱が肢にからんでタイムを大きくロスし、大減点をくらってしまった。それがなければ全日学の権利がとれたかもしれないし、特に団体が組めただろうと思うとまったくくやしかった。それでもこのスティープルでようやくミョコを理解できたような気がした。ところが道体のスティープルでは、今度は騎手が立木にぶつかり、落馬・放馬しタイムオーバーで失権となってしまった。下見の時に注意しなくてはと思っていたことをやってしまい、自分で自分が情なく、はらだたしかった。これらはいずれも人間がもう少し注意すれば防げたことばかりで、非常に悔いが残る。その後一ヶ月位は、床に入ればそれらのことが頭の中をかけめぐり、よく眠れない日が続いた。一年をふり返ってみると、どうも少し気おいすぎであったような気がする。あまりにもミョコを自分の型にはめ込もうとしてミョコのいい所をのばすことができなかったと思う。だから、今後は、素直で障害を尊重して飛ぶ、というミョコの長所を引き出してやることが必要であると思う。四年目の調教報告とはいいがたい内容になってしまったことをおわびして、以上で終わらせていただきます。



北将号

騙　サラ　芦毛
昭和49年2月14日生
浦河郡浦河町産
父　フォルティノ
母　マツノミドリ
体重　五六〇Kg

北大の十頭の馬の中で唯一のアシ毛です。その堂々とした容姿はモビーディックとも、怪傑ライオン丸の跨がる天馬とも、或いは「白い道産子」とも言われています。耐久などで、ケガだらけで帰って来て、赤チンを塗られた彼は、さながら紅白饅頭を見ている様です。彼の左眼は馬離れしており、歯は名越兄より強く、脚は町田兄より太く、とこれだけでも、その馬格が目に浮かぶと思います。近い将来、北大馬術部を担ってくれること間違いなしです。頑張って下さい。ね、先生。

# 調教報告「北将」

高橋　均

ドンホッパーが怪我で乗れないのをきっかけに二月に乗り始めたが四月よりチーフということで本格的に乗ることになった。今年は、とにかく小障で安定してゴールを切ることを目標にもし間にあえば北日学では、総合に使いたいと思っていた。

乗り始めた時は、速歩、駈歩後の常歩の時に、はみをいやがることが多かった。しかし、最初に、丁寧に常歩運動をやってから、速歩、駈歩をやれば、そういった状態は少なくなった。また輪線運動では、ほとんどなかったが、蹄跡に出て駈歩運動で、右回転しようとすると、つっかかってスムーズに回転できないことが多かったが、これも意識して内方脚で腰を外に押し出し外方のはみをうけ、押し手綱を使うようにすると、徐々に回転しやすくなった。この右回転での、つっかかりは後々障害の誘導においても苦労させられた。この時期において、下が悪いために程度こそ低かったが、障害にまっすぐに向けると、つっかかりもせずに、いい感じで飛越した。毎日少しずつではあるが、障害を何でもないものとして、思わせるように飛越するようにした。下の状態が悪くて、馬場で運動できないときは、外に出て駐車場などで運動したが、外だからといって興奮したり、つっ走ったりすることなく、落ち着いて、運動した。駐車場の場合は、馬場と雰囲気が似ていることもあろう。しかし、トレーニングセンターへ向かう道路で速歩の伸縮をやると、少しつっかかり気味になった。やはりまだ、外で走る癖はぬけきれていないようなので、徐々に、駐車場以外での運動もふやすようにした。その結果、六月、七月頃には、第一農場の外周でも落ち着いて、速歩、駈歩ができるようになった。このころは外乗にしても何頭かといっしょに行くとちゃかついて、落ち着きがなく、部班も、先頭にしても、最後尾にしてもつっかかって運動にならなかったが、夏以降、だんだんと、一・二年生の部班の最後尾について運動するうちに、慣れて落ち着いて、運動するようになった。競馬をあがってから三年たつというのに、まだ昔のことを忘れることができないのだろうか。

障害も連続して飛ぶようにしてから割りと落ち着きがみえた四月の末に、経路まわりを行なった。最初のうちは割りと調子よく飛んでいたのだが、最後の方で、右回転して向かうところを左に逃げられ持っていかれてしまった。続いてまた向け直したが、同じようにきられ、つっ走られらちの前でどうにかおさえ、何とか今度は左から向け直してやっと飛ばせることができた。この時、右回転に関しては細心の注意が必要であることを強く感じた。この結果から、半沢杯に出てもまだ無理であることを感じたので、六月の道自馬大会を目指して調整することにした。このころは、もうドンもほぼ完全に復調していたので、運動する時間などの兼ねあいから、なやんでい

たが、他の四年目もこの時期は乗る馬をしぼっていたため、半沢先生に乗っていただくことにした。北将は障害に対してはまっすぐ向ければ、たいてい飛ぶ素直さはあったのだが、つっかかって向けられないという状態だったので、まずがくをゆずらせることに重点をおいて、半沢先生には調教していただいた。だから毎日の練習の二時間の内最初の一時間近くを先生に乗っていただき、続いて二十から三十分、下級生に乗せ、最後三十分位私が乗って、主に障害練習をした。そのためドンにも充分乗ることができた。先生の方でいろいろと研究していただき、はみ身に、ゴムがついているはみを使ってみたり、ドイツ鼻革を使ってみたりして、その結果、だんだんと落ち着いて運動し、がくもゆずるようになってきた。だからはっきりいって私の方では、障害への誘導などに注意していろいろな障害練習をするだけですんだ。そのためいつも乗りかわって試合前の準備運動のつもりで強く運動し、それから障害をいくつか飛ぶというふうにした。少しどついかなと思った障害に向ける時は、必ず、神経質でありすぎる位、左手前駈歩で向けるようにして、左肩から逃げることのないようにした。果たしてこうやって向けて切られたことは一度もなかった。一度飛んで感触のよかった時は、右手前でも向け、左の手綱で壁を作って注意した。それでもたまに逃げられ、その時の馬の状態にもよったが、左手前で再度、向け直し、飛ぶということもあった。徐々に程度の高い障害、そして、今までは一個飛んでは、速歩にするなどしていたのを、連続して何個か飛び、またちょっとした経路を考えて飛ぶ。さらには少しむずかしいと思われる回転を入れた経路を考えて飛ぶようにしてみた。

五月の半ばに酪農学園へ馴致に行ったが久しぶりの外ということもあってか、落ち着きがなく、ちゃかちゃかしていた。このころはあまり外への馴致の時間をとっていなかったこともあったし、北大構内ではなく、全く別な所だったということもあるが、どこでも落ち着いて、運動できるようにもっと多くの馴致の必要性を感じた。

そうして、再び経路まわりをやった。入場は少しでも落ち着かせる意味で、常歩入場。これは以後も続けた。本来ならば、入場の時点で、速歩であろうと、駈歩であろうとも、気にせず入場できる位準備運動の段階で手の内にいれておかなければならないのだが、馬場に入ってから、ちゃかついて、スタート前に口に当てて、かっとするのを避けたかったからである。さて敬礼後、大きな輪乗りをしてから、スタートを切った。最初の何個かはスムーズにいったのだが、途中から、つっかかりそうになったため、その出そうになった瞬間をおさえて、がっちりもって障害手前で許すという感じでどうにかゴールを切ることができた。一応無傷でゴールできはっとしたとともに、まだまだ安心して経路まわりをすることはできないと思った。

いよいよ、日高ケンタッキーファームで、道自馬大会が六月の初めに行なわれた。北将は複合の調教審査のみと新馬障害にエントリーした。北将にとっておよそ一年ぶりの試合でもあり、私にとってもこの馬での初めての試合であったので緊張した。最初に調教審査があり、興奮したりすることはほとんどなかったが、運動の方はまだまだだった。そのあと少し時間をおいて新馬障害が行なわれた。準備運動でも意外に落ち着いて運動でき、障害には突進していったが、飛越後はすぐに落ち着いて運動した。いよいよ出番となった。馬場が広いので、とにかく走られないように注意して、強めに口をもって臨んだ。敬礼後、スタートを切り、一番を通過し二番に向かった。すると左の方によれ、逃げようとした。そこを何とか強引に向け、一瞬だめかと思ったが、ぼこっとその場飛びみたいな感じで

通過した。そのあと七番位まで同じような感じで、馬がいやがりながらも障害に向け、ぼこっという感じで飛ぶ状態だった。これは強く持っていたからだと思うが、もしそうでなければ逃げられて、障害に向けることができなかったと思う。八番位からは馬の方から向かっていくようになったが、その為、人間の方で推進がおろそかになった為か、最終トリプルのBで止まられてしまった。北将に乗って止まられたのは初めてだった。逃げられたことは何回かあったが、やはりがっちりと口を持っていて、推進が不足したら止まらざるを得なかったのかもしれない。そのあとAから向け直そうとしたが、膠着し始めた。なだめ、かつ、おこり何とか向けることができ、ゴールを切ることができた。ゴールを切れたという安堵感とともに、今後、北将に乗って行くにあたっていい教訓となった試合内容だった。

北大にもどってからは、時々外で運動を行ない、また外にある障害を飛ぶようにした。その結果、外での運動も落ち着きを増してきた。七月初めにスティープルの経路まわりをやった時は、ひっかけられるのを恐れて、おさえておさえて、障害前にゆるすようにした為、無事、障害は全て難なく飛んだが、かなりのタイムロスをした。やはり、外で落ち着いたとはいってもまだまだ経路まわりのように続けて走らせて障害を飛ぶと下手するとひっかけられてしまう状態だった。

七月下旬に、フロンティア乗馬クラブで大会があり、クロスカントリーと小障にエントリーした。小障では一落下でゴールしたが、この時は結構なめらかな経路まわりをすることができた。そのあとクロスカントリーが行なわれたが、このクロスカントリーに出場したことによって、北日学での総合における自信がつき、実に意味のある試合だった。北大で経路まわりをやった時は、場所的にも危険なこともあって、ひっかけられないようにがちがちに持っていたが、この大会の時は、走られても危険が少ないことで、ある程度走られても気にしないつもりで臨んだ。スタート後、一番までの間で二・三回伸縮をやり、そして一番障害に向かった。そのあとは、間隔があまりなかったので、また左右には逃げられないようになっていた事もあって、そのままのペースで進んだ。ちょっとした野原に出た時は、かーっと走り出したが、おさえようとすればおさえられる状態で、ひっかけられる感じではなかったので、馬なりに次へ向かった。馬の方で自分から向かって行く感じで、乗っていても不安は感じられなかった。川渡りも難なくこなし、最終の広い野原にぽつんとある六角障害も今までの馬の感じから、そのままのペースで向け全く逃げようとする気配すら見せずに通過した。ゴールまではまだ距離があり、速歩におとしたり、ゆったりした駈歩にしたりなど、自由に歩度を変えることができゴールを切った。

その後、帯畜大での北日学の総合のスティープルでは、人間の油断による二拒否はあったものの、減点区域外での人馬転をおこしながらもゴールできほっとしたが、うれしさよりも二拒否を許してしまった自分のミスがくやしかった。翌日行なわれた余力の障害では、一拒否、一落下、タイム減点をくらい、前日の十位から十一位になり、全日学への出場の権利はとれなかった。しかし、まだまだ安定感はないが能力のある北将をどうにかここまでもってこれて肩の荷はおりた。

九月に行なわれた今年最後の試合となる公認馬術大会で中障でもゴールを切れるのではないかと感じられる程いい状態ではあったがここで無理して失敗するより、確実にゴールして来年以降につなげる方がいいと考え、小障に出場、決して安定なとはいえないが、自

分で乗っていても不安なくゴールをきれた。

この状態にまでもってこれたのは、半沢先生が毎日乗りに来て下さり、調教していただいたおかげである。自分はただ、馬との折り合いがつくようにしただけである。本当に、半沢先生には感謝するとともに、北将のこれからの活躍を祈って拙文を終わらせていただきます。

## 北騅号

騙　黒鹿毛
昭和51年2月23日生
北大馬術部産
父　ドンホッパー
母　羊蹄
体重　五二〇Kg

ガキは最近、「こんにちは」を覚えました。みんなは、「あほな馬や」と言うけれど、あのりこうそうな瞳を見てください。ガキはうちの馬の中で一番、人間っぽい馬です。悲しくなると、えくぼがでるの、知ってますか。あんまり、いじめないでくださいね。彼は、人間を信じているのですよ。

そんなガキも、今年で六才。去年は、いくつかの試合で良い成績を収め、そろそろ立派な青年として、「ガキ」の名を返上しても、いい頃とも思うのですが、いや、なかなか。ガキはいつまでたっても、わんぱく坊主のガキですね。あいかわらず、いたずらが絶えません。

去年は、羊子かあさんが、厩舎を去り、さびしいかもしれないな。今は、足を悪くして、ちょっと調子が悪いけれど、早く治って、きっとドンとうさんと共に、北大の意地を見せてください。

頼むぞ、ガキ！

## 北騅号調教報告

前回の調教報告は、「現在昭和五十五年四月、全く馬との間に接点を見い出せない。やり直すほかしかたない。」で終っている。実はその前に、この馬を離厩しょうと考え、いったん離厩を決定しました。この馬の可能性が小さいとの理由でしたが、離厩の話の直接の引き金は、チーフの退部でした。しかし、周囲の人たちに反対され、思いとどまり、やり直そうと決心しました。その時が四月上旬です。

再び小生が乗り始めたのは、四月の上旬で、それまでは、恥ずかしい話ですが、OBの方が時々乗っておられ、小生は、馬をほった

らかしにしていました。おかげで馬の方の調子は上向きでした。
そうして、乗り始めて、すぐに障害の練習も取り入れ、小先自身この馬で始めて飛ぶような、障害も徐々に飛んでゆきました。サイコロ、カマボコも初めて飛びました。新馬で、飛んだ事のない障害を飛んだ時には、格別の喜びがありました。
半沢杯が、さし迫った四月二十七日、調子がいいので、急きょ他馬と一緒に小障程度の経路回りを初めてしました。結果は、回転等に問題はあるものの、半沢杯にもってゆけそうなので、半沢杯で小障にデビューしました。結果は、満点。続いて酪農戦小障、レンガ障害の後、すぐ右回転してバンケットに向う所で左に切られはしたものの、あきらかに人間のミスであって、それ以外は、初めての外での試合でしたが、無難にこなせたようです。そして道自馬、新馬障害にエントリーはしたものの、その障碍の大きさが、その試合のレベルにしては大きく、又他馬にも乗っていた関係上、競技前の準備運動に、ほとんど時間がとれなかったので、非常に不安な気持で競技に臨むことになってしまいましたが、結果は一落で一応ホットしました。
さて、道自馬が終った地点で、それまではこの一年間は、小障でと思っていましたが、急きょ目標を換え、総合馬術競技に持っていくことにしました。結果として、これが大きな失敗となりました。
道自馬から帰ってきてからは、総合に向けての練習となり、調教審査は、ある程度無視したが、現在の馬のレベルよりも、試合のレベルに合わせての練習となってしまいました。
中でも、野外騎乗には、大なる不安がありました。昨年の部報にも書いたように水は、大の苦手であった為、必要以上に意識しました。中央ローンの川等、その頃、校内にある水を求めて、あらゆる所に行きました。又夕方のひき馬でも、よく中央ローンまで連れて行き、一緒に川の中で遊んだりもしました。楽しかったものでした。その他野外障碍も徐々に飛んで行きましたが、ここで大きな失敗をおかしました。充分な繁張を馬に求めないで安易に、障碍にむけてしまって、何度か切られてしまいました。その後すぐに飛ばしはしたものの新馬であることを考えると、絶対にしてはいけない事でした。
馬場の障碍も徐々にレベルを上げていこうとしましたが、なかなか思うようにいかず、道自馬前の感じは徐々になくなりつつありました。焦りもあったかもしれませんが、努めて、普段はムリをせず、試合にピークを持っていけるようにと考えて、ある程度、試合がさし迫った時に、この馬では、初めての一二〇cmクラスの経路回りを行いましたが、トリプルのaでバランスをくずし、bとc、特に、幅もあったcで大きくつまり、まるで並足飛越のように飛んでしまい、つぎのつい立て二段に向ける体制ができず、巻き乗りしてしまいました。そして、向けた、ついたては、よじ登るようにして飛び、完全に停ったという印象の飛越でした。つい立ては、前から少し、苦手意識があったので、不安がつのりました。その後は、とりあえずつい立てを、ダブルのbなどに入れて、一応練習しておきました。
一方、スティープルの経路回りでは、準硬グラウンドの横のガードレールのある川をなかなか渡らず、やっとの思いで通過させるという状態でした。しかし、本番では、川がでることは確実でしたから、徹底的に川の馴致をさせる為、フロンティア乗馬クラブに数日間連れて行きました。当クラブにある川は、大きな川でしたが、他馬の後をついて行ったにもかかわらず、全く渡ろうともしません、已むを得ず、三十分ほどの悪戦苦闘の末渡らせました。次の日も、

何度も通過させておきました。その次の日の、当クラブで行われたクロスカントリー競技に出場し、その中の飛び込みになっている川を、何なく通過でき一応ホッとしました。

しかし、右のような一速の行為で、馬は騎手に対して信頼を失ってきていたのは確実でした。明らかに、種々の運動や、扶助に対する反応として現われました。このような状態で、北日本馬術大会が開かれる帯広に行くことになってしまいました。

帯広に着いてからの練習では、よく前に出て、いい動きを見せてくれました。ただ少し脚に純感なのか、気にかかる程度でした。又挙に対しても、いささか乗り気味のような気がしましたが、一応の扶助には、応えているようでした。

北日本では、総合とB障にエントリーしました。

さて、ガキで初めて出る総合、不安と期待と何とも言えぬ思いでスタートを切りました。第一障碍で失権、ドン底、何が何だがさっぱりわからなかった。後になって言えることですが、第一障碍を飛んで、その後の障碍で失権した馬は、二頭ぐらいだったようです。確かに難しい障碍だったかもしれないが、そんな事は、どうでもよかった。

その後、余力にオープンで出ようと思いましたが、B障の方が、やりやすいだろうという判断で、B障にかけることにしました。幸い余力が終了した後、馬場が開放されましたので、水濠とトラケーネ以外の余力の経路を回ることができましたので、B障は、大丈夫だろうという気持で臨みました。しかし、ここでも信じられない事が起こりました。二番の余力には出ていなかった、つい立てで失権。確かに、つい立ては苦手でしたが、それまで、馬場内の障碍で、一度も停ったことがなかったので、もう何が何だか分らなかった。

どこかへ逃げ出したい気持でいっぱいだった。一人になりたかった。でも逃げ出す所もなさそうなので、馬場の隅角の所で、その後の競技を見つめていた。ふと遠くに目をやると、ガキが、何もなかったように曳き馬されていました。「ガキ、ゴメン」

北日本大会を振り返ると、ガキは、それまでには、見せなかったいい動きをしていたように思えました。慣れない所に来た緊張が、うまく作用して、ほとんど興奮することもなく、逆に適度の気合いが馬に入っているようでした。がしかし、今回の試合レベルに強引に馬を持って行こうとしたのが、間違いだったようです。競馬場から来た馬なら、ある程度の運動を課せられていて、少しは体もでき上がっているでしょうが、ガキは生まれてから、ほとんど運動もせずに育った馬でした。まだ三年目の時に、このどうしょうもない馬を、何とかしょうと競技についてあまり考えずに乗っていた頃の方が、生き生きとした動きをし、障碍さえも安定していました。そして四年目の時は、途中にブランクはあったものの、この馬に乗って二年目だというだけの理由で、馬の成長と、自分の技術の未熟さを顧みることなしに、強引に総合まで持っていこうとしたのが、失敗でした。

ガキは、少々飽っぽい所もありますが、根気づよく、丁寧に乗ってやれば、馬の方から必ずそれに応えて来ようとします。障碍に対しても旺盛な前進気勢をみせることも多々あります。とかく障碍前で、押せないとか問題になりますが、それだけを取り上げないで、運動全体を大きくとらえることが必要だと思います。

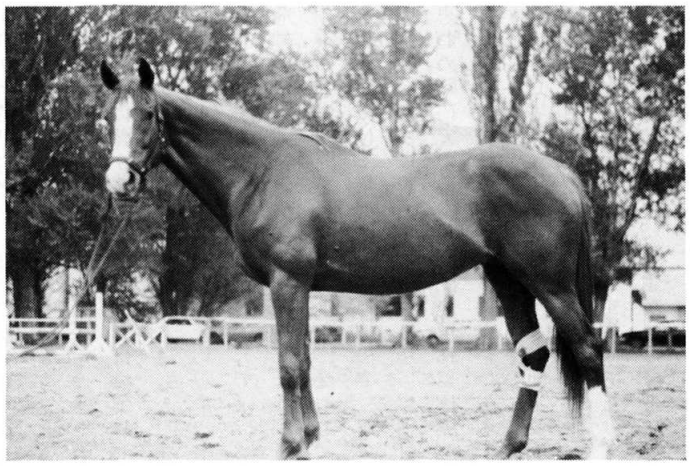
以上、少々支離滅裂で、低レベルの調教報告となりますが、これで終りにします。

馬という動物は、本当に愛らしい動物です。小生そんな馬に、よ

く首に抱きついて遊びました。抱きつかれたガキの顔は、少々迷惑そうでしたが、かまわず抱きつきました。

小生の身勝手さを受け入れてくれたガキに感謝します。

## 北美号



牝　サラ　栗毛
昭和44年4月10日生
静内郡静内町産
父　スパニッシュ
　　イクスプレス
母　ゴールデンメルド
体重　五四〇Kg

北大一の美人ならぬ美馬です。可哀そうに諸兄達は、馬房の前で彼女にキスを求めるのですが、どうもふられることが多いようです。メールは、曳き馬でも、手入れでも、とてもおとなしいので、一年目は大好きです。ただ、とても憶病で、曳き馬中、突然立ち止って首を高く上げ、耳をピンと立てて、遠くをじっと見つめていると、とても心配になります。メールの牛嫌いは、有名なのです。

それに、とてもひかえ目な性格なので、友達の北姫姉には、いつも飼付けを横取りされてしまいます。

かわいくて、いじらしいメーちゃんです。今年の活躍を祈ります。

## 北美号調教報告

松岡　功

僕がメールのチーフとして正式に乗り始めたのは道自馬の後の六月中旬でした。スターライトの責任者として失格した自分です。当初はメールとともに部の戦力として戦っていくのは非常に困難であるように思えました。しかし、そんなことは言っておれません。ライトに乗ってきて感じたこと、教えられたことを頭に入れ、新たな気分で臨むことにしました。

運動の反省に入る前に、僕が乗り初めるまでの経過についてふれておきます。一昨年の十一月、小栗さんより正式に部馬としていただいた後、責任者として騎乗していた者が昨年早々退部したことにより、僕と北畑がチーフとして調教に携ることになりました。冬場で思うように運動ができなかったことと、僕がスターライト、北畑が北雛と、ともに難しい馬に乗っていたため、あってはならないこ

ととは充々知りながらメールの運動がどうしても疎かになりがちでした。こんな中で、三月九日の東北大学との定期戦に向けて、二月の中旬から大学構内の道路や駐車場で障碍の練習を始めました。場所的にどうしても直線的な運動が主になってしまいましたが、キャバレッティからの連続やうさぎ飛びを中心にして行いました。また右回転に難があり、馬場内では輪乗りで脚によるスムーズな回転と馬体の柔軟性を求めて運動しました。東北戦では北畑と一年生が騎乗し、東北大の人のものも含め四走行中、落下はありましたが、結果はまずまずでした。ただ内容では、踏み切りが不安定なことと飛越姿勢が固いのが目につきました。この試合の後、僕はスターライトの運動時間を長くとるようになって、北畑が中心に乗っていきました。そして半沢杯では中障碍で三落で三位に入賞し、そのまま順調にいくかに思えました。しかし、道自馬に向けての練習中に、思わぬ障碍での拒止や反抗が現れ、体調から来るものかとも考えましたが原因がわからぬまま試合をむかえました。結果は複合、中障とも馬が膠着し失権。僕達のメールに対する認識不足と甘い考えに対する洗礼であったといえます。

このような訳で新たに騎乗するにあたり、徹底的な馴致と、メールの性格を把握し、これを生かした練習法を見つけることを土台にしてやってゆくことにしました。まずは馴致。乗り初めて最初の外乗で構内をぐるぐる回ったのですが、メールのいやがる場所が多いのにびっくりさせられました。牛舎や豚舎、鶏舎の周辺、水の流れる所、何の変哲もない所でも急に立ち止まったりしました。そこで、毎日の練習の初めに外乗を取り入れ、いろんな目新しい場所へ行くようにしました。小さな水たまり、枯れ枝や枯木を障碍とみなしてまたがせたり、下級生が一生懸命整備してくれたスティープルコースへも欠かさず足を向けました。また、農場や、恵迪裏の水路も何回も繰り返して行い、中央ローンの小川なども利用しました。こうして、だんだんと落ち着いて歩ける所が多くなってきたのですが、このような外での運動は、馬の気持ちを把握するのにも役立ちました。林の中の用水路を渡ろうとした時などは、僕の命令と、恐怖心との間で葛藤し、僕と水を見比べながら恐る恐る水の中に入って、この時、大げさにほめてやると、ほっとしたような安心した表情をみせ、何回も通過するうちに、自分から入ってエサをねだったりし、この馬にもこんな一面があったのかと驚かされたりもしました。

馬場内での運動は、自分の脚を理解させることを主視にして進めました。初めはハミを軽く持って、脚を大げさに、しかも確実に使うようにして前に出すように心がけ、大きな輪乗りと、蛇乗りのような連続した左右の回転を組み入れ、左右の脚に対する従順性を求めました。この運動を続けていくうちに、おもしろいように左右の脚に反応するようになり、右内方姿勢での馬体の堅さがみられましたが、さほど気にならず、回転もスムーズになりました。また、初めは突っ張った感じで無頓着だったハミに対しても徐々に敏感になり、力強い停止、迅速な減脚が可能となり、ゆったりとした、大きな動きをするようになってきました。歩度の伸縮、とりわけ、伸ばそうと脚を強く使った時には、首を伸ばして肩を大きく使い、ハミをとって伸びてゆく状態がつくれ、脚と挙による歩度の調節、回転が思うようにできました。ただ、駈歩では多少頭が高くなり、首の使い方が下手で、この点はなかなか解消できませんでした。これらの運動の中で特に注意したことは、馬のリズムを大切にし、馬の動きとできるだけ一致した状態で、あらゆる扶助、命令が出せるようにすることでした。

障碍は、速歩で小さな巾をつけたものを多く取り入れてやりました。頭初はつまったり、遠くから馬体が伸びきった飛越が多く、踏み切りが不安定でした。しかし、これも歩度の伸縮が確実にできるようになってからは、障碍前で伸ばせるようになり、一定の位置での踏み切りができるようになりました。駈歩飛越では特に伸縮に注意しました。脚によってスピードではなく、一定の歩度で緊張を高めることができるようになってからは、馬が障碍に注意するようになり、踏み切りを誤ることが少なくなり、力強い大きな飛びをしました。こうして運動は思ったより順調に進んだのですが時間不足はいなめません。駈歩や、障碍上での首の使い方が不充分なこと、また、馴致の面でも牛に対する馴致をはじめ、数々の問題点が残っていましたが、未解決のまま北日本学生の大会をむかえました。

北日学の最初の試合は中障碍。今まで経験したことのないような大きな障碍ばかりでしたが、それまで消化した練習と馬の調子から自信はありました。しかし、ここに大きな落とし穴があったのです。一番、二番と順調に通過、五番を飛んだ後の右回転でふくれてしまい無理な姿勢で六番に向かう。ここで障碍の上に乗り上げてしまい目前に位置したトリプルに向かえず、巻乗りをして再度アプローチするも勢いがなく、二回、三回と反抗されあえなく失権。二走行目は、一走行目より悪く、四番の白樺三段で失権してしまいました。馬のとまどいに対して適確に対処する冷静さを欠き、人馬の間の歯車のずれが大きな原因です。この後遺症は続く総合にも出てしまいました。調教審査は普段の練習をそのまま出せば何とかなると思っていましたが、馬場という先入感が強く、慣れない姿勢をとったため、確実なポイントを押えることができず、アピュイエも岡田監督に指導していただいて練習してきたにもかかわらずほとんど様にならなくて、反対駈歩に致っては全く為す術がありませんでした。翌日のスティープルは放牧した牛の群れに向かう第一、第二障碍で膠着し、何とか通過させたものの最終の三つ前の障碍で力つき三反抗。四回目にまたぐように通過してゴールまで行ったものの腹の拍車傷だけが痛々しく残りました。全日学の権利どころではない。このままではメールの存在じたいが危ぶまれる状態です。続く道体には最後の勝負のつもりで臨みました。

北日本から道体まで一週間の間隔がありましたが、馬体の回復は思わしくなく、試合の前日も破行を呈していました。馬匹という身にあるまじき行為ですが、痛み止めの注射をして総合に出場しました。悪いことに今度は僕が以前痛めた腰が調教審査後に悪化し、歩くのもおぼつかなかったのですが、腰にカイロを巻いてスティープルのスタートをきりました。メールも僕も必死でした。しかし、北日学のときとは打って変わって快調に進み、僕の誘導ミスの一反抗と、わずかなタイム減点でゴール。余力も五落で、結果は六位でした。やっとメールの状態がつかめた思いがしました。この時点で、かなり馬体に無理をさせていたため、成年障碍は棄権し、公認大会に望みをつなぐことにしました。

北大に帰ってからは心配した馬体の崩れも出ず、帯広での経験をふまえ、回転をしてからの障碍とコンビネーションを中心に運動しました。メールの状態は日々に良くなっていきました。短時間で緊張がつくれ、集中した運動ができ、馬体への影響も最小限におさえることができました。そして、駈歩でも頭が下がり、ハミを意識するようになり、障碍間の回転もかなり改善できました。こうして、短い期間だったけど頭に描いたとうりの運動を消化できました。

公認大会は岩見沢競馬場で行われました。ここではパルクール、

中障、大障Bに参加。今後メールが北大馬術部での存在が許されるかどうかの試練、そして、それを認めさせる最後のチャンスです。準備運動では今までになかった強い緊張状態がつくれ、押えられないほどの前進気勢が現れてきました。メールに乗るようになってから初めての経験です。ここにきて、やっと今まで求め続けてきたことをつかんだような気がしました。そしてスタート。結果は、パルクール三落下、中障三落下、大障B五落下と、落下は多かったのですが、複雑な回転も難なくこなし、壁のような大きな障碍でも全く躊躇せず飛んでくれました。よくやった。ありがとう。でも、僕はおまえの力を充分に出してやることができなかった。ごめんな。だけどこれでみんな終ってしまった。大障Bでゴールした後、馬装をといて人参をやりながらメールの走行中の恐怖の面影が残る表情を見ていると何だか急に空しくなってきました。

公認大会が終った後、後輩への引き継ぎに入りました。今度新しく乗る人にはメールの能力を最大限に発揮してもらいたい。そう考えて取り組みました。こうしている矢先、北楽院が奇病に倒れ、急きょ全日学に参加することになりました。それまでの一ヶ月間、ほとんど運動していなかったため、馬の状態は決して良くありませんでした。それなのに、再び乗り始めた日、公認大会と同じようなつもりで運動してしまい、ダブルの障碍に突っ込んで、両前肢に怪我を負わせてしまい、何もしないまま東京へ出発することになりました。

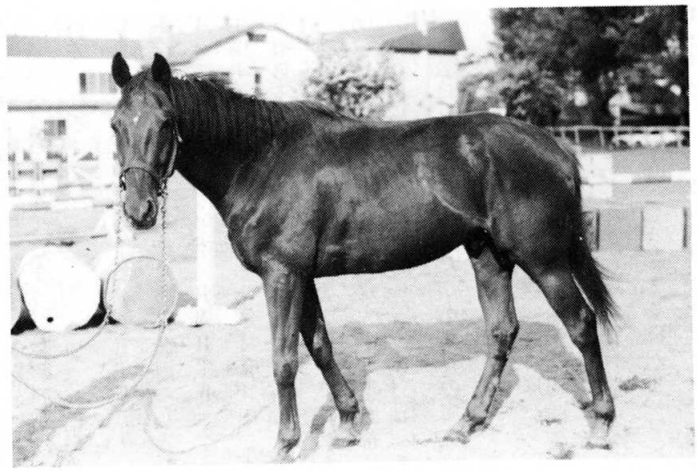
東京に着いた次の日、試合の二日前、心配した足の腫れも出なかったので久しぶりに三十分程運動しましたが、破行は感じられなかったものの馬体の柔軟性に欠け、馬の動きにも勢いがありませんでした。試合の前日は、速歩と駈歩を混え一時間ほど障碍も組み入れて練習しました。そしてむかえるは障碍飛越競技の第一走行、準備馬場に入る前にドンポッパーが満点でゴールしたことを聞く。寂しいことに今年の北大からの参加は二頭だけ。そしてそのドンポッパーがやった。高橋がやってくれた。ほんとにうれしかった。よし、今度は自分の番だ。そう思って準備馬場に入りました。しかしメールの状態がつかめない。動きが重苦しい。そして拒止。北日本での失敗が頭をかすめ、障碍を直しながら下級生が心配そうに見上げる。いけない、いけない、ここで自分が落ちつかなければ。入場、どの障碍もみんな山のようにでっかく感じる。スタート前に左に寄れ反抗しようとする。尻鞭を入れて一番に向かう。「それ。」後は必死で脚をつかってひたすら前へ、そして大声をはりあげるだけでした。結果は六落下。思うように足が上がらず、ただ障碍に突っ込んでゆくだけになってしまいました。でも、人馬とも初めての馬事公苑で不満足な状態であったにもかかわらずゴールできたことがとてもうれしく思いました。第二走行は、馬の状態が前日よりだいぶ良くなったものの、自分のミスで(一)三十五も減点をくらってしまいました。僕の出す要求に対し、メールが必死になって答えようとするのが手に取るように感じられただけに、自分さえもっとしっかりしていれば、という思いがこみ上げてきました。最初の予定は障碍だけだったのですが、運良く総合にも出られるようになりました。まずは調教審査。折り合いがもう一つだったのですが、アピュイエは何とか反対姿勢にならずにこなすことができ、反対駈歩も苦しみながらやることができました。耐久は、非常に調子が良く、これならば、という気のゆるみが最後に出てジグザグのダブルのBで寄れて、このとき落馬というおまけ付きで(一)九十五。再び自分のミスでメールに汚点をきせてしまいました。最後の余力は何とか満点でと思ったの

ですが、後半乱れて二落下に終りました。

以上、のんべんだらりと結果の羅列に終始してしまいましたが、メールに乗って感じたことは、如何にして馬の状態をうまく向上させてゆくかということです。急に馬の能力を向上させようと思ってもそう簡単にゆくものではない。今、自分の乗っている馬がどうなっているかを見極め、適当な時期に新しい要求や扶助を与えなければ能力の育成にはつながらない。何の下地もなしにそれをやろうとすると無理、押しつけになりかねません。馬にいろんな単純明解な問いかけをし、それに対してどのように答えるかを注意深く観察することによってのみその下地ができるのです。今後に残されている課題はたくさんあります。飛越姿勢の固さ、反対駈歩、アピュイエ等々。これらを解消してゆくためには、メールだけに限らず、馬の調教にあずかる者が己れを知り、時々刻々と変化する馬の心を把み、その心を自分の方に向けさせて一つ一つの運動を積み重ねてゆくことです。難しく思えるかもしれないけど、半ば馬と生活をともにしている馬術部員にできないはずはありません。また、これをやれるというのが学生の最大の武器なのです。

最後になりましたが、いろいろと御指導下さった岡田監督、小栗さんを始め諸先輩方、ほんとうにありがとうございました。そして飯野君、君の手でメールがより一層飛躍することを祈ってペンを置きます。

## 北皇子号



騙　栗毛
昭和51年5月12日生
新冠郡新冠町産
父　アストラル
　　グリーン
母　ハーバーガール
体重　五二〇Kg

昨年新馬として紹介された彼も実にたくましくなり、昨年の数々の試合で彼の初恋の勇ましい姉を背に大活躍をしました。

彼は感じやすい質で、手入れの時などは一苦労です。体にブラシをかけようものなら激しいダンスを踊って手入れする者を困らせます。それに彼は冗談が好きで学生服を引きさいてエプロンにしたり服の端をくわえて、引っぱりもせずボケッとして「餌をくれるまで

離すものか」といった態度をとるのです。そんな彼にも弱いところがあります。のどをこすってやると気持ち良さそうな顔をしてすぐおとなしくなるのです。馬房の中では恋仲にあった隣のだんなとも大げんかをしてこれからは男らしく生きていくことでしょう。最近新しいブルーの牧士をもらって得意そうな顔をしている彼は、今後の活躍を最も期待されている馬たちのうちの一人です。

# ギャランに関する調教報告

五年目　西　川　理　一

北皇子（競走馬名ハーバー・ギャラン、五十四年六月二十三日、入厩）。この馬に約一年間乗って、折橋妹に引き継いだ時のひとり言、「やれやれ、何とかかっこがついて良かった。」

帯広での夏の試合、中障害Bで最終障害の落下のみ。その他は不安はほとんどなく、一生懸命障害に向かっていった。オープン参加の為念願の賞状はとうとうもらえなかったけれど、タイムでドン、柏栄をおさえて記録上は二位。（満点はブラック・ポパイ）ある程度自信はあったけど三度目の試合、それも初の中障害の試合ということで不安もあっただけにうれしかった。その後の試合は三年生の折橋妹に任せた。人の方に多少不安はあったが、馬は飛ぶと信じていた。結果は野外騎乗以外は満点できるものだった。

しかし、今だから言えるが初めて新馬を調教した僕にとって、一時期このギャランは荷が重く、匙を投げたいような気持ちの時もあった。競馬場からもらったこのハーバーギャラン、僕らが三年の時に希望していた雄で肢が丈夫で馬格のある馬という条件にほぼ適う馬だったが、全体的に線が細いのが気になった。

ギャランアクシデント　ＰＡＲＴⅠ

五十四年七月二日

獣医で去勢してもらう時、麻酔薬で逆に興奮し大あばれ。わく場からはずして寝かせて手術。

ギャランアクシデント　ＰＡＲＴⅡ

Ｍ字を飛ばせようとするがごねる。仕方がないので鞭や拍車で懲戒するがへたりこんでしまう。数時間かけて何とか飛んだが先行きが不安になる。

ギャランアクシデント　ＰＡＲＴⅢ

四年目篠田君、曳馬中に腹部を蹴られ入院。

ギャランアクシデント　ＰＡＲＴⅣ

生傷男の異名を持つアントニオ西川君、ギャランの反則の急所蹴りを喰らう。一週間入院。――新聞によりますと北大生西川君は馬場内でギャランと一緒に障害を飛んでいたところ、レンガを飛んだ瞬間ギャランの左回し蹴りが大事な下腹部に決まり、その場に倒れました。本人の話によりますと、蹴られた瞬間息がつまるようになり、意識ははっきりあったがあまりの痛さに声が出せなかった、ということです。その後彼は救急車でうずくまりながら運ばれ、病院で恥ずかしくもうら若き看護婦さんにパンツを脱がされ、膀胱から直接小水を取る為何と管をかわいいお○○○に通されたそうです。

と数々の事件にもかかわらず調教は進んでいった。といっても最初のうちはまったく言うことを聞かず、すぐ厩舎の方に帰りたがり頭も高くかってばかりしていた。（この頃こういった状態がずっと続き、いいかげんいやになり、また、オレに新馬調教なんかできるのかと思ったりもした。）しかしある時、初めて逆鞭で頭を下げハ

ミを引くようになった。その時初めてギャランに対して愛着を感じ、よしやろうという気持ちになった。その後は去年の部報にも書いたように頭を下げハミを引き脚もわかってきたので「障害飛越の理論と実際」の飛越馬の調教の通り調教を進め、半沢杯でデビューした。

ところが、準備馬場で馬が変わり頭を上げまったく人の方に注意をしなくなった。止めてなだめても他の馬や物を気にし、叱ってもおどおどするばかりだった。結果は満点だったが内容は目も当てられなかった。順致不足を痛感した。その日以来逍遙騎乗だけでなく野外でも運動をする。最初のうちは頭を上げるが、毎日やっていくうちに人の方に注意するようになる。

日高ケンタッキーファームでの道自馬。準備運動は前の失敗を繰り返さないように時間をかけ落ち着けることに専念した。（普段の練習で充分障害はやってきたんだから、今さらばんばんやることはないんだ。落ち着け、落ち着け。）前の試合とはうって変わってギャランは落ち着いていた。場内に入り礼をした後、駈歩で伸縮をやる。脚に素直に反応する。いい感じだ。第一障害なんなく通過。第二障害竹柵、見る。少しやばいと思ったが強引に飛ばせる。後は大きな馬場をスムーズに飛んで行った。最後のトリプルで一落し、またしても賞状は取れず四位に終ったが、一年目が口々に惜しかったと本当に自分のことのように残念がっているのがとてもうれしかった。

ギャランでもう一つ手こずったのは濠である。特に水濠には手を焼いたが、時間をかけて大丈夫だというのをわからせれば飛ぶし、飛べば入れるのは結構簡単に出来た。またちゅう躇した時にはすぐ声と鞭を使えば通過するようになった。ただどうしても行きたくないという時もあったが、これは人に対する反抗というよりも馬がその物に対して不安を持つからで、そういう時は無理強いしない方が良かったと思っている。しかし、一旦飛ばそうと思ったらどんな事があっても飛ばせなくちゃいけないと思いとことんやった。この辺が難しいところだが……。

今こうして一年を振り返ってみて、また折橋妹が乗っているのを見て、何とか性格も素直なまんまで、調教も大きな間違いもせず（足りない部分はいろいろあると思うが）できたことをほっとするのと同時に、四年間クラブで得たもの、特にツバメが二年間教えてくれたもの、僕なりに理解した自然馬術というものをギャランで実践できたことをうれしくまた誇りに思っています。後は折橋妹がギャランと共に馬事公苑に行ってくれるのを望むだけです。

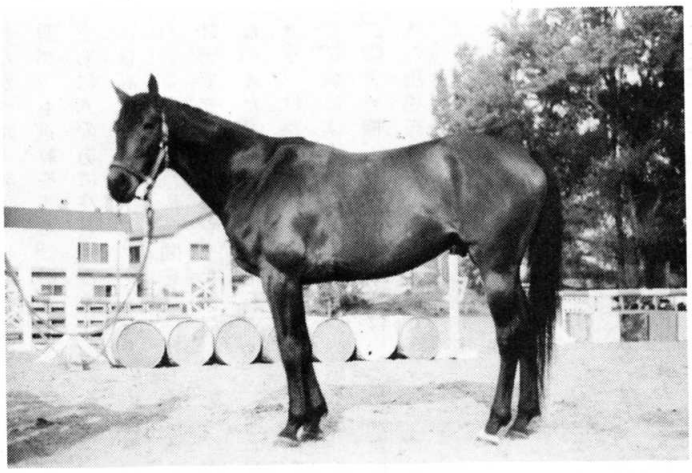
最後に後輩諸君に一言。

恐れずに自分たちのやっていることを信じ、

切磋琢磨して思いっきりやって下さい。

最近馬場内で声が少ないのが気になります。自分一人だけではうまくならないということを忘れずに。

# 北耀号



騙　サラ　鹿毛
昭和46年3月17日生
浦河郡浦河町産
父　ヘンリーヒギンズ
母　タマホマレ
体重　五五四Kg

今、北大では一番の新顔――本名は「北耀」、通称を「ピーター」。以前、外厩で孤独な生活を送っていたが故か、はたまた北大に入厩前からか定かではないが、性格は決して良いとは言えぬ。馬房の前を誰かが通ると、必ず突進してくる。前肢の裏堀りをしていると、両肢同時に上げてくる。昨年秋、去勢をしたものの、相変わらず元気で、性格は全く変わっていない。

風貌も独特。長髪を振り乱すその姿は、北大応援団か、お化け屋敷かと言われる。

しかし、飛越能力その他は、申し分が無い。北大の新たな戦力に……。

現在、北耀号は四十二年度卒の小栗先輩に調教をお願いし、着々と力をつけております。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

# 離廐報告

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 天龍山号

昭和五十五年七月十七日、馬からも人からも愛され、入廐当時からの前肢の故障、その他の故障、怪我等にもかかわらず活躍してくれた、天ちゃんこと、天龍山号が離廐していきました。十七人の部員にくらべ十二頭の馬の繋養は、経済的その他の理由からも難しいという事になった時、前肢等の故障、箱障害などのある経路において現在の部員の力では、どうしてもゴールをきらすことができないほど、障害に対して嫌悪、恐怖を抱いているということから、天龍山が離廐されることになりました。

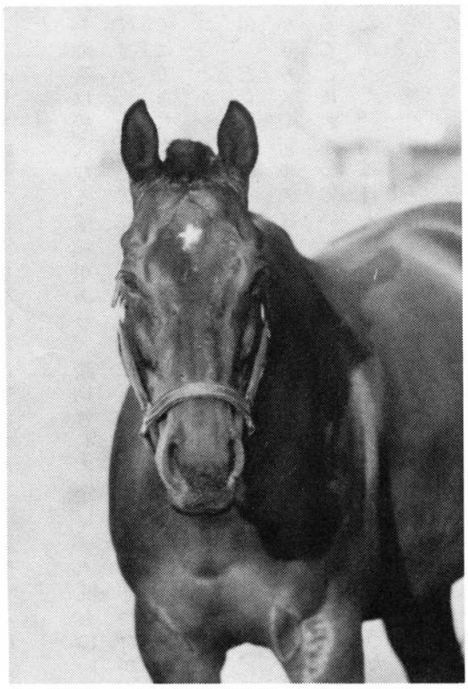
部馬の交替期。新陳代謝を活発に行わなければ、部の発展は望めない。ということを考えれば、しかたのない事かもしれません。たとえ、それがどんな愛すべき馬であってもです。けれど、残念です。ふがいない。「経済動物としての馬は、役にたたなくなったら、おいておくわけにはいかなくなる。……肉にされるより、北大にいることの方が、より幸せであると思うなら、部員はその馬が北大にいれるように最大限努力すべきである。北大での存在が許されるのは、よい試合馬、よい練習馬のみである。このことを部員全員、常に心の中にもちつづけることが、馬に対する最大の友情だと考える。」

当日の当番日誌には、こう記された。

けれど、天はしあわせかもしれません。彼は今、五十四年度のチーフ石黒先輩のもと藤沢乗馬クラブで再び馬場を駆けています。

生来の、のんびり屋で馬場内では、重い重い馬。もしかしたら一番、けられ、拍車、鞭をいれられた馬かもしれません。けれど、彼の野外におけるすばらしさを聞くと、彼が何を思っていたか、わかるような気がします。とにかく彼は、愛すべき馬でした。じゃあ、また、天ちゃん。

騙　サラ　黒鹿毛
昭和43年3月6日生
浦河郡浦河町産
父　サラ　ネーヴァービート
母　サラ　サンキヒメ
体重　五五八Kg



# 天龍山調教報告

折橋　由美子

私と天はいったいどういう関係だったのだろうか。今、北皇子に乗っているが、天とはどういう馬だったか完全に忘れてしまっている。一昨年前、女なのに馬がもらえそうだとわかったとき、この上なくうれしかった。でも天に対して不安があった。ものすごいデブ馬に短い足の女が乗ると脚ではなく脅かしでしか馬を前に出せないことをかなり前から感じてしまっていたから。馬としては、これ以上にほれた馬はなく、彼と別れる日まで、彼と一緒の時間が楽しくて仕方がなかった。この乗っているときと下にいるときの差のため、天と私は互いを信じきれず、試合はそれのあらわれだった。

チーフとなり、北日本の試合はおそらく自分では出してもらえないと感じ、とにかく認めてもらわなくてはならないといういじがあった。この段階で自分がいじけてしまうことにより、自分がうまく乗れないのに上級生に普段の練習でも乗ってほしくないと思っていた。

天との第一の難点は、天は私にとって重くていつもいじくるような脚を使ってしまい、大きく歩かせることができなかったこと。第二の難点は、天は口がうるさく、強く持てば巻き込む、弱く持てば緊張感がつくれず前に出ないということ。

この二つのことに対して自分が最後までどうすればいいのか決めきれず、六ヶ月間彼に乗ったが何も変わらなかった。

障害に関してとにかく踏切りが安定しなかったし、注意しないとすぐ左によれるため連続障害を数多くやった。しかし、人間がぜんぜんついていけず、口をひっぱったり、背をじゃますることにより飛べば飛ぶほど障害をいやなものだと思いこませていたようだ。小さい障害でももしかしたら、天は止まるのではと思い、常にあせらせた速い歩度で向い、アプローチで常にじゃましていた。もっと天を信頼して、ゆったりとした歩度で、数多くの低障害をじゃませずに飛ばせばよかった。障害にも得意、不得意があり、シートの馴致も必要であり、よくやったが、飛越で騎手が相変わらず邪魔していて、飛ぶようにはなったが、恐怖心は増していった。最悪だった酪農戦、道自馬あたりでは、馬場の横に置いてある障害をもよけようとした。

野外障害は絶大なる信頼があり、踏切りも安定し、人間もついていきやすかった。この感じを馬場内にもっていけたらと思ったが、ついにはできなかった。天は外ではどこでもいくと信頼しきっていた。ゴミとかシートとか人工的なものにはかなり驚いたが、自然の中では、どこでもいった。下級生の練習もできるだけ外でやり、できるかぎり天で駈歩の練習とスティープルの練習をさせた。天が離底することにわかっていたから無理なことでも下級生にいっぱいやらせたかった。四年目と三年目の男たちは皆、新馬で大変そうだったから、下級生のことはできるだけ天で教えてやらねばと常に思っていた。

試合は、東北戦（自分と一年生を含め四鞍）、三大戦（新二年目三鞍）半沢杯（自分）と小障レベルをなんとなく全部帰ってこれたという感じで、準備運動では、緊張もつくれず、写真をみても騎手が口をひっぱっていて、内容は試合に出た意味がないという感じで、天がわからなかった。普段の練習がそうだから、当り前の結果だった。酪農戦は複合に出た。天と私がそこまでのレベルにあがっていたからではなく、私にとって大きな賭けであった。これに帰ってこれたら、北日本のスティープルに出してもらえるのでは、失権したとしたら、天からおろされるであろう。一か八かで天のことを何も考えてなかったのは本当に天にすまない。でも、これからのクラブ

の女子部員にチャンスを与えたかった。女でもできるという証明をみせたかった。結果は最悪。スタート前一分で、馬はフラリフラリ第一、二、三障害は暴力的に飛ばせた。第四、一二〇cmのベンチ障害のダブル、しかも右回転のすぐ後。いかにも天がいやそうな障害である。拒止、又向ける、再び拒止、どんなことあっても飛ばせるぞと力む、通過、しかしエンジンが切れている。第五をその場飛び第六は押しても押しても、駈歩にならず、常歩で障害前まできてしまい、結果として失権。オープンでほとんど同じ経路の小障に出るが、馬が完全にやる気をなくしており、鞭を使い放題だったが、例の第四で拒止。後の障害は、又暴力で全部飛ばせた。帰ってこれたが、得たものなし。

それから道自馬まで練習中で何も思う通りにいかず、松岡兄が複合、私が婦人に出ることが決まり、自分がほとんどやる気をなくしていたことを認めなくてはならない。朝の練習は仕方なしに出て、曳き馬は授業をさぼって何時間単位でいくようになった。

人間、やる気をなくすと何もできないとこれほどまでに感じたことがあっただろうか。この時間を、今違う馬に乗り、一番反省しなくてはならない。そして、他の部員も、こういうことがあっても、絶対抜け出なくてはならないことを知ってほしい。

道自馬は松岡兄も私も、石垣を飛ばすことができずじまい。天は完全に飛ぶのがいやになっていた。その後、離厩が決定し、天を厚田の山に離してやり、今は石黒兄のところにいる。

天に乗って何を調教したのだろうと考え込んでしまう。こういうことをやってはいけないということをいっぱい知った。信念を持たなくてはならないことを知った。そして、自分に自信を持たなくてはならないことを知った。何よりも馬を信頼できなくては試合にいどめない、そしてこの信頼は毎日の練習で生まれるものだと知った。

天で自分がやっていたことは大部分まちがっていたと思うので、調教報告にはなっていないが、自分のはじをさらし出し、他の者（特に女子）が同じようなまちがいをおこさないよう願うばかりである。

天に乗って、つらい思い出しかない。どうして自分がこんなにへたなんだろうと常に思うと同時に、上級生をめちゃくちゃ、うらむことにより、助けてもらおうと思わなかった。自分は北日本の試合に出たい、でも上級生はそれを阻止しょうとする、そう思い込むことにより、あせりで、馬をあせらせてしまった。今考えると、天は私の馬ではなく、クラブの馬であるとわりきっていれば、もっと素直になれたと思う。だけど、又、クラブとはなんだろうとも考え込んでしまう。反省があまりにも多すぎる。今、ギャランを、自分のためではなく、クラブを背負っていく馬にしなくては、と思っている。天での失敗の経験を生かして、ギャランで絶対失敗しないようにと思っている。

天に乗って本当につらいことばかりであったが、こういうつらさを承知の上で一頭のチーフになりたいと思っていた。チーフになっていなかったら、もっとつらかっただろうと自信を持っていえる。絶対クラブをやめていただろう。くだらないことをいって、という人がいるかもしれないけど、そういってしまいたいぐらい、私は馬術部に対して、執着心があるからである。つらいことばかりだったが本当に天に乗れてよかった。私のわがままやぐちをいっぱいきいてくれて、ありがとう。

☆ ☆☆ ☆ ☆ ☆

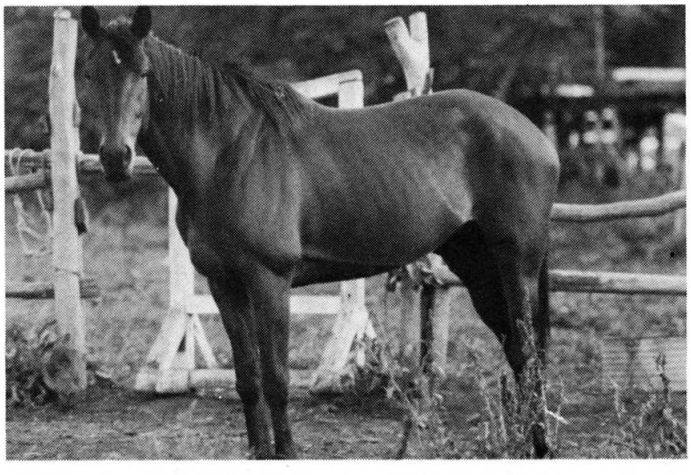
## 羊蹄号

去る、昭和五十五年、九月二十八日、羊蹄号が、郷里の日高育成牧場に帰っていきました。昭和四十八年の入厩以来、八年余、ここ北大で、元気に走りまわってくれました。

逃避癖や、膠着癖が強くて、代々の諸先輩方を悩ませていたようですが、いつも元気一杯で、疲れを知らない姉でした。その元気の良さで、昭和五十年には、全日学出場の権利も得たのですが、皆様御承知の通り、この年、ヨーコは、現在の北雛（ガキ）をお腹の中にかかえていたのです。翌、五十一年二月無事、出産し、その経過は、部報等で報告されている通りです。当時のエピソード等、聞いていても楽しく、親子の馬がいるというだけでも、ほのぼのとした気分になります。

私が、知っている羊蹄では、よく走られ、馬上一回転ができずに泣く思いだったな、と今思い出します。来年からは、日高合宿で、ヨーコに乗るんじゃないかしら。そしたら、ヨーコは、先頭きって走るかしら、などと、うわさしています。日高の野山は、さぞ、気持ちいいでしょう。ヨーコも、いつまでも、元気で駈けまわってほしいです。

牝　ア・ア　鹿毛
昭和42年3月4日生
音更町十勝種畜牧場産
父　サラ・ハマテッソ
母　ア・ア　久亭



## 「羊蹄調教報告」

今　由美子

これを書いている現在、羊蹄は北大にはいません。試合でゴールを切らせることがむずかしいという理由で、昨年の九月、生まれ故郷の日高へ帰って行きました。まだ十分健康であり、部馬としての

用務に耐えうる馬でありながら、チーフとして彼女の能力を十分に引き出せず、離厩させてしまったことに対する私の責任は、小さくないものと考えております。

まず私が羊蹄に乗っていた約八ヵ月を通しての一番の反省点は、何かにつけてやり足りなかったということです。これは日々の練習だけにとどまらず、試合の準備運動その他、全般に対して言えたことでした。例えば、日々の騎乗から言えば、羊蹄のように巻き込んだり、ハミを無視して勝手に走り出す馬には、強い推進を与えながら、拳で馬の口に積極的に働きかけることが必要だったと思います。諸先輩から具体的に方法等を教えていただいたにもかかわらず、私自身の意識の低さからそれを継続して行なうことをせず、試合シーズンになってはじめて、自分の犯したあやまちにがくぜんとしましたが、時すでに遅しという感じでした。

羊蹄は、ひっかけたり、拒止したり、膠直したりという、いろいろな悪癖を持つ馬でしたが、後肢のバネが強く、故障も少なく、うまく調教が進んでいれば、北大をささえる一頭になり得たはずです。上記の悪癖は、馬と人間の関係から出来るある一定レベル以上のことを馬に課した時に出ることですが、私の場合、そのレベルを上げる努力をおこたり、出来るだけそのレベルからはずれないようにしていたにすぎなかったのです。これまで試合になって、馬に高レベルの要求を課した所で、馬が答えようもないことは明らかなのですが、それを認識する前に、試合がはじまっていました。

癖馬調教は、ある意味では闘争であるという話を聞いたことがありますが、羊蹄に対して、私は常に逃げ腰であったと思います。

それでも、半沢杯のあと道自馬の前まで、桝井兄や監督さんらの御指導により数多くの障碍をこなし、馬の方もけっこうやる気が出て来たように思えましたが、経路回りのレベルの選択や試合に出る時期をあやまり、さらに準備運動の悪さ等から、それを生かし切れず、結局自馬大でゴールは切れず、その後私の不注意から鞍傷を作ってしまい、三週間以上騎乗不可能になり、馬も騎手も、もとの状態にもどってしまいました。その後、八月の道体会では、私が私用で試合に出れなくなったため、岡田監督、北畑主将にかわって出ていただき、二年生が乗っても小障でゴールを切らせることが出来ました。羊蹄の最後の試合で、ゴールを切らせていただいたことに対して心から感謝するとともに、チーフとして自分にはそれが出来なかったことに対して、限りない座折感を覚えます。

以上が羊蹄に乗った間の反省ですが、三年生として、このようなレベルの低い報告しか書くことが出来ず、なさけない気持ちです。最後に、ほとんど何も知らず、何も出来ない三年生に一頭の馬を調教する機会を与えてくれた主将をはじめとする先輩諸兄、又未熟な私にいろいろと助言して下さった岡田監督、小栗さん、桝井さん等のＯＢ諸兄にお礼を申し上げるとともに、御好意に答えられず、多大な御迷惑をおかけしたこと、この場を借りておわびしたいと思います。

昨年一年羊蹄を通して学んだことを生かせるように、二度とこのような報告書を書かなくてすむようがんばりたいと思いますので、これからもよろしくおねがいします。

# 離　廐　馬　の　戦　績

## 天 龍 山 号

| (年月日) | (大　会) | (種目) | (成績) |
|---|---|---|---|
| S 49. 6. 12 | 対酪農学園大学定期戦 | 小 障 碍 | 2 位 |
| 6. 22～23 | 北海道自馬馬術大会（於北大） | 小 障 碍 | 2 位 |
| 8. 1～5 | 北日本学生馬術大会（於岩大） | B 障 碍 | 3 位 |
| 8. 24～25 | 北海道体育大会（於旭川競馬場） | 複　合 | 29 位 |
| 10. 13 | 道内親善馬術大会（於岩見沢競馬場） | 中 障 碍 | 3 位 |
| S 50. 5. 4 | 半沢杯争奪馬術大会（於北大） | パルクール・ド・シャス | 3 位 |
| | | 小 障 碍 | 5 位 |
| 6. 21～22 | 北海道自馬馬術大会（於北大） | 小 障 碍 | 8 位 |
| 7. 31～8. 5 | 北日本学生馬術大会（於北里大） | B 障 碍 | 4 位 |
| 8. 16～18 | 北海道体育大会（於畜大） | 総　合 | 9 位 |
| | | 小 障 碍 | 11 位 |
| 10. 11～12 | 道内親善馬術大会（於岩見沢競馬場） | 小 障 碍 | 15 位 |
| | | 中 障 碍 | 6 位 |
| | 全日本障碍総合馬術大会（於三重県鈴鹿市国体会場） | 総　合 | 13 位 |
| S 51. 5. 3 | 太秦杯、半沢杯争奪馬術大会 | 複　合 | 3 位 |
| | | 小 障 碍 | 11 位 |
| 7. 28～8. 1 | 北日本学生馬術大会（於畜大） | 総　合 | 4 位 |
| | | 中 障 碍 | 15 位 |
| | | B 障 碍 | 9 位 |
| 8. 7～9 | 北海道体育大会（於畜大） | 総　合 | 13 位 |
| | | 中 障 碍 | 15 位 |
| | 全日本学生馬術大会 | 総　合 | 31 位 |
| S 52. 5. 3 | 太秦杯、半沢杯争奪馬術大会 | 小 障 碍 | 8 位 |
| | | 中 障 碍 | 2 位 |
| 6. 18～19 | 北海道自馬馬術大会（於北大） | 複　合 | 15 位 |
| | | 中 障 A | 8 位 |
| | | 〃 B | 8 位 |
| 8. 3～8 | 北日本学生馬術大会（於北里） | 総　合 | 16 位 |

| (年月日) | (大　会) | (種目) | (成績) |
|---|---|---|---|
| S 53. 8.19～20 | 北海道体育大会（於畜大） | 壮年馬場 | 8 位 |
| S 54. 5. 5 | 太秦杯、半沢杯争奪馬術大会 | 小 障 碍 | 3 位 |
| 6. 20 | 北海道自馬馬術大会 | 初 心 者 | 出場（満点） |
| S 55. 5. 4 | 太秦杯、半沢杯争奪馬術大会 | 小 障 碍 | 13 位 |

## 羊　蹄　号

| | | | |
|---|---|---|---|
| S 49. 5. 3 | 半沢杯争奪馬術大会 | 小 障 碍 | 5 位 |
| 6. 22～23 | 北海道自馬馬術大会 | 小 障 碍 | 12 位 |
| S 50. 5. 4 | 半沢杯争奪馬術大会 | パレクール・ド・シャス | 1 位 |
| 5. 25 | 対酪農学園大学定期戦 | 複　合 | 3 位 |
| 7. 31～8. 5 | 北日本学生馬術大会（於北里） | 総　合 | 14 位 |
| 11. 14～21 | 全日本学生馬術大会 | 北雛出産のためキケン | |
| S 51. 10. 23 | 北海道地区馬術大会（於岩見沢競馬場） | 小 障 碍 | 9 位 |
| S 52. 5. 3 | 太秦杯、半沢杯争奪馬術大会 | 小 障 碍 | 9 位 |
| 8. 3～8 | 北日本学生馬術大会（於北里） | 総　合 | 10 位 |
| | | B　障 | 9 位 |
| 9. 3～4 | 北海道地区馬術大会（於畜大） | 婦人、壮年 | 1 位 |
| 11. 15～21 | 全日本学生馬術大会 | 障碍・総合 | 出場 |
| S 54. 5. 5 | 太秦杯、半沢杯争奪馬術大会 | 小 障 碍 | 出場（満点） |
| 6. 12 | 北海道自馬馬術大会（於日高） | 初 心 者 | 〃 |
| 9. 15～16 | 北海道地区馬術大会（於札競） | 小 障 碍 | 〃 |
| | 岩見沢親善馬術大会 | 婦人、少年、壮年 | 〃 |
| | | 小 障 碍 | 〃 |
| S 55. 5. 4 | 太秦杯、半沢杯争奪馬術大会 | 小 障 碍 | 21 位 |

## スターライト号
## 功労馬表彰

日本馬術連盟より昭和五十五年度、功労馬としてスターライト号が選ばれ十一月、表彰を受けました。

スターライト号は、昭和四十七年に入厩し、昭和四十九、五十二年全日本学生馬術障害競技に優勝、昭和五十一年全日本馬術大会中障害飛越競技に優勝したのをはじめ数多くの優秀な成績を残し、その功績が認められたものです。

## 水産学部馬術部
## 活動報告

ダイパレード号を離厩して一年余り、現役部員四名は函館競馬場乗馬厩舎の馬に乗せてもらって練習を行っています。

幸い函館乗馬厩舎でも、また市内にある東山乗馬クラブでも快く馬に乗せていただけるので、自馬を持っていない我部ではありますが、馬に乗るには恵まれた環境です。

多くの先輩が努力し、ダイパレードが、やって来て、去ってゆきました。また、とうぶんの間、自馬を持つことは困難でしょうが、自馬を持つということに固執することなく、我々に残された馬に乗れるチャンスを逃さず、各個人の鞍数を重ねるということを考えてゆかねばなりません。ただ漠然と馬に乗りがちになってしまうので目的を持ち、本学に負けないぐらい考えて乗らなければと思っています。今後とも、よろしくお願いします。

なお最後になりましたが、永い間、我部の部長を務めて下さった西村雅吉教授が、この春で定年退官されることをあわせてお知らせします。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

先輩寄稿

# 東京ＯＢ会活動報告

幹事　横山豊昭（昭和四十八年卒）

## 春季試乗会の開催

桜花匂う春四月、所は世田谷の馬事公苑において、千葉先輩のご好意により、春季試乗会を二十六日午後より開催致しました。

天候にも恵まれ、参会者のなかには久し振りに馬の背にまたがれた方も多かったわけですが、と同時に、また普段とは違った快い汗をかかれた方が多かったことと思います。

試乗の後、桜花の下で焼肉パーティーを催し、馬術の話にひとき わ賑やかな花が咲き、家族連れで参加された会員もあり、和気合々と陽の暮れるまで語り合った楽しい一日でありました。

## 現役部員との懇親会の開催

本年も恒例となっております現役部員との懇親会を十月二十七日に開催致しました。

昨年は高橋兄騎乗のドン・ホッパー号が全日本馬術大会の選抜中障碍において見事優勝の栄冠を勝ち取りＯＢ諸兄姉も美酒に酔ったわけです。

今年は兄等の奮闘も及ばず残念ながら二連勝は成りませんでしたが、それでも諸兄の活躍ぶりを観戦でき、来観のＯＢ諸氏一同は楽しい一日を過ごされた事と思います。

来年こそは、是非とも三頭以上の出場馬を擁し、団体戦にも果敢に挑戦されることを期待しております。

参会者の記念撮影　（田村雅英兄撮影）

志水　佐合　吉見　八木沢　東園　千田　中村　本田　千葉　横山　池田　宮崎一家

なお、阪上兄（S51年卒）も参加しておりました。

（敬称略）

懇親会の席上には東園会長、武田大先輩をはじめ十数名のOB諸兄姉の参加があり、馬との関わりについての興味ある逸話の披歴や近況などについて話があり、現役諸兄からは、自己紹介と馬術に対する考え方などについての意見があり、参会者一同は大いに飲み、語り、親交を深め合って、有意義な時を過ごすことができたことと思います。

それでは、来年も現役諸兄の活躍を期待するとともに、OB諸氏の多数の方々の参加を望んでおりますのでよろしくお願い致します。

（なお、千葉先輩には何時もながら会場設営で便宜を戴き、誠にありがとうございました。）

参会者の記念撮影

池田　水野　梶村　五沢（敬称略）　中村　東園　武田　石黒　山川　加藤　千田　八木沢

昭和五十五年度年次会の開催

昭和五十五年度年次会を去る二月二十三日（月）に渋谷の美竹会館において開催致しました。

当初、二十八日（土）の予定を幹事の都合という私的な事由により日程変更し、甚だ申し訳なく思っておりますが、それでも会員諸兄姉にあっては、多忙なさ中、多数の方々にご参会を得ることができました。

年次会は、東園会長の挨拶、永松先輩の音頭による乾杯のあと、参会者の近況、感想へと進み、先輩諸氏からは、馬にまつわる惜日の思い出話、含蓄のある人生訓話、並びに自己紹介などがあり、会員相互の交歓が大いに果されたものと確信いたします。

東京OB会としての議事についても、その活動報告、会計報告、昭和五十五年度戦績並びに五十六年度試合日程の報告、通知、後援会費の取扱い、幹事の交替等について進めることができ、また昭和五十六年度の活動も強力に実行してゆくことが全会一致で承認されました。

最後、来年の年次会には、より多くの会員の方々が出席されんことを願っております。

現役時代の思い出話に花を
咲かされる東園会長

参会者の記念撮影

後列　横山(48)　池田(43)　森本(35)　玉沢(38)　加藤(31)　生田(34)

中列　黒沢(13)　山川(53)　八木沢(42)　樋口(32)　宮崎(38)　志水(38)

前列　本田(10)　大迫(11)　東園(9)　永松(7)　中村(34)　吉見(11)　武田(8)

（敬称略）

なお、千葉幹夫先輩は所用のため中座されました。
（　）内は卒業年次

▲「お馬さんの歌」を威勢よく
うたう生田先輩

大先輩のユーモアある話を
楽しく聴く参会者
▼

# 落馬三題

植木迪子（昭和四十年卒）

馬場がまだポプラ並木の東側にあった頃です。当時の北大馬術部に何頭の馬がいたのか知りませんが、私が乗っていたのは朝清という馬でした。第一農場の所属だったかと思います。大きな馬でした。もっともそれは、中学一年の女の子の目にことさら大きく映ったのかもしれません。その朝清にしょっちゅう馬場の隣りの雑木のはえた草叢に連れこまれては、師匠の渡植さんに引っぱり出してもらっていました。

その朝清でもどうやら駈速歩ができるようになり、多少は駈歩の練習もはじめた頃でしょうか。ある昼下り、馬場へ行ってみると、すでに故人となられた農学部の前野先生と数人の方々が、障害の練習をしていらっしゃいました。この時は幸運という、朝清よりはいくらかスラリとした、しかしひどく口の固い、やはり農場所属の馬でした。飛んでみないかと誘われるままに、三十センチ程の横木にむかい、飛び越した瞬間にコロリと落馬しました。全てがアッという間のことで、両足で着地したためか特に恐ろしいとも思わずにすぐまた乗馬して二度目に障害にむかいました。二度目の時もまた落馬したのか、それとも今度は反動に大きく煽られただけだったのかは忘れてしまいましたが、ともかく、もういいだろうということになり、三度目には飛ばなかったように思います。後にこのことが、渡植さんの耳にも入り、勝手なことをしてはいけないと叱られました。これが最初の落馬です。

印象に残っている二つ目の落馬は高校生の頃でしょうか。北大同好会に入り、土曜の午後と日曜の午前中に北大の馬場で乗っていた時のことです。北標号は青に近い黒鹿毛で癇の強い馬でした。加えて拍車が脇腹にあたると跳ねたり、竿立ちになったりする癖がありました。先輩の岡本さんは、そんな時には手綱を引きしぼってひっくり返してやればよいと言われましたが、なかなかその様な度胸も技量もなく、せいぜい落とされないようにしがみついているのが精一杯でした。その北標がまた何の拍子にか跳ねはじめました。最初の数回はうまくバランスがとれ、ロデオのようで面白いなと呑気なことを考えていたのですが、そのうちに高く放りあげられ、降りてきた場所にはもう馬の背中はなく、自分の背中でドシンと着地しました。一瞬、息が止まる程の衝撃でしたが、印象に残っているのはその為ではありません。最後に高く放りあげられた時に、これは危ないなと思い、意識的にカチャ・カチャと鐙をはずしたように思うのです。その場に居合せた人々にそのことを話しましたが、落馬したことの照れ隠しとでも受け取られたのか信じてくださる方がありませんでした。今でもカチャ・カチャというその時の音が耳に残っているのは、あるいはこの時の心残りのせいかとふと思ったりしています。

三度目の落馬の記憶は学生になってからです。馬は北楡号でした。明るい鹿毛の、均整のとれた綺麗な牝馬でした。ただ口と脚が早いというか、大変すばやく噛んだり蹴ったりするので用心が必要でした。気が強く、多少気難かしいところもありましたが、障害飛越ではよい成績をあげ、いったん気心が知れると子犬のようにひと懐こいところもあり、そこが魅力になっていました。先輩の中には、千葉さんや三浦さんのようにすっかり手なずけて、索をつけずに自由

に歩きまわるような状態で蹄を洗う人もおられました。

その北楡号で試合に出た時のことです。比較的順調に飛んできて最後の三段横木に向いました。北楡号は障害の直前で止ったり、急に横へ逃げたりすることがよくあり用心してはいたのですが、まっすぐに障害を見て、スピードもあり、これは行けるなと思っていたところ、急に前脚を突っ張るように、半分程は障害に踏みこんだ形で止まり、横木はガラガラと落ち、勢いのついていた私もまた一回転して障害を飛び越し、落下した横木の上に落ちました。この時打った箇所は、その後五日程痛みました。

数えられぬ程経験した落馬のうち、この三度が特に印象深く思い出されます。広島大学での五年間を経て、今度北大へ帰任したのを機会に、再び馬との縁を結びなおすことができればと願っております。


医薬品卸

ITO

ホシ伊藤株式会社

本店 札幌市南八条西十四丁目一三九七番地
支店 帯広・釧路・北見・函館・旭川・滝川
室蘭・苫小牧・岩見沢

洋菓子と喫茶

イレブン

喫茶部

北17西4 ☎721-0662

洋菓子部

新琴似8条8丁目
(四番通り新琴似生協向い)☎762-6395

★ケーキセット(コーヒーor紅茶付)
種類が多く用意されています。
★クリームぜんざいの店
★お持ち帰りのケーキもあります。

出世 記念 記章 手拭 タオル メダル バッチ カップ・楯 附属品 旗・幕・幟 腕章

各種製造販売元

山禮式国旗掲揚器発売元

株式会社 山禮

〒060 札幌市中央区南1条西7丁目
TEL 札幌(011)大代表241-1641番(イロヨイ)

受信略号 「サッポロ」ヤマレイ
取引銀行 拓銀本店
振替口座 小樽2909番

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卒部にあたって

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 卒部にあたって

北畑　裕

別にああ四年間が終った、卒部だという感慨もあまりない。ただよき先輩に恵まれ、よき同輩に恵まれ、よき後輩にめぐりあえたことは、すばらしい事であった。しかし私は、よき先輩では、なかったろうという自信がある。何故なら、私が、下級生の頃上級生に対して感じた不満や憤りを、自分が上級生になったときも下級生に対して与えてしまったような気がする。人間とは、勝手なもので、自分のおかれている環境や立場が変われば、又そのように自分も変わるのである。たとえわずかであっても。それが成長という名に値する変化であればいいのだが。

最近思うに、やはり北大馬術部は、北大馬術部で、毎年新しい一年目が入り、四年目がでてゆく、毎年、クラブを構成する部員が変わり、そして、プロや実業団のクラブと違って、毎年、クラブを代表する人間が変わるのである。だからおのずと技術レベルを一定に保つのはむづかしい。下手な学年もあれば上手な学年もある。幸か、不幸か馬術部は馬を媒体として技術が残る。又たまたま、すごくうまい選手が入ってくることもあろう。しかし、いかにして技術の一定レベルの維持が難しい大学のクラブで、その技術を受けつぐか、いや技術だけではない、その精神を即ち、伝統を受けつぐか、このことは、その時の現役部員がなすことであって、他の誰が成そうか。さらに、その時のクラブ活動を行っていくのは、全クラブ員であって、また、その時々の部員が、その時のクラブの伝統を作っていくものでなければ、どうして、自主的活動の大学のクラブ活動と言えよう。極めて当り前のことを書いてしまいました。

## 我が馬術部生活に悔いあり

篠田聖児

私は、中学まではまったくの運動音痴で、体育の時間はいつもみじめな思いをしていた。しかし、高校へ入って水泳部に入部し、運動の喜びや、運動部の楽しさを味わうことができた。だから、鼻の病気のためもう水泳はできなかったが、大学でも何か運動部に入りたいと思っていた。しかし、そこは陸にあがったカッパで、自分にできそうなものがなく、五月までぶらぶらしていた。そんなある日女子部員が外乗しているのを見かけた。そして、女にできるものが自分にできないはずがない、などという単純な考えから入部してしまった。しかし、正直な話入部当初は、早まったことをしたと後悔した。早朝練習はもちろん、作業、強制バイト、遠征、コンパ等々そして、何よりも最初はクラブの体質が非常に封建的なものに思え、苦痛に感じられた。当然、何度もやめたいと思った。しかし、一度やるときめたことを、途中でやめることはきらいだったし、馬の一頭位自分で自由に動かしたいという気持ちもあった。また、つらいからといってクラブをやめるのは、自分に負けることのような気がしていやだった。だから、長靴代が無駄になるとか、せっかく部室

の近くに引っ越したのだからとか、変な理由を自分にいいきかせて続けていた。そうこうするうちに、全日学の遠征についていくことになった。そして、長尾兄のスターライト号による障害優勝という感激にめぐりあうことができた。その時、クラブを続けていて本当によかったと思った。絶対四年間続けるぞ、とも思った。それ以後、私のクラブに対する態度はかわり、何かにつけクラブに顔を出すようになった。そうなると、クラブも何々居心地のよいものになり、以前のように苦痛でなくなった。こうして二年間を乗り越えると、残りの二年は惰性ですごしてしまった。良くいえば、どんなことがあっても続ける自信がついていた。自分にまかされた、かわいい一頭の馬がいるのに、やめようなんて考えるはずもなかった。

こうして、私が馬術部に入部してから四年近くが経過した。しかし、私にはクラブをやりとげたのだという充実感や満足感は、あまりわいてこない。四年間やってきて悔いはない、とはお世辞にも言えない。我が青春に悔いありである。実習や研修、卒論調査等でクラブを空けなければならなかったのは、しかたがないと思う。しかし、いつも肝心な時に、自分の不注意から私が入院したり、馬に快我をさせたりしていた。特に足の怪我のために、四年の途中で選手生活を終わってしまったのは、なんとも残念である。私が、クラブから得たものは非常に多い。馬術部に入ってみて、それまでの自分が、まだまだほんの子供にすぎなかったことを痛感させられた。馬術部によって私は人間的に大きく成長したと思う。しかしまた、逆に自分の無力さばかりを感じたような気もするのである。自分はクラブに対して何を与えたのだろうか。私は多くの先輩に感銘を受けた。自分は果たしてどうだったろうか。最近特にそのようなことを強く感じるのである。それでも、結果的に言えば、まがりなりにも学業とクラブ活動を両立させたと言えることが唯一の救いである。

普通の人間は、だれでもそうだと思うが、私は非常に弱い人間である。しかし、自分の弱い意志と戦う姿勢だけは、持ち続けたつもりである。たとえ自分の弱さに負けてしまっても、今度こそ、と思う気持ちが大切であると思う。現役部員のみんなも、最後までくじけずにがんばってほしいと思う。

## 卒部にあたって

松岡　功

過ぎ去った過去を思い返すと時の流れの早さに驚かされる。しかし、馬術部の四年間の一つ一つの出来事を考えると、その余韻が残っているせいもあるだろうけど、自分にとっては密度の高いものであったと思う。馬術部はそれだけ価値あるものであったと思うし、同時にとてもきびしいものでもあった。

一年生の入部当時、馬を駆し、部を支えていた先輩の姿に、今まで出会ったことのない強い衝撃を受け感動し部に引きつけられていった。厳寒の中の練習、作業、乾草のバイト、遠征、そして試合。全ての感覚を麻痺させるように次から次へと押し寄せて流れ過ぎていった。そして、二年三年となるにつれ、自分の考えと現実との相違にうちのめされ、それでも何とかしょうと食らいついていったがある時はその場しのぎの安易な道に走ってしまったこともあった。四年生、上に立つようになってからは、こんな考えで許されるものでないし、また、根本的な問題解決も望めない。この頃になると、どうしょうもないくらいの窮地にあえて身を置き、何とかやり通そ

うとするように心がけ、こうすることによって不思議とうまくいって、また一種の満足感を味わうことができたのである。でもそういう事に気がつくのが遅かったといえるかもしれない。

現役部員も部生活において「とてもだめだ。どうしようもない。」と投げ出したくなる時があると思うが、その前に少し考えてほしい。スポーツに限らず、ある分野で成功し活躍している者がその世界に入った時、現在の自分を予想できたであろうか。やはり彼らはセオリーを決して粗略にせずに一歩一歩前進していったことが後の結果として現われたのであって、それを才能というのなら彼らの努力が才能を創造したと言えると思う。程度の問題はあるが精一杯のことをやって納得できるときはよろこびを味わうことができるはずである。それは創造性と主体性をもって得た成果へのよろこびであって、瞬時の快楽や安易な成功、棚ぼた式の偶然から得られるものではなくつねに自分で意識し、自分達の手の中で拡大再生産されていくものであるはずだ。こういうよろこび、より高い次元のよろこびを部員みんなで愛する馬とともに味わってほしいと思う。

## 「現役を退く今」

高橋　均

実に今となっては短く感じられる四年間の馬術部生活でした。この四年間には、北大へ入る前の茨の道（大げさかな）と同様、いろいろなことがあり、いろいろな体験をしました。それはつらいこともあり、楽しいこともありました。いわば、人生の縮図的な四年間であったともいえます。

思い起こしてみますと、入部届を出したのは早かったのですが、実際に練習に参加し始めたのは五月の末でした。馬術部生活に入ったら何もできなくなると思い、部屋を片づけ落ち着くまで、そしてせめて札幌市内の観光見物でもしておきたいと考えての事でした。結局、意に反してかかなってか、一年よけいに大学にいることになりましたので、無理してこの時に、観光見物などしなくてもよかったのですが……。

一年目の夏の日高合宿の事は、誰でも思い出として心の隅に残っていると思いますが、私にとっても例外ではありません。付き添いのM兄にしぼられ、決して楽しいとはいえるものではありませんでしたが、今となってみれば、みんな楽しい思い出となっています。のどがかわいてどうしても炭酸飲料が飲みたくなって、北畑、松岡と相談して、夕食後、ミーティングまでの時間をねらって、誰にもわからないように、こっそり非常口より抜け出し、二・三キロメートル離れた店までコーラを買いに行ったものでした。朝のマラソンはいやなのに、この時ばかりはひたすらコーラが飲めることだけを考え、往復五・六キロメートルの道を軽快な足どりで行って帰ってきたものでした。発覚を恐れて同室のこの三人だけで、二・三日間飲み、他の一年目には全く内緒にしました。最終的に同期の人間は四人しか残りませんでしたが、この合宿以後、一年目の連帯感が生まれた事は確かです。あの時、コーラを分けてあげればみんなやめなかったかもしれません。

十一月の全日学の遠征には、貨車で馬とともに東京へ行きました。鹿児島の時にも体験していましたが、この貨車での、のんびりとした不自由な生活は何ともいえないのです。この素晴しい体験は、私はもちろん現役部員ももう味わえないのは残念です。この全日学では、

長屋さんの個人優勝、団体二位と非常に感激しました。上級生になったら、団体優勝をしょうと一年目同士で話したものでした。

冬の練習は実につらいものでした。しかし朝、厳寒の中で練習して、手足が縮こまっても、暖かい教室は、睡眠の場所に最適で、先生の講義する話を子守歌に安眠したものです。

上級生になるにつれて、つらく厳しいものになりました。それは当然なことかもしれません。しかし、自分に甘くすることもできます。自分に打ち克てるかどうか。ただ馬を媒介にしているので、うまくいかないことも多々あるのですが。

さて、北大馬術部へは是非、全日学の二回走行で優勝したい。北大に入ればできるものと信じてやってきたのですが、意気込みだけでは夢は夢でしかありえないようで……。その日は来なかったのです。

最後になりましたが、半沢先生、岡田監督、小池部長を初めとして在札ＯＢ、東京へ試合に行った時に応援にかけつけて下さった（本当に嬉しいものでしたが）東京ＯＢ会の方々、同輩、後輩など多くの方たちにお世話になり、本当に感謝しております。これからは、一ＯＢとして北大馬術部の活躍を祈って卒部にあたっての挨拶にかえさせていただきます。

〔卒部生〕
上段左より
　篠田兄、高橋兄
下段左より
　松岡兄、北畑兄

〔3年目〕
左より
　今姉、折橋姉、井上兄

〔 2年目 〕

左より　　平田姉、間正姉、石井兄、飯野兄、増田兄、斉藤兄

〔 1年目 〕

左より　　野中兄、町田兄、佐藤姉、高須兄
名越兄（上段）、佐粧兄（下段）、世良兄

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

# 自己紹介・他己紹介

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

## 卒部生の部

### 北畑　裕兄　（四年目）

今度、卒部する北畑です。あまり何も言う事もないけれど。馬術部に四年間いて、馬を知り、馬を知らずに、少し走るのが速くなって、卒部します。好きなものは女で、嫌いなものもやはり女です。特意なものは別になし、頭の程度は非常に悪、高校時代より劣等感をいだいている。自分に理解できないものや、見たことのないものは信じないことにしている。好きな事は、スポーツで球技を中心に何でもやる。今は桑園寮で学内大会を目ざして寮のスポーツ委員みたいな事をやっている。好きな食べ物は、嫌いな物以外なら何でも好き。嫌いな食べ物、やめておきましょう。好きなスポーツ選手、瀬古利彦、好きな音楽、チャイコフスキーp.c№1とラフマニノフp.c№2。好きな評論家、加藤周一、松田道雄。

もう少し、一貫性のある精神を持ちたいと思っている。即ち、まともな自分の精神をもちたい。

昨年度は、主将としてクラブをひっぱっていってくださいました。今年は卒部ではあるけれど、卒業まではあと一年あるそうなので、ときにはクラブに顔を見せてもらいたいものです。ガキも会いたがっていることでしょう。

また、兄はマラソンが何よりも好きという感じですが、最近マラソンがやや遅くなってきたようです。駅伝大会をめざしてトレーニングにはげんでもらいたいものです。

やっと自分らしさを取りもどしてきたように思われるこの人。主将という役目は重荷すぎたのでしょうか。思いきって酒が飲めるようになったみたい。走ることに対する情熱はそのままで、桑園寮にふさわしいスポーツマンになってきた。今年こそ駅伝で区間賞をとって下さい。とれなかったら、もう一年留年すればいいんですよ。

### 篠田聖児兄　（四年目）

四年生らしく自分を売り込むリクルート型の紹介でもしてみよう。私は大変温厚な人柄で協調性豊かであるが、自分の真念はつらぬき通し、安易な妥協はしない。正義感強く、潔璧な性格であり、常に自分に対して厳しく生きようとしている。……

書いているうちにだんだん自己嫌悪に陥いってきた。もうこの辺でやめておこう。最近どういうわけかミーハー的趣味が出てきて、松田聖子やら河合奈保子やらのファンになってしまった。でもやっぱりコンパには演歌なのです。

四年目の二人のおじいさんのうち、眼鏡をかけて、ひょろっとしていて、まるで手塚治虫のシリアスな漫画の登場人物みたいなのが兄です。

愛馬みよ子と猥談をするのが好きで、この一年で彼女は随分と淫乱になったと、専らの噂です。しかし、兄がみよ子と共にスティープルで疾走する姿は「美しい」の一言です。しかし、兄は愛馬だけでなく、愛車に乗った時にも、疾走するのがお好きなようです。そして、オートバイに乗った制服姿のおじさんに呼び止められたりします。

それから、兄は社交性にも富んでいるのです。ひととおりのマナーや社交ダンスは全て身につけ、そして、それを立証するが如く、北18条のスナックのママ達からは、（ススキノでは、どうだか知りませんが）「しのちゃん、しのちゃん」と可愛いがられています。

明日の社交界を背負って立つ兄、四年間御苦労さまでした。

✾ ✾ ✾ ✾

兄の印象は、いつも〝マジメ〟なのでありますが、その実体は不明です。とても面倒見が良くて、やさしい兄です。人のことがほおっておけない性格なのでしょう。

うつ向きかげんで、ボソボソと、きまり悪そうに話します。あまり迫力はないのですが、それだけに、兄にしかられた時は、胸に、じんと来るのです。

## 高橋　均兄　（四年目）

最後に白状致します。私はやっぱりいい加減な人間だったのです。なお、今回、部報の発行が遅れたのは、私と現役部員の某君の原稿提出の果てしない遅れの為であります。ここをお借りして、編集委員の方々および部報の発行を楽しみになさっている方々に、御迷惑をおかけしたことを平におわびする次第です。

✾ ✾ ✾ ✾

兄は、（今までの常識を破って兄と呼ばせて頂きます。）さて、その兄は、本当は、子供のような外見と心を持った人物なのですが、残念ながら身体ついて行けないのが現状のようです。四年間、よく老体に鞭打って頑張って来られました。千草のバイトのとき、トラックの上から千草もろとも落ちた時には、本当にだめかと思いました。でも、下で手を振りながら、いつも通りヘラヘラ笑っている兄の顔、安心感は、忘れられません。

ところで、あれほど練習熱心で、ドンを可愛いがっていた兄が最近、練習で顔を見せてくれません。まだ一年以上、札幌に居るのだし、たまには、雪かきでも手伝いに来て下さい。その後の肩たたきは、必ずサービスいたしますから。ね老！いや失礼兄!!

✾ ✾ ✾ ✾

この世界で、一番悲しいことがあるとしたら、それは高橋兄と別れてしまうことです。僕の一週間分の風呂代（＝二二〇円）を賭けても良いです。本当に兄は素晴らしい人でした。四捨五入すると三十歳の兄、目元涼しく烏の足跡くっきりの兄、つちののおじさんに部で唯一人「ヘイ、ヤングマン」と言われない兄……。兄から学んだ事は数えきれません。中でも、喫茶「イレブン」を教えてくれた時のことは、今でも僕の脳裏に鮮明に焼き付いています。そのおかげで僕は「くりぜん中毒」になってしまいました。本当に四年間御苦労様でした。今の僕にはこれしか言えません。さようなら高橋兄！もう二度と会うこともないでしょう……。えっ?!　兄はまだ三年生だって？　知らなかった（と愕然）。

## 松岡　功兄（四年目）

部から離れて、また楽な生活にもどったが、やはり自分は体を動かしていないとすっきりしないのだと思う今頃だ。新しい道に向かうにあたり、やらねばならぬ事が山ほどあるが、その前にと思っていろいろ考えたりする。つい数ヶ月前と何も変りない自分だが、ただ、胸の中の熱いもの、燃えるようなものがなくなったような気がする。年をとったのだろうか。まだふけ込む年でも、何かを悟るような年でもないのに。二十二才と二ヶ月。

✾　✾　✾　✾

兄はとっても立派なお方です。あのかわいらしい顔にもかかわらず、とってもりりしいお方なのです。とっても忙がしい薬学部におられながら、ちゃんと四年間で卒業され、医大の助手になられました。そして北美号と全日学出場。そんな兄は私たちのあこがれの的なのです。

✾　✾　✾　✾

忙しい人です。普段は割とまともな格好をしていますが、馬が病気をすると無精髭が生えてきます。馬には大変やさしい人です。でも馬場では下級生泣かせ、私達、決して聞こえないふりをしたんじゃありません、本当に聞こえなかったんです。今は学校が忙しく、「こら、アホ」という声も聞かなくなり、さびしい限りです。四年間御苦労様でした。

☆　☆　☆
☆☆　☆　☆
☆　☆

# 現役部員の部

## 井上　京兄（三年目）

馬術部というクラブは本当にいそがしくてめんどくさいことが多くて、それをめんどくさがるとますますめんどくさいことが増えてしまうという、まったくぐうたらな人間には不向きなクラブで、そのぐうたらな人間の見本みたいなのが今の主将という立場にいる人間である。（そうですね、部報の編集委員！）どうしてこんなにずぼらになってしまったのだろう。下級生の頃は今よりはもう少し生き生きとして動き回っていたような気がする。人に命ぜられて動くよりは自ら動く方が楽しかったし気分もよかった。ところが今はどうだ！　馬には推進推進と言う人間がこれだからしょうがない。一発拍車でも鞭でもかまさなければ。

✾　✾　✾　✾

今年度の新主将としていかに変身するかという諸氏の期待をみごとに裏切りあまり変身していない兄であります。変わったことといえば最近、一年目の約二・三名と親密に同等につき合っていることです。N氏の家ですき焼きをつくる時、眼鏡の上の得意の眉毛でニコニコ笑いながら一番はしゃいでおられたのは、他でもない兄なのです。しかし兄のそんなところにみんなほれているんです。しかしあの冬合宿の時、兄が間違って起床時間の一時間前に叫んだ例の言葉、「オッキレヨー、みんなオッキレヨー」は皆の耳から離れない

ことでしょう。

✾　✾　✾　✾

キョン兄は、きれい好きで有名です。僕と同じ銭湯に通いながらも、まだ一度も会った事がありません。

また兄は、かなりの食道楽です。底無しの胃袋を所有してます。兄が部室に来て、必ず最初に口にする言葉は、「お～何か食い物ないかー。」であり、最も顔をほころばせて言う言葉は、「そや、そや、おーい！お土産食うぞー」であります。コンパの時でも、然り、それから酒がきらいなわけじゃないのに、酒を飲むと、すぐに眠たくなる癖があるようです。これから、という時、兄一人寝ていることもしばしば。でも、その寝顔は、妙に大人気なく、可愛いらしいもので、部における兄の日頃の苦労が、にじみ出ているようでもあります。

食えるだけ食って、寝る。良く言えば、超健康人間、普通に言えば、野生人。作業隊長が似合っていた兄も、ついに、主将になられました。主将として今まで以上頑張って下さい。

## 折　橋　由美子　姉（三年目）

最近思うけど、自分はサドではないかと。手術でものを切りきざむのに快感を覚え始め、血を見ると燃えてしまう。私はやっぱり、変態だったのかしら。

✾　✾　✾　✾

不思議な日本語を、時々使います。英語のほうが、お得意のようですね。男言葉の関西弁が馬場に響くと、一年目はもちろん、二年目もふるえあがります。特に、天龍山のチーフの時は恐かった。

その一方で、（だんだん、わかってきたのだけれど）とても繊細で、やさしいところをもっている女性です。馬達一頭一頭にかける細かな配慮と、あたたかな言葉。後輩思いの姉でもあります。一年目の騎乗日誌に、ギッシリとアドバイスを書いてくれましたっけ。

このごろは、背の高いギャランにも見事に飛び乗って、馬場を駆け回っています。

✾　✾　✾　✾

一、歩様について

僕が入部したての頃、他の部員、特に一年目男子が姉と同じ歩様をしているのでびっくりしました。その原因は皆がおもしろがって姉の真似をしていただけなのですが、その様式は統一されており、当時の僕は、馬術をやっていると、あんな歩様になってしまうのかと恐くなったほどです。

それでは、姉の歩様の真似をしてみたいという皆さんのために一応解説しておきましょう。（足の長い人がやってもあまりかっこ良くありません）

視線は地面と平行に、腕は指先までまっすぐ伸ばします。その腕を鉛直方向から二十五度開き、進行方向に向かって内側に約三十度の角度で思いっきり振って下さい。さて問題の下半身ですが、足は四十五度の完全なガニ股、腰を思い切り振り、カカトを前に押し出すように元気よく歩いて下さい。さあやってみましょう。

二、声について

練習中になると姉の声が変化します。特に一年目を教える時などは、だんだんエスカレートしていき、ついには英語が飛び出すので

はないかと心配です。「下ろすぞ！」が出たとき、心臓が止まりそうになったのは僕だけではないでしょう。まさに男まさりの声、それを証明するエピソードを一つ。（本当にあった話です）

北海道体育大会（於畜大）

アナ「北海道大学、折橋選手、乗馬北皇子号、御入場下さい。」

―入場、敬礼、ベル、そしてスタート―

―飛越途中の声は筆では表わせないので省略―

観客A「わーすごい、男はあのくらい迫力がないとね」

観客B「いや、あれは女の子ですよ」

観客A「……」

観客B「声だけが男の子なのね」

著者「クスクス」

三、僕はここまで書いて来て、ふっと気付いた。他己紹介は、十五行前後という制限があるのだ。しかし姉について書きたいことは沢山ありとても書き切れるものではない。魅力的な目、魅力的な顔、魅力的な体つき、そして一番魅力的な姉の性格etc。

来年もまた書こう。

## 今　由美子　姉（三年目）

『障碍飛越馬の調教者は、騎手としての能力・忍耐及び勤勉において充分の自信がなくてはならぬ。

生物に対する注意、心理の理解は障碍飛越騎手の根本条件である。

自制及び勝利への決意は、その最も顕著なる特性である。』

とてもダメだ……。

✾　✾　✾　✾

馬術部の中では、垢抜けしているうちの一人です。かといって、場違いというわけでもなく、馬術部のどんくささと、うまくマッチして、いまや北大馬術部に、なくてはならない存在です。

一時は、手術のため、おしゃべりをストップされたようですが、もうすっかりいいようですね。

このあいだ、ミヨコのたてがみを、カーリーヘヤーにしょうと、がんばっていました。今年はミヨコと共に活躍してくださいね。

なかなかするどいアドバイスをしてくれます。そして楽しい人です。折橋姉と共に少女マンガが大好き。二人は、いいコンビですね。

あっ、今さん、夕張メロンまた期待してますね。

✾　✾　✾　✾

部内で一、二位を争うおしゃれです。まあ早い話が一番男っぽくないというだけ（いや失礼）かもしれませんが。姉もいよいよ四年目となられ、ややこわくなってきたようで、時々とてもキツイお言葉を発せられ、一・二年生を落ちこませます。でもやはりとても馬を愛する人です。姉の服、持ち物には馬の絵がついていますし、ほら今日も愛馬ミヨコといっしょにひき馬で飛びはねていらっしゃいます。

## 飯　野　秀　之　兄（二年目）

必殺遊び人トリオの一角と言われながら、この頃はあれほど好き

だったディスコにも、ボーリングにも行かなくなりました。毎日毎日、練習する苦しみをしみじみと実感しております。ハイ。

✾　✾　✾　✾

あと一歩でカーリー・ヘアーというスタイル。少年合唱団風の美声。ディスコチックな走り方。いかの塩辛大好き少年、云々。そして兄はこわい人。あの鋭い目でにらまれて、突然「松田聖子って好き？」なんて聞かれた方はあせってしまう。もちろん、「作業」の迫力も出てきた様子。罰作業、皆でやってもやっぱりこわい！

メールおばさん（失礼！）共々期待してます。たとえ鎧が脱げても鬼の騎座！

✾　✾　✾　✾

兄のいつも、お金でも落ちてないだろうかとうつ向き加減に歩く姿はとても悲哀に満ちています。これも兄の生い立ちがなせる業なのでしょう。あの暗い過去はもう忘れて下さい。

兄にはもっと積極的になって欲しいと思います。何か光り輝くものがないのです。腹の出てるのだけが目立って……。そして、○○○映画をみる時だけ、目が輝いています。さあ、自信を持って行動して下さい。そうすれば体のぶよぶよはとれて、しまりのある体になるでしょう。

## 石井洋行兄（二年目）

自分ではやせているつもりですが、人はデブと言います。風呂屋で見る自分の体はなかなか〝ナウイジャン〟と思うのですが、人は想像するのもおぞましい、特にフトモモが……。と言います。フトモモの奇形児石井でした。

✾　✾　✾　✾

二階の部室に上がっていくと兄が白いジーンズをはいてモソモソ踊りを踊っている。「石井サーン、カックイイですねェー」すると兄曰く。「パッチはオレにとってお手元のようなものさ」兄は実に愉快で兄がいるところには常に笑いが渦巻いている。兄は柔道二段とあって実にたくましい。正に大地に立っているという感じ。（あの砂のつまったひょうたんのような足で。）中味もなかなかと暖みのある先輩で意外と後輩のことを細かいところまで面倒をみてくれる。しかし、最近純情な某氏の欠点を指摘してはやしたてている。危険だからやめた方がよろしいと思いますが。

✾　✾　✾　✾

飯野とともに、かの島村兄と同じ芝高出身。しかも柔道部出身。マラソンではいつも平田妹と死闘を展開している。コンパでは飯野とコンビで、先輩の癖をまねしては、いつものうさをはらしている。それはさておき、なんと恐ろしいことに、彼はナルシストなのです。あの特徴ある口唇でナルシズムの世界にひったっている彼を想像してごらんなさい。あなおぞましや。

## 斉藤牧人兄（二年目）

「僕は二十歳だった。それが人の一生でいちばん美しい年齢だなどとはだれにも言わせまい。」なんてことを言った気障なおっさん

がいたそうです。あなた、どう思いますか。

✾　✾　✾　✾

最初兄の他己紹介の原稿を依頼されたとき、何を書こうかと迷ったのですが、そのころ、漫才界にあるスターが登場しました。そうあの〝おぼん、こぼん〟なのです。双子ではないかと思うくらい、たいへんよく似ているのです。髪型を同じにすれば、絶対に区別ができなくなるのですが、兄ははじめて〝おぼん、こぼん〟をテレビで見た次の日、髪を短くしてしまいました。まったく残念なことです。

また兄は最近、自動車学校で苦労しているようです。この部報が発行されるころまでには、ぜひ免許証を手に入れてくださいね。

✾　✾　✾　✾

彼は寡黙である。いつも何かを思い考えているような顔をしている。そう、彼は悩み多き青年なのだ。いつまでたっても卒業できない自動車学校のこと、落としそうな数学の単位、はたまた晩めしをどこで喰おうか、まるあか、平和か、ああ、どうすればいいのだろう。うーん。（といってうつむいてしまう。）

そんな彼ではないのです。頭の中はきっと疾風のことでいっぱいなのです。長身を生かした旺盛な推進力でトキを、クラブを、どんどん推し進めて下さい。

## 間　正　理　恵　姉（二年目）

見てのとおりの人間ですが、人の知らない事実を二・三付け加えるなら、教室では「コックリさん（二世）」と呼ばれ、理学部一帯では広く「ゴム長の女」として知られ、日に四食をたいらげる。

生物学の底の深さと、頂の高さに気圧されている。馬術もしかり。

Art is long, life is short.

なんだって私は、こんなに難しい道を選んだのだろう。

✾　✾　✾　✾

食べ物に関する知識について彼女に勝てるものはいない。なぁーんでも聞いてちょうだいというぐらいポンポン色々な食べ物に関する裏話を教えてくれる。ただ、喰う専門家で、つくることはできないようだ。

最近、皆んな間正しゃべりに慣れてきたせいか、彼女のいうことで傷つく人がいなくなってきたようだ。しかし、彼女の燃える目がなくなってきたようだ。どうしたの、間正さん？

✾　✾　✾　✾

君たちは間正病というものを知っているか？　何でも目をあけてままどんな所ででも眠ってしまう病気である。この病気は夕方になるとでてくるそうで、しばしば××を忘れて……。まあ、ともかく一年目にとっては、最も恐しい先輩のようです。ライトとピーターの二頭乗りは大変だと思うけど、持ち前の怪力と食欲でがんばって下さい。間正さん、間性さん、いや、やっぱり魔性さんかな。

## 増　田　美希夫　兄（二年目）

最近、何をやっても駄目である。部員の皆様には多大なる迷惑を

かけてしまった。もっと自分から道を切り開いてゆかねば。

♆　♆　♆　♆

怠慢部員の聞こえ高かりし兄も、今や主務。気のよい兄は、けっこう一生懸命やろうとしているが、どうなることか。二年目の中では一番最初に免許をとり、八十万だかの新車をもち、もう何回も事故っている。こう書くと遊び人のドラ息子のようであるが、当たらずとも遠からじであろう。そんな兄も最近変わりつつあるようにも見える。（ホントカナ）苦しみも喜びも正面から受けとめて、がんばってほしい。

♆　♆　♆　♆

必殺遊び人トリオの一角の彼でしたが、近ごろは、必殺遊び人コンビの一人にのし上がってきたようです。

しかし、彼はここ数年来上級生がやってきた主務の座にはや二年目にして着くという快挙をなし遂げ、遊びは、ほどほどにという日々が続いているようです。又コンパでもあばれたりはせず、ひたすら自分を隠そうとしているようです。でも彼には、結構ナイーブな面もあるのです。今年は、名馬ドンポッパーにまたがり頑張っているようです。又今年は主務として仕事もふえましたので、車も買いました。今年の大いなる飛躍を期待しています。

## 平　田　委久子　姉（二年目）

何かやり出すとそれしか見えなくなります。ちょっと前の事も、もう頭にはない。先の見通しなどとてもとても。今は、馬術部で精一杯です。ある日気づいたら一人取り残されていた、なんて事になりそうです。

♆　♆　♆　♆

丸いほっぺと丸いお尻が印象的な彼女です。その丸いほっぺを真赤にしながら、サーカスの猛獣使いのようにガキをあつかいます。又彼女の丸いお尻は、我部の男子の恐怖の的です。合宿でのトレーニングで彼女のお尻がモクリと動く時……。彼女のお尻を見送った男子がいったい何人いるでしょう。

♆　♆　♆　♆

いつも元気な姉ですが、最近姉には子供ができたようです。鼻の中に入れても痛くないほど可愛い様です。しかし、姉が子供（ガキ）を叱るときは正視できないほどで姉の口から訳のわからない言葉やパンチやケリが連続的にガキにぶつけられるのであります。それでもやさしい時もあるようです。でも母親だったら子供の大事な所もキレイにしてやらなければだめですよ。

（注　子供・ガキ＝北雛号）

## 佐　粧　摂　也　兄（一年目）

僕、佐粧です。一年目の中で、二番目に早く馬術部に入部しました。それだけに、馬に掛ける情熱は他の一年目が束になっても、僕に負ける者はいません！　ところで一月の某日、生協から馬場に来る、ほんの四・五分の間に吹雪の速達便を貰いました。エーン、エーン、千葉に帰りてぇよーい。

✾　✾　✾　✾

兄は最近変身したようである。（肉体的に）まあ、そんな話はいいとして兄のギターのうまさはピカ一である。兄がギターを弾いているときは、まるで馬に乗っているときとは別人でカッコイイ。馬に乗っているときの姿勢からは想像もつかないのである。でも、もっと練習に出ればギターを弾いているときのようになるのですよ、佐粧君。

✾　✾　✾　✾

一年目の中では、おもしろい奴の一人である。少々気持の悪い所もありますが。いつも彼と言えば、連想されることは、そう皆さんも御存知だとは思いますが、野グソの事です。そう彼は、便所でクソをするのが嫌いなのです。ふしぎな人ですネェ。青空の下でするのが趣味なのです。できれば近くに犬がいた方が、いいのです。そして、できれば近くに、トイレットペーパーがわりになる草が茂っている所がよいのです。

## 佐藤仁美姉（一年目）

はるばる九州からやってきて、口笛も吹けず、マラソンが大の苦手で、腕立て伏せが全くできない運動オンチの私が、馬術部生活を送り始めてからは、カマボコを運び、雪かきをし、トレーニングで鍛えられて、腕立て伏せのその回数も、二十回まで増えたというのは、やはり進歩でしょうか。

最近、各方面で自分の本性を知らされ、つくづく自分が恐しく思えるこの頃です。

✾　✾　✾　✾

この人はなんでこんなにかいがいしく働くのでしょうか？

妹の丸っこい顔には、ほほえみが、そしてやっぱり丸っこい体には、エネルギーがあふれんばかり。

我部の男どもは、妹のめんどうみのよさに、ただただ鼻の下を長くして、あのとても女とは思えん××とは大違いだとつぶやいています。

してまた、その飲みっぷりの豪快さと、飲むほどにさえるノドのよさはみごとの一語につきます。負けてるなぁ、ワ・タ・シ

✾　✾　✾　✾

あの、いつもニコニコの円い顔をアップで載せればそれで充分楽しい他己紹介になるとも思うんだが。

はるばる九州から、こども割引で寒い北海道まで一人でやって来たその根性を生かし、冬を乗り切って、よく笑い、よく食べて、すくすく育て元気な子。

## 世良健司兄（一年目）

それは時計の針が六時半を回る頃、白一色に包まれた馬場の中、背には冷たい星の視線、皮膚を切るような無情な寒気、マメのできた手の痛みをじいっとこらえつつ、雪かきに没頭するのがワタクシ。

✾　✾　✾　✾

なんといっても、

〝そうなんですョ、エヘヘ〟

というこの笑い方が特徴でしょう。

人はすべて得手、不得手のあるもの。この御人、どうもお酒がいけないようで。コップ半分のビールで、まっかな顔になって、

〝ちゃんと飲んでますヨウ〟

と、まだ空にもなっていないコップを自慢そうに差し上げて見せてくれます。では何か特技はといいますと、高校時代は美術部員だとか。絵筆をカメラに持ち替え、試合の度に大活躍。その写真は、芸術性が高く、スピード感にあふれ、部員一同感心するばかり。

❦ ❦ ❦ ❦

世良兄の特徴はなんとも、あのほっぺたとふくらはぎでしょう。「世良君、どうしたのそのほっぺ、虫歯かな？」「なんで二十八センチの長靴をはいているの。」結論「な～んだ、冬にそなえてダウンを入れているのか、納得々々。」

でも気にすることないよ。回りに似たような体型の持ち主がごろごろしているから。

## 高須哲男兄（一年目）

あれは忘れもしない昭和五十五年の三月三十日。北大に落ちた僕は、某私立大学に授業料を納め、大学生協の加入手続きも済ませ、新しい生活に備えていました。すると、一通の電報が届いたのです。それは六十八文字に及ぶ、長いものでした。曰く、「アナタハゴウカクトナリマシタ……」。受験勉強が終った事への安堵感に浸っていた僕の周囲は俄に慌ただしくなりました。何とか入学手続きを済ませて札幌に着いたものの、大学近辺の下宿は全て満室だし、学生証には㊟と判が押してあるし（あっ、これは間違いでした）……。

思うに、入試でもう一点取れば合格していたのではないでしょうか。そして、あと一点悪ければ、追加合格にもならなかったのでは……。いや、ひょっとしたら内申書、いや、願書の顔写真の差で不合格になったのかもしれません。

でも、入ってしまえばこっちのもの。北大の馬術部に入れて良かったなあ。西宮に居たらどうなっていたやら…（関学馬術部さん、御免なさい）。

❦ ❦ ❦ ❦

神戸高校出身。あの桑田先輩の後輩で経験者だが、一年間のブランクを取りもどすのに苦労している様子。人あたりが良くて、また責任感が強く、与えられた仕事は文句も言わず一生懸命やっている。上級生にとってありがたい存在だ。農家にあこがれているらしく、酒を飲むと三田市農協賛歌を口にしコンバインに乗って稲刈りおどりを披露する。その気があるなら北海道には喜んでむかえてくれる所がいっぱいあると思うよ。また、泊る所がないからといって電話ボックスで寝たりすると、今度こそ新聞に載るよ。「浮浪者、電話ボックスの中でみじめな凍死」と。

❦ ❦ ❦ ❦

我が馬術部の中でも、兄ほど異性、いや同性に対する趣味が異なる人はいないであろう。最近は一年目のN兄を射止めようと、いつもいやがる彼を追い回し、大胆に迫まっている。さらにおどろいたことに、N兄の仙台に別居している妻にいやがらせの手紙を出してなんとか別れさせ、N兄を一人占めしょうとたくらんでいるのだ。

日頃は女性らしさを強調している兄も練習中は一応男で通しているようです。もうすでに二十才を過ぎ、若かりし頃の思い出にひたり、一年目の平均年齢を一人で高めている兄ではあるが、持ち前の人当たりの良さ、人生経験の豊富さ、色気で副務という仕事を立派に務めて行くことだろう。

## 名越正奏兄（一年目）

馬術部内で、僕ほど兄姉に恵まれた人はいないと思います。末っ子の僕は、クラブでも最年少。若さで勝負!!

今年は、弟や妹がいっぱい入って来ないかなー。

♆　♆　♆　♆

何から書けば良いのだろう。兄を一言で書き表わすなんて出来っこない。まさか、前歯以外は全部乳歯で、全然使えない男で、体育会のガンで、諸試験はすべて玉砕で、なんて書くわけにもいかない。困ったぞ……（と数時間悩んだ後、私は筆を執った。）……兄を一言で書き表わすなんてとても出来ませんが、思いつくままに書いてみます。兄は前歯が他のはえかわった歯よりも特に発達しており、来るべき食料難に見事に適応した肉体を持っています。又、表面的には、余り仕事をしていないと思われている為、非常に損な性格をしています。現に、体育会に於ても、他の会員の間で、「能あるタカは爪を隠しっぱなし」の諺は兄の為にあると、もっぱらの噂だそうです。又、学習面に於ても、北大に末永く在学していたいがためにわざと勉強しないような人なのです。（クスッと笑いながら、私は清書をするのであった。）

♆　♆　♆　♆

最近彼はシブくなった。顔は小学生だと言われても、文鎮のような重さを感じさせる雰囲気が漂っている。ニッと笑うとビーバーのような前歯が二本ニュッと出てきて、やっぱり小学生のようだけど。北大の体育会でもまれ、畜大の冬合宿でもまれ、彼も成長したんだろうなぁ。畜大の連中があきれるほど大酒飲みになったのだから。

## 野中道夫兄（一年目）

馬達は走ってくれる。息をきらし、鼻息も荒く、厳寒の中でも、汗をビッショリかき、おまえたちは走ってくれる。時には、足の痛みに耐えながら、肩の痛みに耐えながら、苦痛に顔をゆがませながらも、障害にむかっていく。

そんなおまえたちに、僕は、何をしてやっているというのだ。おまえたちは言うかもしれない。「せめて、暖かい寝床と、おいしい食事、そして太陽の光をいっぱいにうけて、自由に走りまわれるわずかな時間を。」と。

馬術部生活一年目、頭ではわかっていても、自らの弱さ故に、行動にうつせなかった事のみ多く残った一年間。そのしわよせは、すべて馬達へ。「許しておくれ。」の一言を、行動に変えて、明日からと言わず、今日から……。

♆　♆　♆　♆

入部当時、天龍山に一目ぼれし、白いウインドブレーカを嫌われ

たり、かみつかれたり落されたりしながらも、セッセと曳き馬手入れにかよって来ました。あんまり一生懸命で、そのうちすり切れてしまうんじゃないかと心配しましたが、最近は少々気を抜くことも覚えたみたいです。心も体も若干固さが残る兄ですが、頑張ってはやくみんなをおびやかす存在になって下さい。

彼は一年目で一番の勤勉少年なのです。朝の点呼の時など、「彼の場合は、たとえ返事が無くても出席と書いてしまいそうになる」と、馬責を努めた某先輩が言っておられました。

また、彼は一年目唯一の妻帯者です。国勢調査の時にも、ちゃんと「配偶者・一名」と書かれていました。彼の手帳には、学生証や生協の会員証と共に、妻の写真が数枚はいっています。日高合宿の時に、騎乗日誌を書くのと同じくらいの時間を費して、手紙を…しかも毎日…書き続け、朝のランニングでは「せんぱぁい、僕だけもう少し先の郵便局まで走っていいですかぁ?」と言ってダッシュする姿は忘れられません。彼が三年になって日高合宿の引率者となったら、毎朝、郵便局までのランニングをすることでしょう。

幸せな野中くん、「心の妻」が本当の妻になる日も近いのでは?

「おい町田ブーション。おまえは○○だから××をやっておけよ。」

「え!どうしてですか。ちがいますよ。」

彼のそばにいるとこんな会話をよく耳にする。すると必ず先輩から次のように言われる。

「まったく。おまえは使えないやつだな〜。素直にはいと言えばいいんだよ。」

四年目のM兄とともに競馬ファンの兄は、生活費がなくなりかけると、馬券を買って食いつないでいくという、みごとな生活を送ってきました。

ランニングに於ては、「○○さんになんて、僕、勝ったことがないですよ!」と誇らしげ(?!)に語り、その精神が、OB諸兄にかわれているようです。

数理系の天才であり、やさしい兄です。

## 町田雅人兄(一年目)

馬術部でもやはり、マラソンは必要なのだそうです。少なくともクラブの中で走るときには、後をふりかえったときに、だれもいないというようなことがないくらいにはなりたいと思っています。

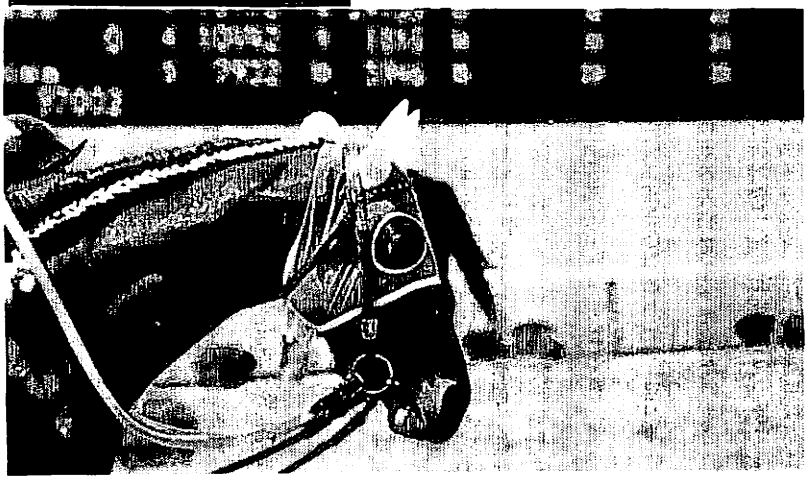
# MAY CRAFT ORIENT

メイクラフトオリエント

国内唯一
馬具総合メーカー

**本　　社**　北海道歌志内市神威２６４
ＴＥＬ (代) 012542－２０１４
**東京出張所**　東京都港区三田３丁目４－５
ＴＥＬ　03 (454) ５７５３

競走馬の専門紙



ご宴会、ご商談、種々の会食にご家族様で……
お座敷とホールでお会合にどうぞ

サッポロ生れ育って46年
中華料理の専門店 **克美園**

さっぽろ中央区南3西3都通り 克美ビル1F
☎231－4934㈹

TOKYO INAGEYA
有限会社 **東京稲毛屋**

代表取締役 広山二郎

東京都渋谷区神宮前6－11－4
TEL 03－400－5929

**習うなら近いのが一番!!**
地下鉄麻生駅・北34条駅から歩いて5分!

技能試験免除の北海道公安委員会指定校
**麻生自動車学校**
北区北36西5 ☎721-5251

北大病院前 ¥1,500よりコンパ歓迎

お好み焼きハウス
**ぢゅうぢゅう**

札幌市北区北14西4丁目 ☎731－3718

軽食・喫茶

木曜館（もくようかん）

札幌市中央区北７条西15丁目
☎643-8974
AM10：00～PM10：00

※木曜日には、アイス・クリームのサービスがあります。

寿司、鍋もの、天ぷら（出前迅速）
各種御宴会・御合会等承ります。

大将鮨

北区北十八条西四丁目
TEL 七四二－七二〇二

北海道名物
ジンギスカン・焼鳥専門

義経本店

北18条西４丁目
☎721-1723

各種コンパにどうぞ。

焼鳥専門店

鳥やん北24条店

北24条西４丁目 ☎704-5085

靴、履物一式、販売
くつ修理

あしだ靴履物店

〒001 札幌市北区北十八条西四丁目
電話 七二一－四九一七番

コンパ、クラス会に
雪印パーラーの
三階会合席を
ご利用下さい。

1,500円より種々調製
致します。

5.6人様より70名様まで

雪印パーラー

中央区北3条西3丁目
☎251-3181

和洋酒・煙草・食品

川端商店

札幌市北17条西4丁目
☎七四二—〇三八八

江戸前
割烹 一品料理
政寿司

本店 小樽市幸町見附
電話 ㊐〇〇二 ㊋〇〇一一
支店 札幌市南三条西三丁目小路
電話 (511)〇〇〇〇 (511)二〇三七

ラーメンなら
北龍

北18条西6丁目
TEL742—1376

●学生さんにはジャンボな
にぎりで、ネダンは同じ。
●コンパの予算は
一、五〇〇円～三、〇〇〇円まで
午前十一時三十分～午前二時

舌鼓
鮨の正本
北一六西四北向　☎七四一―四二三一

手造りのパン
洋菓子
有限会社 ジュウジ屋
札幌市北区北17条西4丁目
電　話 741―5332

産科・婦人科
田畑病院
院長 田畑武夫
札幌市中央区南五条西二丁目
☎五三一―七七七〇

環境測定調査（大気・水質）
測量調査・海洋観測調査
都市計画・交通計画
日本データーサービス株式会社
本社　札幌市東区北十三条東十五丁目
高木ビル2F
TEL 七八二―一六六五

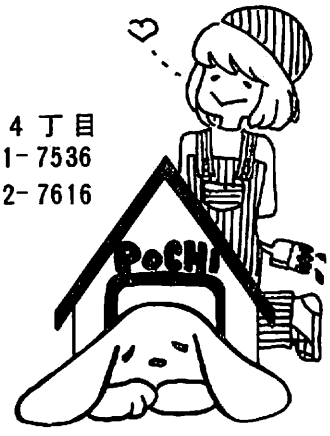
学生の皆さん、販売、修理を割引
致して居りますからどうぞ。

# 高橋時計店

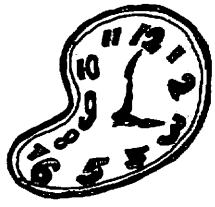
札幌市北区北十八条西四丁目南向
北十八条地下鉄駅前
TEL 七四二―七八四六

プロから日曜大工までたよれるお店。

# 株式会社 平田金物店




北18条西4丁目
☎711-7536
☎742-7616



COFFEE 軽食

自由人舎 時館 JIKAN

生ビール
900円で飲み放題

サッポロ北区北16条西4丁目
☎721-0158

心を豊にする……
古書の店

# 弘南堂書店

北12条西4丁目
TEL 七一一―九四二九番

馬術部にいちばん近い古本屋

古書・北方史料・基本図書

ふるほんの

市英堂書店

古本買入

4丁目店／北18西4　トミイ18プラザ
721－7327
5丁目店／北18西5　753－0683

ラーメン専門

味自慢

秀風

札幌市北区北20条西5丁目

☎721－6664

LIQUOR
& FOODS 北22条 よこやま

札幌市北区北22条西5丁目
TEL 711－3593

みんなで語ろう……Pub SANLORD

サンロード

札幌市北区北18西4　☎711－3759

とんかつなら 味の

とんこ

北区北18条西5丁目　TEL 742-5809

12PM

つちの酒店

TEL 711—2575

月曜定休日

ススキノの夜を憩う

ぼんち

焼き鳥

ススキノ南6西3
三共ビル1F

学生さん大歓迎!!

TEL
512—2929

ラーメン・焼魚・焼肉・定食、各種

出前迅速

平和食堂

北区北18条西5丁目　☎711—2671

自家製造(そば・うどん)各種丼物

# まるあ食堂

馬術部が年中出前応援中

★是非一度御来店下さい。★

酒10本で1本サービス！

鉄板焼
焼そば
お好み焼

居酒屋 ちえ

北17西4　カネサビル　TEL 741—3136

ボリューム満点
コンパもできます。

やきとり きよた

札幌市北区北17条西5丁目北向　電話742-7000

馬もびっくり！
ススキノにこんな安い店が……

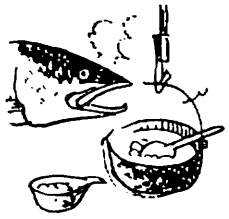
食協 根(ね) 惚(ぼ) 気(け)

お気軽にどうぞ
ススキノ　南四西三 仲町通り　TEL 512—1527

# ご宴会は屯田の館でドーンとやろう！

忘年会・新年会・歓送迎会・その他の会合

〈税金・サービス料込〉20名様以上の宴会には酒（ドブロク）1升サービス



新鮮な魚介類と北国の山の幸を存分に使った屯田の郷土料理で、楽しいご会合にご利用下さい。
　収容150名様まで。幹事さんのご予算に合わせて調理いたします。今後共、一層のお引き立てを　どうぞ

年中無休　開店午后5時～11時まで

北国の郷土料理（140名様）
**屯田の館**
さっぽろ 狸小路6 ☎241-2700

北国の郷土料理
**屯田の館 南4条店**
☎512-6553

北の味の土産処
**屯田舎**
本店階下 ☎221-0522

# 安全・親切・快適

全日空限定乗合・一般観光貸切・一般乗用の

## 北都交通株式会社

取締役社長　武　田　忠　幸

本　　社　札幌市豊平区月寒中央通り11丁目7-46
☎853-2191

ハイヤー営業所　札幌市西区八軒10条東5丁目
☎代表711-4181

貸切バス予約センター　札幌市豊平区月寒中央通り11丁目7-46
☎853-2181

# 編集後記

〝今年こそは絶対に4月発行を実現するぞ！〟との意気込みもはるか遠くへ去ってしまいました。やっぱり今年も結局昨年と同じ時期になってしまいました。御協力下さったOBの方々、広告主の方々、部報の発行を心待ちにしているOB並びに現役部員諸兄姉には全く申し分けありません。

部報の内容も年々マンネリ化の傾向にあり、OBの方には、もっと新企なものを一つという御要望も強いのですが、今年もほぼ例年の傾向を守る形になりました。部馬の写真は馬格のわかるようなものをとの希望が強かったので、そのような写真を撮るよう努力いたしましたが、馬の姿勢が正しくないとの御批判がさっそくありました。色々と御批判はあろうと思いますが、日時も遅れていたためそのまま掲載いたしました。御了承下さい。

なお、部員の文筆の中にも楽しいもの、感銘を受けるもの多々あります。どうぞじっくりとお読み下さいますようお願いいたします。つたない編集ではありますが、やっと発行までこぎつけ、ほっとひと安心しています。御協力下さった皆様方には、本当に感謝いたします。紙面をかりてお礼申しあげます。

なお、年度改まった7月、新馬2頭を入厩し、現在部馬12頭部員27名で頑張っております。今後とも御支援とご協力をお願い致します。


編集責任者　佐藤・野中
編集委員　一年目全員
表紙カット　世良　健司

部報　第二十六号
昭和五十六年七月　発行
発行者　北海道大学　馬術部
札幌市北区北十七条西六丁目
北大体育会内
☎（〇一一）七一一―二一一一
内線　五五九七
編集者　部報編集委員会
印刷所　北大生協北大印刷
非　売　品

ご予算は…？内容は…？おまかせ下さい!!

味とまごころでご奉仕

仕出し料理 株式会社丸仲 中一

慶弔用仕出し・慶弔用特製弁当
給食弁当・会席弁当・折詰弁当
レジャー用弁当・寿し弁当
折詰料理・オードブル

札幌市北区北18条西4丁目(18条ハイツ地下)
事務所／北区北18条西5丁目
☎711－5045

社会保険・国民健康保険
老人医療・生活保護法 指定医

庄内歯科

歯科医師 庄内貞夫

札幌市白石区本通2丁目北81番37号
☎861－2504

《広告主への感謝のことば》

このたび、昭和55年度北大馬術部部報発行に際し絶大なる御援助をいただきました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げるとともに諸社・諸店の御繁栄を祈り、ここに深く感謝致します。

(北大馬術部)

ma itt.